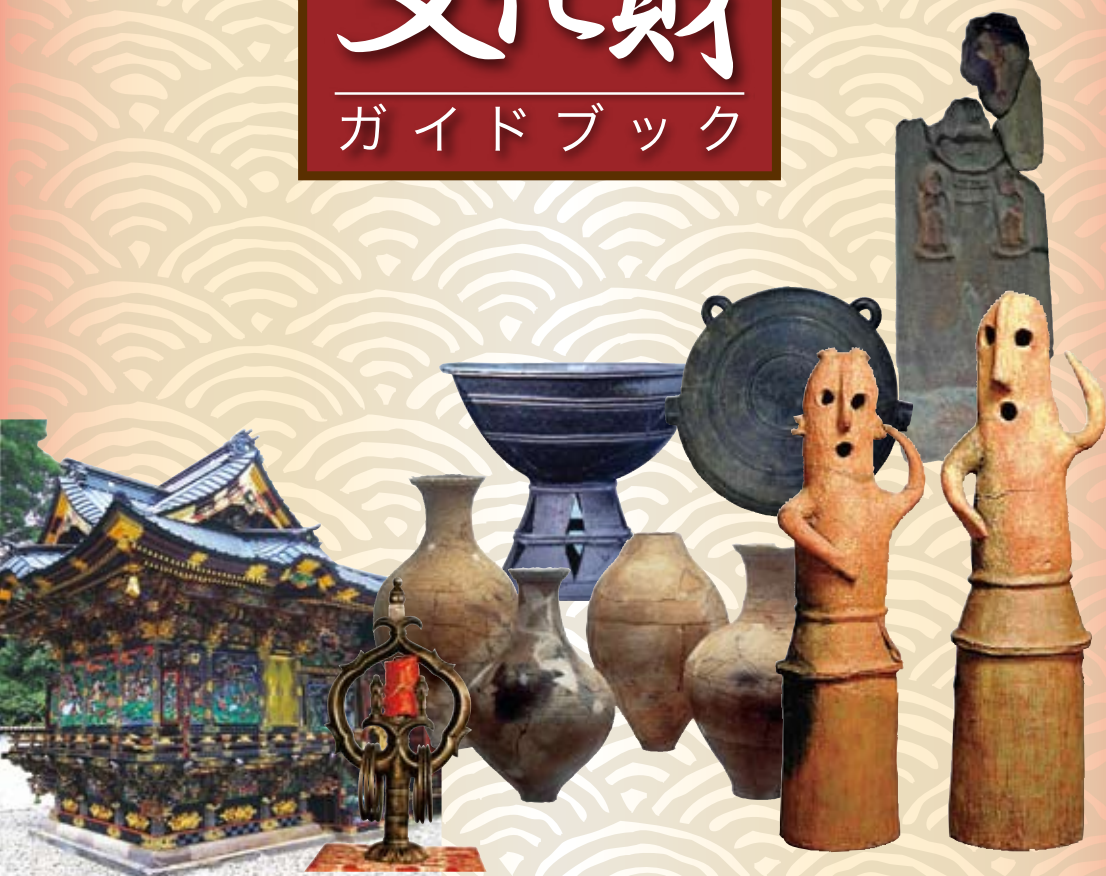




熊谷市誕生 10 周年記念事業

熊谷市 文化財

ガイドブック



刊行にあたって

平成27年度は、新熊谷市が誕生して10周年となる節目の年であり、様々な記念事業が実施されました。この記念すべき年に、関係各方面からの絶大なる御支援のもと、継続して行ってまいりましたラグビーワールドカップ2019の招致活動が実を結び、熊谷ラグビー場での大会開催が決定しました。ラグビータウン熊谷を世界に向けてアピールする機運が高まっております。また、農業の未来を担う若者たちの育成機関である埼玉県農業大学校が開校するなど、まさに新たなステージの扉を開け、大きな一歩を踏み出した一年となりました。

本市では、将来にわたって活力あるまちを維持するために「熊谷市人口ビジョン・総合戦略」を策定し、わがまち熊谷により愛着を感じていただけるよう、また、市外にお住まいの方からは、「熊谷に住んでみたい」と思っているような施策を盛り込みました。本市の持続可能な未来を構築することを目指し、県北地域の中核的な役割を担う魅力的な都市として輝き続けるよう、「ひとを大切に」「まちを元気に」「みらいを拓く」をまちづくりの基本姿勢として今後も様々な取組を進めてまいります。

その中でも、本市の歴史を今に伝える多様な文化財と文化遺産はかけがえない存在であり、様々な政策と関係があるとともに、郷土の文化振興を進める役割を担っています。新たな市としての10年間は、文化財の分野では、妻沼聖天山本殿、「歓喜院聖天堂」の国宝指定や、常光院の仏画「絹本著色阿弥陀聖衆来迎図」の重要文化財指定、「西別府祭祀遺跡出土遺物」及び「諏訪神社本殿」の県文化財指定、熊谷うちわ祭「熊谷八坂神社祭礼行事」の市文化財指定などをはじめ、市内遺跡発掘調査での様々な成果もあり、文化財を通じた多様な取り組みが進められてきました。

こうした中で、熊谷市10周年記念事業としての「熊谷市文化財ガイドブック」の刊行は、多くの市民の皆様から興味関心を寄せられている熊谷の文化財の更なる啓発と情報発信が可能になると確信しております。本書を通じて、熊谷の文化財を知り、熊谷の歴史を未来へ受け継ぐための契機となることを願ってやみません。

平成 28 年 3 月

熊谷市長 富 岡 清

はじめに

21世紀に入り、「熊谷市」は2度の合併によって新たな一步を踏み出しました。この度、新市誕生10年を迎え、市内の文化財について分かりやすくまとめた「熊谷市文化財ガイドブック」を発刊することになりました。

本市の歴史の幕開けは、旧石器時代と考えられ、豊かな自然に恵まれる中で縄文時代から弥生時代へと連綿とした人々の営みがありました。古墳時代には国指定史跡「宮塚古墳」をはじめ多くの古墳が築造され、奈良・平安時代については、幡羅・西別府官衙遺跡群などの存在が確認されており、その当時の歴史を解明するための重要な遺跡に位置付けられています。平安時代以降においては、多くの武士団が出現し、熊谷次郎直実、斎藤別当実盛など後世に名を残す武士が活躍しました。江戸時代には中山道の宿場町として栄え、秩父往還などの街道、さらに荒川・利根川には渡船場や河岸があり、交通の要衝として発展しました。妻沼には国宝「歓喜院聖天堂」が建造され、日本を代表する装飾建築の美とその歴史を今に伝えています。近代日本が動き出して間もない明治時代初頭には、入間県と群馬県の一部とを合わせた熊谷県が誕生しました。明治から大正時代にかけて、多くの先覚者たちが、産業や文化など多方面で活躍し、熊谷地域の発展の基礎を築きました。昭和時代以降、本市は県北の雄都としての誇りとともに周辺の地域との調和を図りながら、躍動的な産業の発展と芸術文化の振興を進めています。

本市の歴史・文化を伝える国・県・市指定の文化財は、地域のアイデンティティを醸成する役割を果たしています。多様な文化財は、その地域の自然環境、歴史的に育まれた文化的・社会的活動の蓄積として極めて重要な市民共有の財産であるといえます。

今日、史跡や有形文化財のような土地や建物、美術工芸品に対する歴史的・学術的価値に基づく「文化財(Cultural Properties)」とともに、人間の生活や技術の継承と関連した文化財を広く解釈する「文化遺産(Cultural Heritage)」という概念が浸透しています。地域の歴史と文化を再認識し、文化遺産を活かしたまちづくりに結び付けることで、本市の未来をつくることにもつながると考えています。そして、このような文化財・文化遺産を保護し、活用していく中で、郷土の文化や歴史を学ぶことの大切さを子供たちに伝えていくことが、私達に課された責務であります。

このガイドブックを文化財保護や学術研究の基礎資料として、また、郷土の歴史や文化を理解するための一助として広くご活用いただければ幸いと存じます。

平成 28 年 3 月

熊谷市教育委員会教育長 野 原 晃

目次

1. 熊谷の歴史物語	5
2. 文化財の概要	8
3. 妻沼聖天山の文化遺産—歓喜院聖天堂の美	10
(1) 国宝「歓喜院聖天堂」	10
(2) 歓喜院聖天堂の彫刻	11
(3) 妻沼聖天山の建造物	13
(4) 妻沼聖天山の有形文化財（工芸品・書跡）	15
4. 熊谷の文化財建造物—時代を超えた建築の粋	18
5. 国登録有形文化財・建造物—モダン建物之美	25
6. 熊谷絵画史—熊谷を彩る百花繚乱の絵画	27
(1) 有形文化財の絵画と有形民俗文化財	27
(2) 熊谷にゆかりのある画家の歴史（渡辺華山・奥原晴湖・森田恒友・大久保喜一）	31
7. 工芸品の美と人々の祈り	38
(1) 有形文化財の工芸品と有形民俗文化財	38
(2) 熊谷うちわ祭と有形民俗文化財	42
8. 古の歴史を伝える考古資料—有形文化財・考古資料と埋蔵文化財	44
9. 仏像の美と人々の信仰—有形文化財・彫刻と有形民俗文化財	51
10. 書の有形文化財と有形民俗文化財—書跡と歴史資料	58
11. 文化財記念物と熊谷の歴史—史跡と旧跡	65
12. 文化財名勝の美—自然と歴史を語り継ぐ景観	76
13. 熊谷の天然記念物—自然環境とともにある文化財	79
14. 無形の文化財と伝統芸能—無形民俗文化財と無形文化財	83
資料1 熊谷市における国・県・市指定文化財一覧表	89
資料2 熊谷市の文化財マップ	94
編集後記 出典・参考文献	

- 〈凡例〉▶本書は熊谷市における国・県・市指定文化財、登録文化財について解説したものです。
- ▶本市に所在する文化財並びに管理者が市内に所在する文化財のほか、市外の博物館・図書館などで寄託保管されている指定文化財についても解説しています。
 - ▶所有者の意向及び管理・保存に影響を与えるなどの事情に鑑みて、全ての指定文化財は網羅しておりません。
 - ▶各文化財の名称については文化財台帳に基づき表記をしましたが、一部、便宜的に追記・変更したものが 있습니다。

●文化財愛護シンボルマーク

文化財愛護シンボルマークは、文化財愛護運動を全国に押し進めるための旗じるしとして、昭和41年5月に定められたものです。

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ときょう組みもの）のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。



1 熊谷の歴史物語

旧石器・縄文・弥生時代

熊谷での人々の生活の始まりは、野原の遺跡で発見された石器から、約 22,000 年前の旧石器時代にはじまったと考えられます。三ヶ尻、冑山、箕輪、千代などでは、縄文時代の遺跡が数多く発見されており、約 10,000 年前には、人々が近くに水辺のある高台で生活していたことがわかります。弥生時代に入ると、熊谷でも稲作が始まり、人々の生活は低地に進出していきます。紀元前 1 世紀頃の池上遺跡では、住居跡から炭化した米粒が発見され、上川上の北島遺跡では県内最古の水田や灌漑施設が発見されています。一方、台地上では千代や塩などで谷津田が開墾されました。また、飯塚、西別府の低地では東日本特有の再埋葬がつくられ、その後、上之や船木台では方形周溝墓がつくられるようになります。

古墳時代

熊谷では4世紀頃から塩古墳群（狸塚支群）の前方後方墳など、有力者によって古墳がつくられはじめます。冑山にある甲山古墳は、全長90m、高さ11.25mで、6世紀前半のものと考えられ、円墳としては県内2番目、全国でも4番目の規模を誇ります。古墳は埴輪を伴うものもあり、6世紀中頃の中条古墳群からは、国の重要文化財に指定されている短甲武人埴輪や馬形埴輪が発見され、野原古墳群からは「踊る人々」と考えられる埴輪が出土しました。また、千代では埴輪を焼いた窯跡が発見されています。三ヶ尻古墳群では古墳が複数現存しています。国の史跡に指定されている宮塚古墳は、上円下方墳という珍しい形の古墳で、古墳築造が行われなくなっていく7世紀末から8世紀初め頃にかけて造られました。

奈良・平安時代

奈良・平安時代になると、国が土地と人々を把握することを目的に、律令体制が整えられます。熊谷周辺は幡羅郡、埼玉郡、大里郡、男衆郡などに含まれたと考えられています。東別府・上中条・道ヶ谷戸の低地などでは条里制がひかれ、広大な土地が農地として整備されました。

8世紀頃になると、熊谷にも古代の寺院がつくられます。千代地区の寺内廃寺からは、金堂や塔の基壇や礎石、また「花寺」、「石井寺」、「東院」と書かれる墨書土器が発見されており、伽藍設備をとまなう、800m四方の規模をもった本格的寺院だったことが推定されています。また、西別府廃寺からも、瓦や墨書土器が発見されています。隣接する湯殿神社の裏手の湧水点からは、馬や櫛、勾玉などを模倣した石製品や土器などが発見され、水辺での祭祀が古くから行われていたことが考えられています。深谷市側では、幡羅郡の郡家（郡役所）跡が発見されていることから、この地が郡の政治中心地であったと考えられます。上之地区の諏訪木遺跡では、古墳時代から平安時代に続く水辺の祭祀跡が発見され、平安時代には大型の掘立柱建物を中心とした官衙（役所）的集落がつけられました。

延喜5年（905）に編纂された『延喜式』には、奈良神社、田中神社、高城神社、白髪神社などが記載され、古くから人々の信仰を集めていたことがわかります。

鎌倉時代

平安時代の終わり頃になると、熊谷には武蔵七党を中心とした多くの武士団が現れました（成田、別府、玉井、奈良、中条、箱田、河上、久下、熊谷、市田、楊井、肥塚氏等）。中でも熊谷次郎直実^{くまがい じろう なるみ}は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』^{あづまかがみ}や、この時代の軍記物である『平家物語』において、一の谷の戦いで平敦盛を討つ場面などで有名です。直実ゆかりのお寺が全国各地にあります。また現在、山口県萩市の熊谷家に伝わる「熊谷家文書」は、この時代の武士の動向を物語る貴重な史料として、国の重要文化財に指定されています。

更に、平家方として、源氏との富士川の戦いや、木曾義仲との戦いに参加し、本拠である長井庄に大聖歓喜天を勧請し聖天堂を開いたとされている斎藤別当実盛、鎌倉幕府評定衆として御成敗式目の制定に関わった中条家長、熊谷氏と縁戚関係にあった久下氏、鎌倉時代から室町時代にかけて活躍した別府氏といった武士たちが、熊谷を中心に活躍していました。

南北朝時代～室町・戦国時代

南北朝期を描いた『太平記』には、斎藤実永・実季兄弟が利根川を渡る場面が書かれており、この時代においても熊谷ゆかりの武士が活躍していたことがわかります。室町時代の終わりから戦国時代にかけて熊谷で活躍したのは成田氏です。「名字の地」である成田から忍城へ本拠地をうつし、小田原に本拠地を置く後北条氏の家臣として、豊臣秀吉の小田原攻めでは忍城に籠城し、石田三成を中心とする軍勢を防ぐなど活躍しました。成田氏の家臣団を記した『成田氏分限簿』^{なりた しぶんげんぼ}（市指定文化財）には、1,306 人の家臣が記載されており、その中には手島氏、久下氏などがみられ、熊谷ゆかりの武士達を中心に組織し大きな勢力を持っていたことが推察されます。また成田氏が熊谷町の長野喜三にあてた、木綿の売買や小間物の売買に関する古文書が長野家に伝わっています。この古文書から、城主から特権を認められた商人が活動するなど熊谷の地域が栄えていたことがわかっています。

江戸時代

江戸時代に入ると、熊谷は中山道の宿場町として栄えます。溪斎英泉と安藤広重が描いた浮世絵「木曾街道六拾九次」の「熊谷宿」の場面に、当時の様子が描かれています。また本陣や脇本陣、一般の庶民が泊まる旅籠や茶屋などの多くの店があり、熊谷宿が栄えていました。経済・流通の規模が拡大し、木綿織物や多くの農産物が売買されました。そして中山道だけでなく秩父街道などの脇街道や、荒川・利根川を渡る渡船場や、江戸との間を結ぶ商品流通の要所である河岸があり、交通の要衝として発展しました。市内の新島には1里（約4km）ごとに設けられた一里塚が今も残っています。

聖天山の再建もこの頃に行われました。享保19（1734）年に林兵庫正清によって設計図が作成され、享保20年から宝暦10年（1760）まで実に25年の歳月をかけて聖天山本殿（聖天堂）の再建工事が実施されました。

江戸時代、利根川・荒川の大河の流れる熊谷の歴史は、洪水との戦いの歴史でもありました。利根川、荒川の氾濫により多くの村々が被害をうけ、堤防普請や田畑の再開発など、農民を苦しめました。妻沼地区には、「水塚」と呼ばれる水防施設があり、これは屋敷地内

に盛り土をし、その上に蔵などの建物を設けたものです。当時水害に襲われたときに避難するための建物として、現在も残っている場所があります。

また、熊谷を訪れた著名人として渡辺華山わたなべ かせんがいます。かつて三河国（愛知県）田原藩の藩領だった三ヶ尻を、藩主の命令で当地を調査し、『訪臚録ほうろくろく』を著しました。そして、龍泉寺りゅうせん じの「双雁図」（県指定文化財）をはじめ、そのとき描かれた多くの書画が現在も華山ゆかりの地に残されています。

近代—明治・大正時代

熊谷は江戸時代から農業が盛んで、麦の栽培方法の改良に尽力した「麦王」権田愛三、養蚕に尽力した鯨井勘衛などによって技術革新がなされます。

養蚕の盛んな熊谷は製糸も盛んで「製糸の町」とも呼ばれ、多くの製糸工場が建てられました。江戸時代から有名になった熊谷での染色業は、明治に入ると技術が進み、その優秀さは京染めと比べられるようになりました。

また、竹井瀟如、林有章、根岸友山・武香といった多くの先覚者たちが、中央政界への働きかけなどを通じて、産業や文化など多方面で力を尽し、現在の熊谷の発展の基礎を築きました。女性先覚者としては荻野吟子があげられます。日本公許登録女医第 1 号となり、35 歳で東京・本郷湯島で開業しました。その生涯は小説などで広く紹介されています。

このように様々な分野で発展を上げていた熊谷には、江戸から大正にかけて多くの文人墨客がいました。歌人・安藤野雁、『江戸繁盛記』を著した寺門静軒、俳人・内海良大、書家・野口雪江、南画・文人画家として一世を風靡した画家・奥原晴湖、東京芸術学校（今の東京芸大）卒業し、「春陽会」の創立会員となるなど中央画壇で活躍した森田恒友、県下初の洋画団体である「坂東洋画会」を創立した大久保喜一などです。こうした多くの文人・芸術家にも支えられ、熊谷の文化・芸術は大きく発展しました。

現代—昭和時代から平成

昭和 8 年 4 月 1 日、県下 2 番目の市制を施行し、熊谷市となりました。熊谷の市街地は太平洋戦争が終わる昭和 20 年 8 月 15 日の前夜から未明にかけて、熊谷上空に飛来した B29 爆撃機による空襲を受け、市役所、公会堂、裁判所など主な建物を失いました。この空襲で、市内を流れる星川に多くの市民が飛び込み、火災の熱のため多くの犠牲者を出しました。空襲により市街地の 75% を焼失し、死者は 266 人という、埼玉県下で一番大きな被害を受けた熊谷市は、県下唯一の「戦災指定都市」に指定されました。

このように大きな被害を受けた熊谷市ですが、区画整理事業などによりまちづくりを行い、県北の中心都市として大きな復興を遂げました。その後も周辺の村々と合併を繰り返し、昭和 30 年にはほぼ旧熊谷市の市域となりました。昭和 30 年には、妻沼町、大里村、江南村も誕生しそれぞれ特色ある行政が進められました。昭和 57 年 11 月の上越新幹線の開通、昭和 63 年のさいたま博覧会の会場として、また平成 16 年の埼玉国体では、メイン会場として国体成功に多くの市民が力を発揮しました。そして、平成の大合併を経て、熊谷市は新たな時代を迎えました。

2 文化財の概要

文化財とは何か。

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民共有の財産です。このため国及び地方公共団体は、文化財保護法または文化財保護条例に基づき文化財を指定し、保護・保存を行っています。国は文化財のうち重要なものを国宝、重要文化財、史跡、名勝、天然記念物等として指定、選定、登録しています。地方公共団体においても、同様に貴重な文化財の指定業務や保護活動を通じて文化財の啓発を図っています。指定文化財に対しては、現状変更や輸出などについて一定の制限を課す一方、保存修理や防災施設の設置、史跡等の公有化等に対し補助を行うことにより、文化財の保存を図っています。また、文化財の公開施設の整備に対し補助を行うほか、展覧会などによる文化財の鑑賞機会の拡大を図るなど、文化財の活用のための措置を講じています。



国宝「歓喜院聖天堂」



市指定有形民俗文化財
「藍染絵馬」



市指定無形民俗文化財
「池上獅子舞」

文化財の種類

文化財の種類		解 説
有形文化財		■ 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などで、文化財としての価値が高く重要なものを指します。 ■ 有形文化財のうち特に重要と判断されるものを国指定の重要文化財に指定し、世界文化の見地から価値の高いもので、類まれな国民の宝たるものを国宝に指定します。
無形文化財		■ 演劇、音楽、工芸技術などの技や技法で、文化財としての価値が高く、重要なものを指します。歌舞伎や伝統工芸の技術はこの分野に該当します。 ■ 一般に言う「人間国宝」は、国指定の「重要無形文化財保持者」を指します。
民俗文化財	無形民俗文化財	■ 衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗慣習・民俗芸能・民俗技術のうち、文化財としての価値が高く、重要なものを指定します。 ■ 具体的には、獅子舞、踊り、能・狂言、人形浄瑠璃、祭礼行事などを指します。 ■ 無形民俗文化財のうち特に重要と判断されるものを国指定の重要無形民俗文化財に指定します。

文化財の種類		解 説
民俗文化財	有形民俗文化財	■ 無形の民俗文化財に用いられる衣服・器具家具などのうち、文化財としての価値が高く、重要なものを指定します。 ■ 具体的には、生産用具、生活用具、祭屋台、舞台、人形頭、獅子頭などを指します。
記念物	史 跡	■ 貝塚、古墳、都城跡、旧宅などの遺跡のうち、文化財としての価値が高く、重要なものを指します。 ■ 国指定史跡のうち、特に重要なものを特別史跡に指定します。
	名 勝	■ 庭園、橋梁、峡谷、山岳などの名勝地のうち、文化財としての価値が高く重要なものを指します。 ■ 国指定名勝のうち、特に重要なものを特別名勝に指定します。
	天 然 記 念 物	■ 動物、植物、地質鉱物のうち、文化財としての価値が高く重要なものを指します。 ■ 国指定天然記念物のうち、特に重要なものを特別天然記念物に指定します。 ■ 史跡と天然記念物の両方の要素を持った文化財を、史跡天然記念物として指定したものが 있습니다。 ■ 名勝と天然記念物の両方の要素を持った文化財を、名勝天然記念物として指定したものが 있습니다。
伝 統 的 建 造 物 群 (伝統的建造物群保存地区)		■ 周囲の環境との一体をなした上で歴史的風致を形成している建造物群及び環境で、市町村が条例等により決定した「伝統的建造物群保存地区」のうち、我が国にとって価値が特に高いものとして選定されたものです。 ■ 具体的には、宿場町・商家町・城下町・農山村などがあります。
登 録 文 化 財		■ 築後50年以上を経過した建造物で、意匠が優れているなど価値が高いものを登録原簿に登録します。規制が比較的緩やかで、保存しながら活用するのに適しています。 ■ 平成17年度から登録有形文化財の対象が、建造物以外の有形文化財(美術工芸品)にも拡大されました。 ■ 保存と活用が特に必要な有形民俗文化財を登録有形民俗文化財として、同様に記念物を登録記念物として登録する制度が、平成17年度に新設されました。
文 化 的 景 観		■ 地域における人々の生活及び生業並びに地域の風土により形成された景観地のうち、特に重要なものを選定します。この制度は、平成17年度に新設されました。 ■ 具体的には、棚田・里山・水郷などです。
埋 蔵 文 化 財		■ 埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡といわれている場所）のことです。埋蔵文化財の所在が知られている土地（周知の埋蔵文化財包蔵地）は全国で約 46 万カ所あり、毎年 9 千件程度の発掘調査が行われています。

3 妻沼聖天山の文化遺産—歓喜院聖天堂の美

(1) 国宝「^{かん ぎ いんしょう でん どう}歓喜院聖天堂」

マップ番号 ① C-6 ㊦

所在地：妻沼
時代：江戸

妻沼聖天山の本殿である「歓喜院聖天堂」は、平成 24 年 7 月 9 日に国宝として指定されました。

歓喜院聖天堂は、享保 20 年 (1735) から宝暦 10 年 (1760) にかけて、林兵庫正清とその息子正信らによって築造されました。これまで知られていた彫刻技術の高さに加え、修理の過程で明らかになった漆の使い分けなどの高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、またそのような建物の建設が民衆の力によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有すると評価されました。

日光東照宮の創建から百年あまり後、装飾建築の成熟期となった時代に、棟梁の統率の下、東照宮の修復にも参加した職人たちによって、優れた技術が惜しみなくつぎ込まれた聖天堂は、「江戸時代建築の分水嶺」とも評価され、江戸後期装飾建築の代表例です。



◆妻沼聖天山の概要



境内に入り、始めにお目見えする貴惣門^{きそうもん}（国指定重要文化財）をくぐり、参道を進むと右手に見えてくる老武者の像は、熊谷直実^{くまがいなおざね}や畠山重忠^{はたけやましげただ}と並ぶ、源平合戦の英雄で、聖天山を開いたとされる斎藤別当実盛^{さいとうべつとうさねもり}です。若者に侮られまいと白髪を染めて最期の戦いにのぞむ場面は有名で、戦前の小学校の唱歌にもなりました。

斎藤別当実盛像を過ぎると、北側に健康長寿観音が現れます。これは、関東ぼけ封

じ 33 観音の第 16 番札所の本尊です。さらに進むと、四脚門（市指定文化財）が現れます。聖天山は数回の火災に遭っていますが、四脚門は一番古くから残った建物で、400 年近く前の姿を残します。

四脚門をくぐり、仁王門の前から北へ足を進めると平和の塔が顔を出します。春は

桜、秋には紅葉が美しい場所です。平和の塔の脇を過ぎると、滝の傍らに軍荼利明王が見えます。滝は甘露の水を表しています。

境内の南にある歓喜院本坊前の板石塔婆（県指定文化財）は鎌倉時代のもので、長野県の善光寺の仏像様式に基づいていると伝わります。

四脚門、さらに仁王門をくぐると眼の前には、歓喜院聖天堂（国宝）が姿を現します。仁王門におうもんの左右に立つ金剛力士像は迫力があります。

歓喜院聖天堂かん ぎいんしょうてんどうは、鎌倉時代に建立された以降、火事などの被害によって数回再建され、現在の建物は、宝暦 10 年（1760）に完成しました。

この時の工事は、大工棟梁の林正清が統率しました。正清は、再建を企画し、優秀な職人を集め、お金を集めるため各地を回りました。工事の費用を負担したのは、幕府や大名、豪商ではなく、妻沼を中心とした民衆たちでした。しかし、道のりは平坦ではなく、大洪水などで中断を余儀なくされ、正清は亡くなります。

正清の子、正信によって、色鮮やかな彫刻で埋めつくされた壮麗な建物が完成するのは、工事開始から 25 年後のことでした。この聖天堂は、榛名神社社殿（群馬県高崎市）など後の北関東の建築に大きな影響を与えます。

工事が中断した原因の一つとなった利根川の大洪水によって、岩国藩（現在の山口県）が、利根川の復興工事を命じられました。藩士の中には、有名な錦帯橋（岩国市）の架けかえをした長谷川重右衛門がいました。造営中の聖天堂を見た重右衛門は、貴惣門きそうもんの設計を手掛け、正清に設計図を託します。この時から 100 年余りを経た嘉永 4 年（1851）、正清の子孫の正道まさみちによって、寺院の門としては県内最大級の貴惣門が、ようやく完成しました。

貴惣門の最大の特徴は、側面に三つ重なる破風（山型の部分）がある点で、全国に 4 例しかない特殊な屋根の形です。精緻に施された彫刻の数々も見どころです。

(2) 歓喜院聖天堂の彫刻



二つの鳳凰ほうおう

聖天堂は、奥殿と拝殿を中殿が結び付ける「榑現造」という建築様式を用いており、その三つの建築の各所に、多くの彫刻が施されています。

それらの彫刻は、上州花輪村（現在の群馬県みどり市）の彫刻師であった石原吟八郎を中心に制作されたものです。吟八郎は、日光東照宮の修復に参加したほか、北関東を中心とした多くの社寺建築に彫刻を残しています。この吟八郎の名は、江南地域の上新田地区にある、県指定有形文化財「諏訪神社本殿」の建築に際しての棟札下書きにも見ることができます。



鳳凰（北側）



鳳凰(南側)

18 世紀中頃以降、寺社建築における彫刻と彩色の技法は、装飾性を含んだ上で進展しており、その流れの中で技術を高めた吟八郎やその弟子たちによって、数多くの聖天堂の彫刻が作られていきました。

その中で、精緻を極めた彫刻の一例が、奥殿の外部における南側と北側に施された一対の「鳳凰」です。

この彫刻は吟八郎の次の世代である名工 2 人によって彫られたものであり、南側を小沢常信が、北側を後藤正綱が手掛けたとされています。2 つの彫刻の作風は異なり、常信作は、彫りの緻密さによって鳳凰の表情に厳しさを与え、正綱作は、大胆な彫りによって表面を立体的に仕立てています。

琴棋書画

聖天堂の拝殿、その正面には特徴的な彫刻がはめ込まれています。この彫刻の画題は「琴棋書画」と呼ばれています。琴棋書画とは、中国古来の文人における必須の教養や風流事を意味する、「琴」、「囲碁」、「書」、「絵」の四芸のことであり、日本では室町時代以降における屏風絵や工芸品の図柄などのモチーフとして多く見ることができます。

特に、海北友松や狩野探幽が描いた「琴棋書画図屏風」は著名で、東京国立博物館に所蔵されています。

聖天堂の琴棋書画の彫刻に目を向けると、左から「絵を見る子ども」、「碁を打つ人々」、「琴を弾く男」、「文字を読み書きする子ども」の順で配されており、彫られた人々の温かな表情が、見る人の心を和ませてくれます。

平成の修理工事では、塗装が完全にはがれていた碁盤の部分で、中国の元の時代に由来する碁石配置を参考にして描き直すなど、きめ細やかな彩色の復元が行われました。この琴棋書画の彫刻は、寺社建築の一部に置かれることはありますが、聖天堂のように、拝殿の正面という建築のシンボリックな場所に配置されることは、類例が少ないと言えます。

聖天堂と同じ権現造りの日光東照宮の「御本社」においては、拝殿の正面に荘厳な彫刻が飾られているところから見ても、聖天堂の彫刻の配置が特徴的であることが分かります。

龍などの威厳ある大きな彫刻ではなく、親しみやすい琴棋書画を用いたその彫刻は、聖天堂の特筆すべき点の一つです。



琴棋書画

さん せいきゆう さん 三聖吸酸

聖天堂の奥殿の南側上部、唐破風の下には、3人の聖人が一つの瓶を囲んでいる彫刻があります。これは、孔子、釈迦、老子が酢をなめて、その酸っぱさを共感している様子を表現したものであり、「三聖吸酸」という中国の故事に由来しています。つまり、酢が酸っぱいという事実は皆同じであり、儒教、仏教、道教など、宗教や思想が異なっているとしても、真理は一つであるという「三教一致」を意味しています。



この故事のオリジナルは、儒教の蘇軾と道教の黄庭堅という二人の書家が、仏教の仏印禅師のもとを訪れた際に、桃花酸という酢をなめ、三人が共に顔をしかめたという逸話に基づいています。

「三聖吸酸」は、寺社建築や屏風絵などの題材として使用されることがあり、日光東照宮における陽明門の彫刻や、海北友松の『寒山拾得・三酸図屏風』（重要文化財）などにおいても見ることができます。

聖天堂における三聖吸酸の彫刻では、三聖人が前方を向き、共に人差し指を立てながら、酸っぱさを確認するように口を小さく開けています。その表情はとても温和であり、親しみを感ずることが出来ます。

また、彩色に目を向けると、孔子の服装や中央の瓶、植物の彫刻などに使われている緑色は孔雀石を原料としており、その色合いからはとても落ち着いた雰囲気醸し出されています。これらの表情や彩色は、漆塗りされた周囲の木枠の中心に浮き上がり、独特の空間を作り上げています。まさしく、だれが目にしても「美しい」という事実がそこに存在していることが分かります。

(3) 妻沼聖天山の建造物

重要文化財〈国指定有形文化財・建造物〉

かん ぎ いん き そう もん
歙喜院貴惣門

マップ番号 ② C-6 ㊤

貴惣門は妻沼聖天山の参道の山門として建てられた重厚な八脚門であり、桁行 9.2m、梁行 5.2m、棟高 13.3mの規模を誇る国指定重要文化財の建造物です。構造の中で特徴的なのは、側面（妻側）に破風の屋根を三つ重ねた類例の少ない特異な形式であることです。屋根には瓦棒銅板葺が用いられています。

貴惣門の建立は、歙喜院聖天堂の大工棟梁であった林兵庫正清が発案、寛保2年





(1742)に利根川大洪水の復旧工事のために妻沼を訪ねた岩国（現在の山口県）の作事棟梁であった長谷川重右衛門が設計したことでも知られています。しかし、その当時は建設する余力が無く、約100年後の嘉永4年（1851）に、正清の子孫である林正道が棟梁となり設計より規模を大きくした上で竣工しました。彫刻は聖天堂に見るような極めて秀逸な技術を継承した上州花輪村（現在の群馬県みどり市）の彫物師、石

原常八らが担当しました。

総構造の建物全体には多様な技法を用いた細やかな彫刻が飾られ、江戸末期の造形技術の粋を感じることができます。聖天堂の建立以降の時代、社寺建築の彫刻に対する鮮やかな着色が控えられる傾向があり、それに代わり、より立体性や細密さを重視した彫刻技法へと進化を遂げました。貴惣門はその最高水準の代表例として全国的に高い評価を得ています。また、それぞれの彫刻には寄進者名が刻まれていることから、聖天堂と同様に民衆信仰に基づき建立された建造物であることが分かります。

熊谷市指定有形文化財・建造物

しきやくもん

四脚門（中門）

マップ番号 ③ C-6 回

室町時代の公家などの正門として多く建てられた様式に類推されます。高さ5.45m、桁行柱間 3.50m、梁行脚間 2.90m、丸柱の上部に知巻の施工があり、木鼻、斗拱、及び側面破風の懸魚など室町時代の建築以降の影響が見られます。屋根はもと茅葺でしたが、江戸時代末期に化粧垂木を残して大部分の修理が加えられています。聖天堂境内のうち最も古い建築物であり、甚五郎門とも称されています。



かんぎいんにおうもん

歓喜院仁王門

マップ番号 ④ C-6 回

妻沼聖天山、歓喜院聖天堂への入口に建ち、万治元年（1658）の創立と伝えられています。棟梁は林兵庫正清の子孫、林家五代目正道が担いました。構造は、五間三戸の十二脚門です。明治24年（1891）台風によるイチョウの倒木の下敷きとなり、倒壊し、同27年（1894）に再建されました。また、昭和57年（1982）に屋根を改修しています。



(4) 妻沼聖天山の有形文化財(工芸品・書跡)

妻沼聖天山にある有形文化財(工芸品・書跡)の宝物についてご紹介します。

長い歴史と共にある妻沼聖天山は、本殿や貴惣門などの建造物のほか、それぞれの時代にゆかりのある貴重な有形文化財を有しています。

重要文化財〈国指定有形文化財・工芸品〉

しゃく じょう
錫杖

■時代：鎌倉（推定）

寺伝によると斎藤別当実盛の外甥宮道国平が実盛の孫実家、実幹とともに建久8年(1198)、聖天堂の御本尊として、大聖歡喜天の御正躰錫杖頭を寄進したものとされています。

錫杖頭は鍔頭に五輪塔、鍔内中央部に双身の歡喜天像、左右に脇侍、鍔外に三日月形の四天王座を表し、鍔の左右に各三個の金輪を付したもので、僧侶、修験者の持つ錫杖の頭部を模ったものです。

建久8年、実盛の次男良応僧都は、聖天堂を改修するとともに、別当坊歡喜院を建立し、十一面觀世音菩薩を本尊として安置したと伝えられています。



埼玉県指定有形文化財・工芸品

ちよ し と ちよう
紵絲斗帳

■時代：戦国（埼玉県立歴史と民俗の博物館へ寄託）

寺伝によると忍城主成田長泰が厨子に懸けるために奉納したとされています。縦170cm、横147cmで日本の縹子にあたります(中国名紵糸)。濃い藍色の地に紅色で模様を織ったものですが、現在は紅色が褐色になっています。

銘文によると、嘉靖年間(1540年頃)の作で、どのような経路で日本に渡って来たかは不明ですが、日本の外交を知る上で貴重な資料といえます。荻生徂徠の『度量衡考』には、「嘉靖の古物也」と紹介されています。



埼玉県指定有形文化財・工芸品

わに ぐち
鰐口

■時代：室町（埼玉県立歴史と民俗の博物館へ寄託）

聖天山に暦応二年(1339)南北朝時代に奉献された唐銅製直径は31cm、陰刻された銘の外側に「暦応二年正月下旬」、内側に「武州福河庄聖天堂住也、大檀那当庄住人沙弥来阿」とあります。室町時代初期妻沼地域が「福河庄」と称されたことが分かる貴重な資料です。



いた いし とう ば
板石塔婆

マップ番号 ⑤ C-6 ⑧

Ⅱ時代：鎌倉

現在、妻沼歓喜院の敷地内に所在する「板石塔婆（善光寺式三尊像）」は、昭和 30 年（1955）頃この地に、妻沼小学校の校庭から移設され、自然石の台座上に建てられています。昭和 40 年（1965）に、県の有形文化財（考古資料）に指定されました。石質は緑泥石片岩であり、規模は高さ 178cm、幅 59cm、厚さ 12.5cm です。上部は通常の板石塔婆と異なり山型ではなく水平の形状となっています。表面には深く光背が彫り込まれ、蓮台に乗った阿弥陀三尊像が彫られています。主尊の阿弥陀像は高さ 40cm、脇侍の観音菩薩と勢至菩薩は共に高さ 30cm であり、主尊の頭から発せられる光背部には七体の化仏が表現されています。製作年代については銘文等が摩耗しており不明ですが、いわゆる善光寺式の阿弥陀三尊像の形式から鎌倉時代の中頃と推定されます。



なお、この善光寺式と呼ばれる分類は、信州善光寺の秘仏本尊を模した阿弥陀三尊像を主題とした彫刻であることに由縁があります。その特徴としては、全体を舟形の光背が覆っている構図や、三尊が立像となっていること、阿弥陀如来が「刀印」（下げた左手の人差し指と中指を伸ばし、他の指を曲げる）と称される独特の印相（両手の型）を示している点などが挙げられます。妻沼地域には、その他に能護寺に所在する市指定文化財「板石塔婆」など、善光寺式三尊像を表した板石塔婆が比較的集中しており、その理由や歴史的背景については今後の研究が待たれます。

熊谷市指定有形文化財・書跡

かつ かい しゅう しょ
勝海舟の書

Ⅱ時代：明治

歓喜院主稲村英隆と親交のあった山岡鉄舟（1835-1888）が師の要請により海舟に揮毫を依頼して納められた横額の書幅で、「鎮国利人 乙酉仲春 海舟」と書かれています。海舟は文政 6 年（1823）から明治 32 年（1899）の激動の時代を生き、76 才で没しています。乙酉仲春という表記からすると、明治 18 年（1855）で 62 才の時の作であると推定されます。幕末から明治に掛けて活躍した人として「国を鎮め人を利す」の表現は筆者の気風を表現したものであると考えられています。横 138cm、縦 31cm で横額を表装しています。

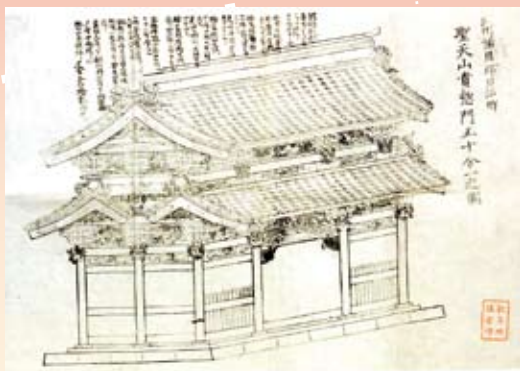


熊谷市指定文化財・古文書

貴惣門文書

時代：江戸

貴惣門の造営に関する一連の文書群です。この文書群には「組物彫物図」や「金物敷石図」などの細工物の設計図を含むとともに、貴惣門造営に関する勸進帳や、銅瓦の寄進に関する帳面、仁王門の造営のための寄付金に関する帳面などを含んでいます。このことから、貴惣門は聖天堂と同様に、江戸時代の民衆からの勸進・寄進によって造営されたことがわかり、これらの建造物群がまさに民衆の手によって造営されたことを如実に物語る文書群であるといえます。



「聖天山貴惣門五十分之一図」



熊谷市指定文化財・書跡

妻沼八景詩画幅

時代：江戸

画家豊洲の描いた妻沼八景の墨絵に寺門静軒が「妻沼八勝」と題して七言絶句八詩を讃として書き添えたもので、表装してあります。大きさは縦130cm、横61cmです。中国の瀟湘^{しょうしょう}の八景図から倣い、妻沼の四季の変化に応じた風景の良さが表現されています。静軒は、慶応3年(1867)には妻沼を離れていることからその前の時期の作であると推察されます。画家の豊洲については諸説ありますが、歓喜院所蔵の別の画幅には「藤豊洲」とあり、河田菜風がそれに該当しているとの説もあります。



4 熊谷の文化財建造物—時代を超えた建築の粋

重要文化財〈国指定重要文化財・建造物〉

ひら やま け じゅう たく

平山家住宅

マップ番号 ⑥ F-4

所在地：樋春

時代：江戸

樋春地内の荒川右岸に位置している平山家住宅は、江戸中期に建てられた農家住宅で、昭和 46 年（1971）国重要文化財に指定されました。平山家は、旧樋口村で名主を務めた旧家であり、現在も屋敷周りに堀や土塁が残っています。建物は、桁行 9 間（東西方向の幅 17.4m）、梁行 6 間（南北方向の幅 11.9m）の入母屋造であり、茅葺の屋根を持つ平屋建ての構造です。文化財の民家住宅としては県内最大規模を誇ります。江戸時代から約 10 回の改修が行われていますが、昭和 50 年代に実施された保存修理工事によってかつての様式に復元され、現在に至っています。西・南面は大屋根の下方に庇を重ね、重い茅葺屋根を強固に支えています。これらの庇は低く、東側は人間の肩に届くほどの高さです。吹き抜けの天井となる土間は、四十畳の広さがあり、そこにはカマドが築かれています。東側には馬を飼うウマヤが設けられています。室内に露出した梁組の素材には、巧みに補整された赤松材などが用いられ、建築構造の緻密さと豪壮さの観が調和のとれた建築物としては国内屈指の農家住宅です。現在では室内にてお茶会やコンサートも開催されるなど利用されています。



埼玉県指定有形文化財・建造物

かみ の むら じん じゃ ほん でん

上之村神社本殿

マップ番号 ⑦ H-7

所在地：上之

時代：江戸

上之村神社は、古くは久伊豆神社と称し、成田氏の崇敬が厚く、応永年間（1394～1411）に成田家時が社殿を再建したと伝えられています。江戸時代に入り、慶長 9 年（1604）に徳川家康から三十石の朱印地を与えられ、明治 2 年（1869）には村名をとって上之村神社と改称しています。

「上之村神社本殿」は一間の構造で前方に延びる曲線的な屋根を支える一間社流造であり、棟が高く、木の部材も太いことから実際の規模より壮観な印象を与えてくれます。かつて茅葺であった屋根は銅板葺に改装され、その屋根の曲線美は本殿建築の偉容を更に高めています。細部に目を向けると、梁や桁の上に置かれる墓股や、正面の庇の下部における手挟といった装飾部材などに、細やかな彫刻が施されています。特に、建物の上にて柱と柱を繋ぐ頭貫には、その四方に三個ずつの墓股が置かれ、十



二支の彫刻が美しく表現されています。梁の一種で虹のように湾曲した虹梁と呼ばれる部位には、渦模様や若葉の絵が彫られています。左右の屋根下には懸魚と呼ばれる木彫りの装飾が下げられています。

棟札などの建立に関わる資料はないものの、墓股や柱の隅に突出した装飾彫刻である木鼻の特徴から、17世紀初期から18世紀中頃までに建立されたと推定されます。建築当初の姿をよく残し、当時の建築様式を伝える貴重な建造物です。

埼玉県指定有形文化財・建造物

らい でん じん じゃ ほん でん と びら ひと くみ

雷電神社本殿付扉一組(2枚)

所在地：上之

時代：戦国・江戸

マップ番号 ⑧ H-8

雷電神社は、上之村神社の摂社です。本殿は桃山時代から江戸時代前期までのもので、上之村神社本殿より桁行・梁行とも70cm程小さいものの、構造については上之村神社と各部位で同じ様式が用いられており、一間社流造、屋根は銅板葺です。旧扉の銘文から、永禄元年(1558)忍城主の成田長泰が内陣の扉を修理して寄進したことが考えられます。



熊谷市指定有形文化財・建造物

かみ の むら じん じゃ と り い

上之村神社鳥居

所在地：上之

時代：江戸

マップ番号 ⑨ H-8

上之村神社の正面にあり、木造の両部鳥居です。平成7年(1995)の解体修理の際に、柱のほぞから、願主と大工の名前とともに、寛文4年(1664)に建てられたことを示す墨書が発見されています。笠木や控柱の上に板屋根を設けるなど耐久性も十分考えられた、市内最古の木造鳥居として貴重なものです。



埼玉県指定有形文化財・建造物

りゅう せん じ かん の ん どう

龍泉寺の観音堂

所在地：善ヶ島

時代：江戸

マップ番号 ⑩ C-7

龍泉寺は室町時代終期の僧である長海によって開山されたと伝えられています。観音堂は、円柱造り、床下は八角柱となっており、屋根は三間四方面形で銅板で被覆された屋根を形作っています。昭和44年(1969)までは茅葺でした。柱間は中の中を広く取り、江戸時代初期の特徴を表しています。また、和様と唐様を巧みに織り交ぜて、当時の端正な趣を保っている代表的な遺構のひとつに数えられています。軒廻りや、周囲の浜縁、本堂の中央に置かれた須弥壇などは、一部が修復されて現在に至っています。



埼玉県指定有形文化財・建造物

諏訪神社本殿

マップ番号 ⑪-I-2

所在地：上新田

時代：江戸

諏訪神社本殿は、当地の代官であった柴田信右衛門豊忠によって延享 3 年 (1746) に創建されたと伝えられ、その後、嘉永 5 年 (1852) に再建されました。創建時の棟札によると、「歓喜院聖天堂」の造営に深く関わった旧三ヶ尻村（現在の熊谷市三ヶ尻）出身の内田清八郎が大工棟梁となり、上州花輪村（現在の群馬県みどり市）出身の石原吟八郎が彫刻を担当しました。また、林兵庫正清が細工の意匠に関わる他、彩色は聖天堂と同じく狩野派の絵師が施し、高い技術力を発揮しました。檜皮葺の屋根は信州松本城下の太田松右衛門などに委ねられ、いわゆる当時の日本を代表する職人たちによって本殿の建立がなされたことが分かります。

本殿の構造は、桁行 1.47m、梁行 2.27m の檼造による一間社流造で、屋根の下には三角の形をした千鳥破風、軒の下には上部が丸く形作られる唐破風を付け、正面には屋根が張り出した向拝を設けています。現在、彩色の多くが薄れていますが、各所に施された人物や動植物の装飾彫刻から放たれる雰囲気は際立ち、実際の規模以上の風格を感じることができます。歴史を越えて保存されてきた本殿からは、渋さの中にも豊潤な芸術性が薫り立ち、江戸時代中期の熊谷地域が彫刻技術の最先端の地であったことを示す貴重な証となっています。



熊谷市指定有形文化財・建造物

胄山神社本殿

マップ番号 ⑫M-7

所在地：胄山

時代：江戸

埼玉県指定文化財「甲山古墳」の墳頂部に祀られている社殿が胄山神社本殿です。

社伝によると、慶長 13 年 (1608) の春に村人が剣や鏡、埴輪などを発掘したところ、その後まもなく村中に病が流行したことから、再び埋め戻し、

祟りを鎮めるために八幡社を置いたことが神社の創建であると言われています。

現在の本殿は、彫刻裏側に残る記述から、寶暦 2 年 (1752) の建立であると推定



されます。建造物の構造は本殿正面の二本の柱で流線型の屋根を支える一間社流造で偉容を高めています。建造物全体に彫刻が施され、精緻な破風を形作っています。彩色の大半は失われたものの、彫刻に注がれた高度な技法を目にすることができます。

本殿彫刻の製作は、妻沼聖天山本殿の国宝「歓喜院聖天堂」の彫刻を担った彫師団によるものと考えられています。

彫刻の特色に着目してみると、正面の破風に置かれた彫刻は、聖天堂の奥殿西面に飾られた「しば おん こうかめわりず司馬温交瓶割図」を彷彿とさせます。また、側面を中心に各所に配された樹木や枝葉の彫刻は、透かし彫りの技法が用いられ、聖天堂において数多く表現された植物彫刻との類似性が窺えます。

その当時進められていた聖天堂の工事は、水害の影響で寶暦 5 年（1755）まで中断しており、この間に彫師が青山に向いて手掛けていたことが推定され、聖天堂と青山神社本殿との技と美のつながりを感じることができます。

熊谷市指定有形文化財・建造物

もん じゅ じ に おうもん 文殊寺仁王門

マップ番号 ⑬ K-5

所在地：野原

時代：江戸

文殊寺は、古くは能満寺という古刹でしたが、室町時代の文明13年(1481)に焼失し、その2年後に高見城(現在の小川町)の城主であった増田四郎重富が再建しました。その際に知恵をつかさどる文殊菩薩を祀り、文殊寺と称したことに始まります。

その文殊寺の参道の始まりにたたずむ朱塗りの門が、「仁王門」です。建築様式及び弁柄漆を塗り合わせる方法などから、門の建立時期は、江戸時代中期であると推定されています。仁王門は八脚門の構造であり、屋根は二つの傾斜面が重なり合う切妻造です。門中の左右には仁王像が安置されています。

『新編武蔵風土記稿』(19世紀初頭)には、文殊寺の伽藍(寺院境内の配置)について、本堂や山門、仁王門などの約10棟の建物によって構成されていたことが記載されていますが、度重なる火災などで、その大半が失われ、当時の面影を残す建造物は仁王門だけとなっています。禅宗の寺院における伽藍の特徴を踏まえると、現在の参道の中程にある鐘楼門が、かつての山門の役割を果たしていたと考えられます。

なお、仁王門の屋根下にある破風板には、「蕪懸魚」と呼ばれる蕪の形を逆にしたような魚の飾りが付けられています。これは水と関わりの深い魚を屋根に懸けることによって、火災を予防するというものです。過去の度重なる火災から仁王門が守られたのは、この御利益なのかも知れません。



所在地：冑山

時代：江戸

江戸時代後期の寛政年間（1789～1800）に建てられた根岸家長屋門は、幕末に尊皇攘夷の志士として立ち上がった根岸友山と、維新後の国政や県政に深くかかわり好古家としても活躍した息子の武香の生家として、現在もその風格を残しています。



長屋門とは江戸時代における豪農や武家屋敷などの前面に置かれる門と居住空間を併せ持った建物です。根岸家長屋門は、その偉容や建築美から郷土の顔として多くの人々に愛されてきました。建物全体の桁行 13 間、梁行 3 間という規模は県内最大級を誇ります。建物の主材としてはケヤキ材を多用しており、屋根の瓦葺きや建物の側面を覆う漆喰壁は極めて技巧的です。平成 22 年（2010）に保存修理工事が行われ、建物全体の補修と共に外壁が原初の色と同じ鼠色に復元されました。また、この長屋門で特徴的なのは、出入口が建物の中央ではなく、右手東側に 1 間分寄せられた位置に置かれており、左手西部屋が東部屋の 1.5 倍の平面規模となっていることです。江戸時代、この西部屋は剣術道場の「振武所」として使用されました。現在、この部屋には「友山・武香ミュージアム」が開設され根岸家の歴史を学ぶことができます。



大里の好古家と考古学の幕開け

— 武香と開邦からモースとシーボルトへ —



明治 10 年(1877)、「吉見百穴墓群」から数 km 北方の斜面に位置する「黒岩横穴墓群」の発掘が行われました。この発掘は大里出身の名士が中心となって実施され、16 基の横穴墓を確認するなどの成果がありました。大里出身の人物とは、幕末の志士・根岸友山の次男として当主を担った根岸武香と、郷土史の資料として評価される見聞録『桐窓夜話』を著した須藤開邦です。

同じ年に、アメリカ人のエドワード・シルベスター・モースが大森貝塚を発掘していることを考えると、この横穴墓群の発掘は、当時の考古学の先端をいく試みであったことが分かります。武香は埼玉県会議長を初代の竹井瀟如から引き継ぎ、第二代議長に選出されるなど政治の分野で活躍しました。また貴族院議員として行政に尽力する中で、古物収集や考古学の分野にも強い関心を抱いていました。一方、開邦も地元の振興に力を注いだ素封家（財産家）に留まらず、明治時代の自由民権運動にも参画

するなど、社会事業を実践していました。「好古家」とも言える武香と開邦の先見の明が、地域の文化財保護や考古学の発展に大いに寄与したのです。

その後、大里地域での発掘成果に興味を持つ、多くの学者や武香との交遊があった著名な外国人などが根岸家を訪れています。その中には、大森貝塚の発掘のほか、日本の動物学に多大な貢献をしたモースと、フランツ・フォン・シーボルトの次男で日本の考古学を発展させたハインリッヒ・フォン・シーボルトがいます。近代日本の学術を先導した2人が、根岸家長屋門をくぐりぬけ、熊谷に新たな時代の息吹をもたらしてくれたことは、幸運な出来事として後世まで語り継がれていくことでしょう。

【根岸家関連の文化財】

熊谷市指定有形文化財・歴史資料

E・S・モース^{かんれん しりょう}関連資料

大森貝塚の発見で著名なエドワード・シルベスター・モースは、明治12年(1879)と明治15年(1882)の2回、好古家の根岸武香に面会するために青山を訪れています。その際に渡されたモースの名刺を所収した「人名録」に貼付されているE.S.モース及びW.S.ビゲロー名刺及び、武香からモースに土器片を寄贈し、それに対する「感謝状」及び関連資料、根岸家が所蔵する土器などをモチーフにモース自身が描いた絵画が保存されています。

これらの関連資料は根岸家とモースの関係を示すとともに、近代日本における学術的交流が熊谷の地でなされたことを明らかにする貴重な歴史資料として評価されています。



E.S.モース及びW.S.ビゲロー名刺



E.S.モースによる
根岸家への感謝状

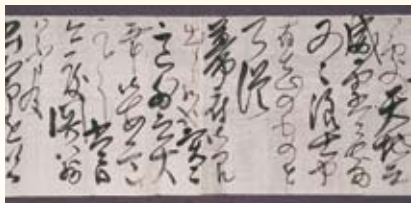


モース直筆画

熊谷市指定有形文化財・古文書

ね ぎ し け も ん じ ょ 根岸家文書

江戸時代に青山村(現在の熊谷市青山)の名主をつとめ、明治以降県会議長、貴族院議員などを歴任した根岸家の古文書5,193点です。近世以降、関東地方の豪農の成立と経営を物語る貴重な史料であり、近代の歴史学、考古学の黎明期を知ることができる史料としても貴重な文書群として評価されています。



◆人物伝◆

ね ぎし ゆう ざん 根岸 友山

文化6年(1809)～明治23年(1890)

—文武両道の教育に尽力—

根岸家は江戸時代の豪農として栄え、幕末期の友山は、16歳にして家督を相続し、名主となって村政を行いました。そして自邸内に「振武所」という剣術道場と「三餘堂」という学舎を開き、寺門静軒を招くなど、子弟の教育に尽力しました。

しかし荒川の堤防普請で、役人の不正を正すためにいわゆる「養負騒動」に加担し、厳罰を受けてしまいましたが村人の信頼が厚く、安政6年(1859)には赦免され、子弟教育を再開しました。

また友山は長州藩と親交があり江戸藩邸に招かれることもありました。幕末には、尊王攘夷論者であった友山は、浪士組に一時参加しましたが、隊の中の意見や主張の相違から途中で分かれ帰郷し、その後は村政に尽力しました。



ね ぎし たけ か 根岸 武香

天保10年(1839)～明治35年(1902)

—政治と考古学の発展に尽力—

根岸武香は天保10年(1839)5月15日、青山の地に、根岸友山の二男として生まれました。父と同じく文武両道に秀で、少年の頃より勉学を志して江戸に出向しました。武術を千葉周作の道場に習い、安藤野雁らに師事し、三餘堂に逗留した寺門静軒から影響を受けました。特に和漢の学に特筆すべき能力を発揮し、その関心は考古学や史学への研究に繋がることになりました。父、友山と力を合わせて皇道の復興に勤しみ、青山神社の再建などにも尽力しました。

嘉永3年(1850)、伴七と称して、村名主役を勤め、父と共に河川改修や治水に政治的才能を発揮しました。明治12年(1879)に最初の埼玉県会の議員に選出され、副議長を任じられました。翌13年(1880)、熊谷宿の竹井澹如の後をうけて議長に就任し、治水、教育、産業など幅広い分野に渡り県政に尽力し、同23年(1890)再び県会議長に互選されたのでした。

一方、また学問的な研鑽を積み、考古学への造詣が深く、古器物の鑑定に長じて、吉見百穴墓群の保存を進めました。その発掘に協力し、出土遺物を蒐集保存することに傾注しました。この考古学に対しての功績は顕著であり、黎明期の学術的基礎を形成した意義は極めて大きいと言えます。また著作物として、『皇国古印譜5巻』、『皇朝泉貨志1巻』を出版し、明治17年(1884)には先に江戸幕府が編纂した『新篇武蔵国風土記稿』80冊を出版しました。明治35年(1902)12月3日、武香は64才で病で没し、青山の同家墓地に葬られました。



所在地：上新田

時代：江戸

柴田家の書院は、江戸中期に建築され、書院造の特色を活かされています。本書院の主室は、十帖の上段の間であり、床・棚・建院床を設け、左上手に四帖の入側、右手に八帖の次の間、前面六尺を畳廊下の入側とし、周囲の廻り廊下も始めは濡縁であったものを現在のように改築したと考えられています。

室内の特色は、豪華な彫刻が至る所にあり、江戸中期の社寺建築などからの影響も考えられます。



5 国登録有形文化財・建造物—モダン建物の美

国登録有形文化財

国登録有形文化財は、戦後の急速な都市開発で、近代以降の建造物や工作物がその価値を十分に認識されないまま破壊されてしまう例が多発したため、平成8年（1996）の文化財保護法改正で創設された制度です。厳選して強い規制と手厚い保護を行う「指定」制度と違い、より緩やかな規制で幅広く保護の網をかけることを目的としています。資産としての活用や、外観を大きく変えない限り内部の改装も可能であり、国内での登録数の増加と共にモダン建物としての情報発信も盛んになっています。

所在地：妻沼

時代：昭和

昭和6年（1931）に産科医院として建てられた「坂田医院旧診療所」は、鉄筋コンクリート造、平屋建て、外壁正面をスクラッチタイル貼りとする昭和初期の地方近代建築の貴重な遺構として平成16年（2004）に国登録有形文化財となりました。

外壁のスクラッチタイルとは、表面を櫛引きして平行の溝を作り焼成したタイル様式のことであり、その模様から簾^{すだれ}レンガとも呼ばれています。室内には、受付・調剤室、応接室、待合室、診察室、分娩室、手術室、レントゲン室などが残されており、主要な部屋を正面



側（東側）に並べ、背面（西側）には外光が差し込む廊下を配置しています。

内部は、壁・天井ともに、鉱物質を原料としたプラスター仕上げで施工され、柱や天井の隅などに巡らした蛇腹^{じゃばら}と呼ばれる帯状の構造は、各部屋ともに意匠を凝らしています。床には檜材^{ひのき}が、床と壁とのつなぎ目には松材が多用されています。天井には端正な形状を重視するアールデコ様式の照明器具が当時のまま残されています。

外壁の上部には、直線を基調とした歯形^{はがた}の凹凸装飾^{おうとつ}が見られ、玄関ポーチの両脇にはかつて幾何学的な石膏^{せっとう}レリーフがはめ込まれていました。

現在、この建物は映画やドラマなどの撮影場所として使用されるなど、全国的な知名度を上げています。平成 24 年（2012）度には保存修理工事が実施されました。

日本聖公会熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門

マップ番号 ⑪ H-6 ㉔

所在地：宮町

時代：大正

日本聖公会・熊谷聖パウロ教会は、明治 15 年（1882）、東京でイギリス国教会の教えに共感を得た熊谷在住の人々の運動が発祥となっています。明治 18 年（1885）には、この運動に応じて、日本人最初の聖公会聖職者である田井正一氏の説教会が開かれ、その翌年には金井登氏が当地へ派遣され「熊谷教会」を創設しました。大正 4 年（1915）



には、現在地に新たな礼拝堂を造る計画が提案され、翌年に米国人設計家ウィリアム・ウィルソンによって設計が行われました。そして、大正 8 年（1919）、着工から 4 年の歳月を経て煉瓦造の教会が完成しました。

設計したウィルソンは、立教大学の礼拝堂や校舎、日本聖公会川越基督教会なども手掛けている建築家であり、煉瓦を組み合わせる建物構造の設計に多くの力量を注ぎました。その綿密な設計と併せて、日本で焼成された上質な煉瓦を使用していることから、関東大震災や西埼玉地震にも耐え抜き、また昭和 20 年（1945）8 月の熊谷空襲による火災被害からも免れました。

建物は鐘楼を持つ平屋建の構造であり、建築面積 141 m²です。鐘楼の 1 階部分が入口ポーチとなり、礼拝堂にはベストリー（礼拝準備室）が付設されています。創建時の屋根は洋瓦でしたが、戦後に日本瓦に葺き替えられています。外壁と内壁は煉瓦を積み重ね、それを支える木造の小屋組みや窓枠からは温かみを感じられ、祈りの場としての静寂な佇まいを見せています。礼拝堂入口には煉瓦造の門が造られ、礼拝堂の入り口ポーチと向き合っています。熊谷聖パウロ教会の礼拝堂及び門は、熊谷のモダン建物の代表例に挙げられます。

6 熊谷絵画史—熊谷と彩る百花繚乱の絵画

(1) 有形文化財の絵画と有形民俗文化財

重要文化財〈国指定有形文化財・絵画〉

けん ほん ちゃくしよく あ み だ しょうじゅうらい ぎょうず
絹本着色阿弥陀聖衆来迎図

所在地：上中条(常光院)埼玉県立歴史と民俗の博物館
時代：鎌倉

上中条の常光院が所有し、埼玉県立歴史と民俗の博物館にて保管されている「絹本着色阿弥陀聖衆来迎図」は、画面上部には浄土の世界を描いた「浄土図」が表現され、中程には正面向きの阿弥陀如来その他の聖衆を引き連れ人間世界に下降する様子を示した「来迎図」が描かれています。また、最下段の左右には同寺院の祖、中条氏と思われる男女の姿が描かれています。この図は、鎌倉時代の仏教美術の主題となることが多い阿弥陀二十五菩薩来迎図の一例であると言えますが、鎌倉時代後期（13世紀後半）に描かれた特殊な形式の浄土教絵画として貴重であると評価されています。



主尊の阿弥陀は、金箔の貼り付けにより金色に施され、地藏・龍樹ならびに他の聖衆には一部金箔を含んだ極彩色が塗り込まれています。背景に描かれた、極楽浄土にある「宝楼閣」の光景は細部まで入念に描き込まれ、画面全体が格調の高い出来映えを見せています。



熊谷市指定有形文化財・絵画

てん かい ぞう
天海像

所在地：上中条（常光院）
時代：江戸

紙本着色。天海は江戸幕府の草創期に“黒衣の宰相”とまで言われた僧侶で、日光廟の造営、上野寛永寺の創建などに尽力しました。この図は天正18年(1590)に川越喜多院の住職となった天海が、のちに栃木県の名刹、天台宗宗光寺の住職となった折、常光院と宗光寺とは宗派も同じで関係が深く、喜多院と宗光寺との途路に常光院を訪れ、この天海像と家康像を贈ったとされています。法量は89.0cm×33.0cmです。

熊谷市指定有形文化財・絵画

いえ やす ぞう

家康像

所在地：上中条（常光院）

時代：江戸

紙本著色。この家康像は天海像と構図も仕立ても同じで、その描き方はいかにも几帳面で線描は濃紺で緊張感がみなぎっています。色彩は朱や緑青を鮮やかに用いており、胡粉の白さが濃墨とあいまって格調を高めており、家康の威厳さを巧みに描写している作品です。法量は 92.0cm×38.0cm です。



熊谷市指定有形文化財・絵画

けん ぼん ちゃくしよくこう ほう だい し ぞう

絹本著色弘法大師像

所在地：樋春（真光寺）

時代：室町

弘法大師画像の原本は、高野山御影堂に安置されている秘仏ですが、これを模して各地で肖像画がつくられました。本作品も室町時代に描かれたもので、江戸時代初期に真光寺を中興開山した、宥定の住持物の記録にあります。大画面に淡墨で伸びやかに描かれている作品です。法量は 91.5cm×39.3 cm です。



熊谷市指定有形文化財・絵画

さん ざん ば げん きん さん すい が ぶく

三山馬元欽山水画幅

所在地：玉井

時代：清（中国）

三山馬元欽作として明記される軸物の大作で紙本表装されています。線描を主体とした技法が採られ、横 188cm 縦 122cm の大きさを誇ります。岩石の山塊が前・中・遠景の全てに渡り壮大に描かれています。画面構成上で特徴的なのは、左右に岩石の主題を置き、各空間に対して視点を誘導させるように表現している点です。全体的にバランス感のある風景画の大作であると評価できます。



熊谷市指定有形文化財・絵画

のう こ じ ない じん ごう てん じょう かい が

能護寺内陣格天井の絵画

マップ番号 ⑱ B-4

所在地：永井太田（能護寺）

時代：江戸

江戸期上毛画壇に名のあった島村の画家金井鳥洲の筆による十六羅漢の鮮やかな彩色画などで構成されています。本堂大広間においては、栄益（妻沼画家）、春翠（熊谷中条の画家で、荻原春山の師匠）などの名画が見られ、当時の狩野派の系譜にあった郷土絵師たちによる労作であることが分かります。



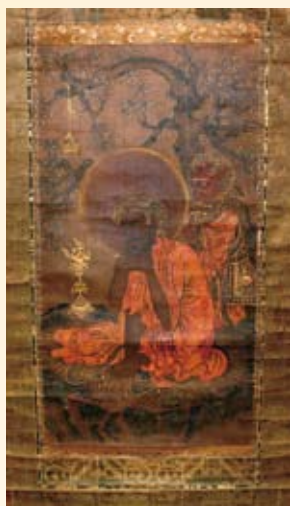
熊谷市指定有形文化財・絵画

しや か もんきよう ず

釈迦聞經の図

所在地：本石

時代：室町（推定）



本作を描いた明兆は淡路物部郷（現在の兵庫県洲本市）の出身、15世紀初頭に京都の東福寺の大道弾師を師とした絵師で、東福寺殿司を務めました。縦67cm×横37cmの大きさです。釈迦を主題とした仏画で、濃厚彩色を用いる点など中国古来の仏画技法からの影響が見られます。構図は、立ちひぎをした釈尊が両手であごを支え、背景の樹木や中景の丘へそれぞれ仏具を置き、釈尊の背後には奇怪な様相を呈した弟子を連れています。釈迦は濃い橙色の衣装をまとい、強い印象を発しています。

熊谷市指定有形文化財・絵画

しや か
釈 迦

所在地：本石

時代：室町

紙本著色の仏画で、絵師は不明ですが、狩野派の特徴を有する作品として推定されています。縦 71.5cm 横 39cm の大きさです。室町時代の禅宗絵画の特徴を有するもので、修業中の釈迦が描かれています。背景にある満月の光背が主題の釈迦を浮かび上がらせるような印象を与えてくれます。



熊谷市指定有形民俗文化財

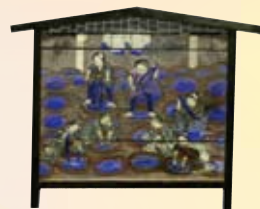
あいぞめえま

藍染絵馬 4 枚

所在地：下川上（愛染堂）

時代：江戸

4 枚それぞれ別の絵師により描かれた絵馬で、そのうち 1 枚だけに天保 10 年 (1839) の年号が読み取れます。他の 3 枚は不明ですが、これらも、江戸時代末期のものと思われます。紺屋（染物屋）が、商売繁盛・技術向上を願って愛染堂に奉納した絵馬で、当時紺屋の状況が分かる資料としても価値を有しています。



熊谷市指定有形文化財・絵画

くろうます

黒馬図

いざなぎ

所在地：上川上（伊弉諾神社）

時代：江戸

狩野派の画風による堂々たる大絵馬で、江戸中期以後の作と推定されます。図の下部に奉納者の連名がありますが、作者名や印は解読できません。左足を高く上げ、後ろ足で飛び勇む姿は、力量ある素描構成によるもので迫力を感じることができます。法量は 81.5cm×139.5cm です。

熊谷市指定有形文化財・歴史資料

たかすえま

鷹図絵馬 5 枚付箱 1 口

所在地：三ヶ尻（八幡神社）

時代：江戸

寛永 6 年 (1629)、忍城の城番を務め、忍（現在 田市）や鴻巣の鷹場を支配した天野彦右衛門が三ヶ尻の八幡神社に奉納したものです。紀年銘が確認できる絵馬では県内最古の絵馬で、桐箱に一括して納められています。この絵馬から、近世に鷹狩が行われ、鷹絵が各地で描かれたことを示し、歴史的、民俗学的、美術学的に見て価値のある文化財です。法量は大型 76.0cm×48.0cm、小型 61.0cm×45.0cm です。



の行

熊谷市指定有形文化財

すもう え ま 相撲絵馬 2 枚

所在地：上川上（伊奘諾神社）

時代：江戸

伊奘諾神社の社殿修築のため、二所ヶ関部屋を中心とした江戸本場所相撲を呼び、勧進相撲を催した時の奉納絵馬として伝えられている作品です。絵は北尾重光の作で、浮世絵師の北尾重政の流れを汲む絵師と考えられています。力士の面々や見物客などが克明に描かれ、当時の相撲風景を知るよい資料です。法量は大量 92cm×163cm、小量 81cm×140cm です。



(2) 熊谷にゆかりのある画家の歴史

(渡辺華山・奥原晴湖・森田恒友・大久保喜一)

わたなべ か ざん

渡辺華山の絵画

華山は寛政5年(1793)に江戸麹町の田原藩屋敷で生まれました。若くして藩の役割を担いながら、谷文晁ら一流の画人に師事して天性の才能を磨き上げたといわれています。蘭学や西洋事情にも詳しく、江戸を代表する知識人として知られていましたが、天保10年(1839)、「蚕社の獄」に、天保12年(1841)に直面し自ら命を絶しました。生前の華山は熊谷を訪れ、様々な足跡を残しています。

天保2年(1831)、華山は田原藩主の三宅康直から命を受け、三宅家譜の調査のため、田原藩旧領地の三ヶ尻村（現在の熊谷市三ヶ尻）を訪れています。調査報告として編集された「訪舘録」は、詳細な文章と風景描写を含み、地域の歴史を示す貴重な資料となっています。他にも絵や書を残すなど、地域に関連する文化財が残されています。



埼玉県指定有形文化財・絵画

まつ ず こう てんじょう が 松図格天井画

所在地：三ヶ尻（龍泉寺）

時代：江戸

渡辺華山筆。本図は華山が三ヶ尻に滞在中、龍泉寺山門の天井に多くの門人などとともに描いたものです。この格天井は24枚からなりませんが、その内の一枚がこの松図です。縦横とも40cm大の杉板を円で区切り、外側には金泥、内側には胡粉が塗っており、墨で筆力をこめて松を描いています。その構図と表現力、力強さに素晴らしいものがあります。法量は40.5cm×40.5cm、厚さは1cmです。

埼玉県指定有形文化財・絵画

し ほん たん さい そう がん ず
紙本淡彩双雁図

所在地：さいたま市 ：三ヶ尻（龍泉寺）
（埼玉県立歴史と民俗の博物館へ寄託）

時代：江戸

渡辺華山筆。雁を一幅に一羽ずつ描いた、二幅対の画です。右幅の雁は、首を上げて口を開き、堂々として均整が取れています。一方左幅の雁は、首を曲げ一翼を広げる構図で描かれており、左右の雁の対照的な構成の美しさは見事です。黒を基調として淡彩をほどこし、頭部と足とを特にしっかり描き、腹部を柔かく表現する描写の的確さ、そして画面の上下に余白をしっかりと取り、空間とのバランスにも心を配った優れた作品といえます。法量は二幅対で各 123.1cm×56.5cm です。



埼玉県指定有形文化財・古文書

ほう ちょう ろく
訪貳録（龍泉寺本）

所在地：三ヶ尻

時代：江戸

華山が田原藩（現在の愛知県田原市）藩主三宅康直の命により、三宅氏の旧領地であった貳尻（三ヶ尻）村を 20 日間かけて実地調査したときの報告書です。原本は焼



失してしまい、龍泉寺に現存するものは実弟渡辺如山と弟子山本梧庵による模本ですが、華山の筆致を忠実に模写したものであるとされ、華山の観察力、表現力が見事に表わされている書物です。上下 2 冊からなる和本で、江戸時代における北武蔵地方の農村の様子をつぶさに伝える貴重な地誌です。

熊谷市指定有形文化財・絵画

なお ざね きょ せん す
直実挙扇の図

所在地：桜木町（熊谷市立熊谷図書館）
時代：江戸

渡辺崋山筆。中央に馬上の熊谷次郎直実を配し、上下の広がりをも十分にいかした格調のある作品です。大胆な余白が馬上の直実を一層際立たせています。色彩は朱と群青と黄土で、その配色の妙が画面に躍動感を与えています。法量は129.0cm×58.0cmです。



熊谷市指定有形文化財・絵画

ば しょう やまと の ぼ す
芭蕉大和上りの図

所在地：三ヶ尻
時代：江戸

崋山が黒田家の厚遇に感謝し、三ヶ尻を去るにあたり記念に残した作品で、三ヶ尻と崋山を結ぶ貴重な作品です。三ヶ尻の黒田家の当主である黒田平蔵（観流亭幽鳥）は俳句を嗜しむなどの文化への理解が深く、崋山が黒田家に逗留したこともあり、三ヶ尻の調査に同行するほど親しくなったと伝えられています。その関係でこの作品を描いたものと考えられています。法量は128.0cm×58.0cmです。



熊谷市指定有形文化財・絵画

え て ほん
絵手本

所在地：三ヶ尻
時代：江戸

二巻。色彩のあるところもありますが、全体として紙本淡彩で描かれている崋山の基本画帳です。

2巻で構成され竹に雀、鶴、梅など全部で30余りの図柄が含まれています。生々とした筆運びで各作品が縦横自由に配置され、描かれています。



おく はら せい こ
奥原 晴湖 (1837 年～1913 年)

—女流南画家の大家—

古河藩士の池田政明の四女として生まれました。10 歳のころには古河藩家老の鷹見泉石と交流が生まれ、17 歳の時に谷文晁の流れを汲む枚田水石に絵画を学ぶようになります。29 歳の時に関宿藩奥原家の養女となり上京、上野池之端の岡村家を頼り、摩利支天横丁に新居を構え「墨吐烟雲楼」と看板を掲げ、晴湖と号しました。このころの画風は、力強いながら繊細な筆致や構図が見られ、世に“東海書き”と称されました。

明治元年 (1865)、32 歳の頃には木戸孝允や山内容堂、大沼沈山らの画会に出席し、政界の名士と交流し、明治 5 年 (1872) には皇后陛下の御前で揮毫するなど、華々しく活躍しました。その活躍から明治 12 年 (1879) の「皇国名誉書画人名録」には晴湖が筆頭画家として掲載されました。

その後「墨吐烟雲楼」が鉄道用地として買い上げられると、古河藩領があつた上川上村 (現在の熊谷市上川上) に居を構え、画室を「繡水草堂」「繡佛草堂」などと称して作品を発表しました。その画風は密画が多く、非常に鮮やかで色彩豊か、細密な描写が特徴となりました。その後の大正 2 年 (1913) に 77 歳で亡くなりました。



熊谷市指定有形文化財・絵画

しゅん こう ぐん ぎゅう
春江群牛の図

所在地：中西
時代：明治

日本画、紙本淡彩。8 頭の牛の群がる姿を主題とするこの絵の牛の姿態もさまざまに黒と茶色で表現されており、いかにも春の長閑さを感じ取れる作品です。画面の中程には、舟や家も見られ岩と樹木におおわれ、そして霞たなびく山へと春江が描かれています。群牛のうち、最も奥にいる牛の動的な表現が印象的です。明治 27 年

(1894) の作品で、法量は 151.0cm×80.0cm です。

熊谷市指定有形文化財・絵画

かい ざん しゅん しよく
溪山春色の図

所在地：河原町
時代：明治

絹本着色。67 歳頃の作品。縦長の画面いっぱいにしっかりとした見事な筆致で描かれている山水密画で、南画の特色がよく出ています。二段に流れ落ちる滝と水を描き、それを取り巻くように山や樹林、家を配しており、晴湖の好んだ主題がよく表れている作品で、高い充実感が伺えます。明治 30 年 (1897) の作品で、法量は 147.0cm×56.0cm です。



熊谷市指定有形文化財・絵画

すい よう とう か ず
垂楊桃花の図

所在地：上之
時代：明治

絹本著色。才気も気力も充分にある晴湖が、それを柔らかに包み込みなおかつ情感を高めて表現した作品といえます。左上部に大きく山を描き、絵に安定感を持たせ、近景の人物の描写から柳や桃の花の咲き誇る様、そして川が画面奥へと続く構図は、この広大な風景を見事に仕立てています。明治33年(1900)の作品で、法量は143.0cm×57.0cmです。



もり た つね とも

森田 恒友 (1881年～1933年)

—明治から昭和にかけての熊谷を代表する画家—

大里郡玉井村(現・熊谷市)に生まれました。15歳で埼玉県第二尋常中学校(現・熊谷高校)に入学しましたが、明治31年(1891)、17歳で画家を志して上京、小山正太郎の不同社に学びました。明治35年(1902)、東京美術学校(現・東京藝大)西洋画科選科に入学、青木繁を中心に熊谷守一、正宗得三郎らとともに“青木グループ”を結成、明治39年(1906)には東京美術学校西洋画科を首席卒業しました。明治40年(1907)には石井柏亭、山本鼎と美術雑誌『方寸』を創刊、第一回文展(現・日展)に「湖畔」が入選するなど、以後、中央画壇で活躍を始めます。

大正3年(1914)に渡欧、ロンドン、南フランス、イタリア、スペインを旅行し、ポール・セザンヌの影響を大きく受け、帰国後の大正5年(1916)には日本美術院洋画部同人となります。しかし大正9年(1920)には小杉放菴らと日本美術院を脱退、大正11年(1922)に元院展洋画部同人のほか梅原龍三郎、岸田劉生、中川一政らと「春陽会」を設立します。このころから主に水墨画や素描を発表するようになります。

大正15年には帝国美術学校の洋画科主任教授となるなど一層の活躍を期待されましたが、昭和8年(1933)に52歳で亡くなりました。



熊谷市指定有形文化財・絵画
の みち
「野道」



熊谷市指定有形文化財・絵画
おか すいでん
「丘と水田」



熊谷市指定有形文化財・絵画

「すき髪^{かみ}」



熊谷市指定有形文化財・絵画

「風景^{ふうけい}」



熊谷市指定有形文化財・絵画

「水田^{すいでん}」

大久保 喜一 (1885 年～1948 年)

— 県下初の洋画団体を結成 —



児玉郡金屋村（現在の本市）の中村喜三郎の五男として生まれました。14 歳の時に小鹿野町の久保家の養子となり、明治 39 年（1906）、東京美術学校（現・東京藝大）西洋画科本科に入学、黒田清輝らの指導を受けました。そして明治 44 年（1911）の卒業制作では「乞食」（熊谷市指定文化財）が卒業制作中の第一席を受賞しました。卒業後の大正 4 年（1915）、福島県の私立石川中学校に図画教師として奉職、翌年の第 10 回文展（現・日展）に「山里」が初入選し、中央画壇でも活躍を始めます。大正 7 年（1918）に熊谷中学校（現・熊谷高校）へ転任すると、翌年には県下初の洋画団体「坂東洋画会」（現・朱麦会）を結成し、中心となって指導にあたるなど、芸術文化の普及活動にも力を注ぎました。その後も帝展（現・日展）に「実験室」（熊谷市指定文化財）「小春日和り」（熊谷市指定文化財）「机上フラスコ」などが入選、白日会会員・鑑審査委員・理事として会の中核に位置して作品を出品するなど、精力的に活動しました。昭和 23 年（1948）に 63 歳で亡くなりました。



熊谷市指定有形文化財・絵画

「実験室^{じっけんしつ}」：大正 11 年（埼玉県立熊谷高等学校所蔵）

大正 11 年（1922）、喜一 37 才の作品です。作者が現在の熊谷高校の美術教諭として着任し、後進の指導に当たっていた頃で、窓越しの西日の明るい光の律動と、実験用のガラス器の透明感が見事に表現され、“ガラスの大久保”と称された大久保喜一の画風を示す、優れた作品です。法量は 77.0cm×99.0cm です。



熊谷市指定
有形文化財・絵画

「^{こじき}乞食」

：明治 44 年 (1911)



熊谷市指定
有形文化財・絵画

「^{こはるびよ}小春日和り」

：昭和 3 年 (1928)



熊谷市指定有形文化財・絵画

「^{にわ}パラソルのある庭」

：昭和 18 年 (1943)

熊谷市指定有形文化財・絵画

「^{つづみ}ヤギ(堤)」：昭和 18 年 (1943)

大久保喜一の弟子で戦後熊谷を代表する画家である里見明正が記した油彩。明正は、明治45年(1912)に熊谷で生まれ、熊谷中学校(現熊谷高校)で大久保喜一に絵画を学び、東京美術学校(現東京藝大)油絵科に入学。卒業後は中央画壇でその才能が認められ、里見特有のデフォルメされたフォルムの中に、伸びやかに走るタッチと、明るい色彩で数多くの作品を生み出し、「里見スタイル」を確立しました。本作は昭和18年(1943)に日展に出品した作品で、堤の様子をヤギをモチーフにして描き、個性的な形状と鮮やかな色彩を誇っています。



熊谷市指定有形文化財・絵画

「^{りんちせんけん}臨池洗硯」

所在地：桜木町（熊谷市立熊谷図書館）

時代：昭和

吉原雅風著。絹本着色。雅風は東京美術学校（現・東京藝大）日本画科卒業後、荒木寛畝、橋本雅邦の門に入り、文展画家として名声を博しました。この作品は池畔で硯を洗う人物を配し、その後方に竹を組んだ堀や樹木などが細密に描写されています。竹林越しの空の淡い朱色が、見る人々にほのぼのとした心のぬくもりを感じさせる作品です。法量は 143.2cm×50.5cm です。



7 工芸品の美と人々の祈り

(1) 有形文化財の工芸品と有形民俗文化財

熊谷市指定有形文化財・工芸品

銅 鈴

所在地：上之（龍淵寺）
時代：室町

忍城主であった成田親泰が、供養のため菩提寺である龍淵寺に寄進したと伝えられています。室町時代作の鋳銅製で、形状は素朴、重厚感がある鈴です。紀年銘があることから、龍淵寺の創建の年代を応永 18 年（1411）として指定する上でも貴重な文化財です。法量は全高 11cm、口径 13cm で銘には「武蔵州崎西郡成田郷大平山龍淵寺常住 大永五年九月吉日」と刻まれています。



熊谷市指定有形文化財・工芸品

菊文亀甲散双雀鏡

所在地：野原
時代：鎌倉

入手経路など詳細は不明ですが、13 世紀の作と推定されます。裏面は、中央にある紐の亀形が高く盛り上がり、紐通しの孔が穿たれています。亀の背中は滑らかで他の部分は一面に繊細な亀甲模様が描かれており、雀が二羽組み合わせて配置されています。法量は直径 11.5cm、厚さ 0.5cm、重量 800g です。



熊谷市指定有形文化財・工芸品

月山銘小刀

所在地：千代
時代：室町

天正 18 年（1590）深谷城主上杉氏憲が、小田原に出向していた際、留守の家臣たちは豊臣勢の大軍に不利であることを悟り降伏しました。氏憲の第四子憲成は、千代村（現在の熊谷市千代）にて小久保姓を名乗り土着し、その時所持していたのが「月山」であり、以後上杉家に代々秘蔵されたと伝えられています。法量は長さ 110cm で幅 3cm です。



熊谷市指定有形文化財・工芸品

脇ざし
脇差

所在地：新堀新田

時代：江戸



江戸時代末期(1860年)の作。平造り。刃紋は「直刃匂」と称して、刃沿いに長い飛焼があります。帽子は小丸に返る。景一は郷土の刀匠で、短刀を得意とし、本刀は弟子である新堀の震鱗子平重一宅にて鍛造した貴重な良作です。文化文政年間以降は、南北朝期の作刀法が見通された時期で、当時の作風を物語っています。法量は長さ33.5cm、反り12mmで、銘は表が震鱗子景一、裏が文久甲子春です。

熊谷市指定有形文化財・工芸品

ひやくまんべんじゅう
百万遍の数珠

所在地：向谷

時代：江戸



旧随求堂の不動明王と共に祀られている数珠です。数珠全体を何回か折りたたみ、それを頭上に揚げながら、輪になった人々が隣へ回していき、悪魔払いや無病息災を願います。現在でもこの行事が行われています。大きさは全長約8mで数珠10,345によって構成されています。

熊谷市指定有形民俗文化財

かみくげじゅうかねひとくち
上久下の数珠付鉦一口

所在地：久下

時代：江戸



久下の権八地藏尊の地藏堂に保管されていた数珠で、天保13年(1842)以降に製作されました。桐製の太玉2個・小玉215個からなり、先祖供養などを祈願したもので、すべての玉に刻字があります。百万遍の数珠として用いられ、刻字された人名から県外の地元出身者との繋がりを知ることができます。

熊谷市指定有形民俗文化財

こみやまじんじゃししがしら
古宮神社の獅子頭

所在地：池上(古宮神社)

時代：江戸



龍頭形式の隠居獅子頭(法眼・雌獅子・雄獅子)

雄獅子

雌獅子

法眼

で、法眼には寛永5年(1628)、雌獅子には宝永5年(1708)の紀年銘があります。獅子舞の由緒は、文永年間(1444年頃)に当神社の茂木大膳が石清水八幡宮の奉納獅子を見て共感し、指導を仰いで氏子に伝えたものとされています。現在まで続く「古宮神社の獅子舞」の歴史を知る上で、貴重な文化財です。法量は雄獅子=全長27.5cm・顎の幅16.0cm、雌獅子=全長27.5cm・顎の幅16.5cm、法眼=全長28.5cm・顎の幅16.0cmです。

熊谷市指定有形民俗文化財

ぎよくせんじ すりけさ
玉泉寺の摺袈裟

所在地：玉作（玉泉寺）

時代：江戸

大里の玉作の玉泉寺にて江戸中期頃から保存されているもので、安産のお札の版木として奉納されました。表面の黒色が当時の利用の様子を表わしています。地域の信仰を今に伝える資料です。



熊谷市指定有形文化財・歴史資料

りゅうせんじ ほんしょう

龍淵寺梵鐘

マップ番号 19-G-7

所在地：上之（龍淵寺）

時代：江戸

龍淵寺は、成田氏歴代の菩提寺です。この梵鐘は、銘文により、寛政 8 年（1796）、忍藩領主成田氏長没後 200 年の区切りに祈念して造られたものと考えられます。銘文は、全面に陰刻されており、その他、「当山開基成田下総守殿家臣末葉」として 50 人の名前・居住地が刻まれています。また、寄進村々として、48 か村が記されており、熊谷・行田のみならず、他地域などに及んでいることが分かります。また、鋳物師として、「熊谷住林源兵衛藤原親友」と刻まれています。龍頭の形にも勢いがあり、鋳造技術の高さを感じることができます。



熊谷市指定有形文化財・工芸品

のうごじ ほんしょう

能護寺梵鐘

マップ番号 20-B-3

所在地：永井太田（能護寺）

時代：江戸

元禄 14 年（1701）諸八兵衛藤原正綱によって造られた梵鐘です。梵鐘の通例でもある表面に突起する乳の間に、百字真言の文字が陽刻されており、「いぼなしの鐘」とも言われています。



御詠歌が刻まれた二つの額

—巡礼の旅の歴史—

熊谷市指定有形文化財（彫刻）の「正福寺の額」と「金蔵寺の額」は、大里地域に所在する正福寺（沼黒）と金蔵寺（中恩田）において保管されている木製の額です。この 2 つの寺は江戸初期に開基し、吉見郡今泉村（現在の吉見町）にある金剛院の末寺でした。額の冒頭には札所や霊場めぐりの寺となっていたことが示され、

額の全体に、短歌として表現された御詠歌が刻み込まれています。正福寺の額には「三十四所 才十二 沼黒正福寺 のりのみち むすぶえにしは あさくとも もらさぬちかい ふかきぬまぐろ」、金蔵寺の額には「三十四所 才二十三 恩田 船松山 金蔵寺 春秋のときおもわかつかのきしべわたすちかいの のりのふなまつ」と刻まれています。仏道の教えや供養が込められた詩歌は、旅人や参拝者によって音の旋律が加えられ、情緒的に唱えられていたことが想像できます。

額に示された三十四か所の札所についての記録は現在残されていませんが、御詠歌の文字は巡礼する人々の心に深く刻まれ、次なる旅に向けての勇気を与えていたことでしょう。二つの額は、巡礼の旅を示す証であると共に、当時の民衆信仰を示す貴重な資料であると言えます。



「正福寺の額」



金蔵寺の額

熊谷市指定有形民俗文化財

むら おか わた ぶね

村岡の渡し船

マップ番号 ㉑ J-5

所在地：万吉（吉岡小学校）

時代：明治

江戸時代から明治時代にかけて、熊谷宿と村岡村（現在の熊谷市村岡）を結ぶ渡しがあり、人や馬を乗せて荒川を渡っていました。その後、明治 42 年（1909）に荒川大橋が完成したため、廃止されました。現在、吉岡小学校地内の保管庫に馬船（馬を運ぶ船）1 艘と歩行船（人を運ぶ船）2 艘が保管されており、荒川の交通の歴史を知る上で貴重な文化財です。



熊谷市指定有形文化財・工芸品

こ す あか え ちょうりゅうもん おお ひら ばち

呉須赤絵鳥竜文大平鉢

所在地：本石

時代：（中国）明～清

明代末から清代初めに中国華南省で焼かれたものです。

熊谷地域の長島家に伝来したもので、色彩豊かであり細密な描写などその工芸品としての芸術的表現が評価されています。

熊谷市指定有形民俗文化財

じょう や どう

常夜灯

マップ番号 22 H-6 A

所在地：宮町（高城神社）

時代：江戸

高さ 275cm の青銅製の奉納塔である常夜灯は、天保 12 年 (1841) に建立されました。台座には、県内をはじめ、江戸・川崎・桐生・高崎・京都など 150 名の紺屋（藍染業者）の名が奉納者として刻まれています。明治時代以前、本地仏として愛染明王を祀っていた高城神社が、広範囲からの信仰者を集めていたことを示す貴重な資料です。



(2) 熊谷うちわ祭と有形民俗文化財

山車（第壹本町区）

マップ番号 23 H-6 A

製作年：明治 31 年 (1898)

第壹本町区の山車を参考に、初めて地元で製作された山車。大工・島野茂三郎と彫刻師・小林栄次郎が製作しました。三段式で神武天皇人形（長野屋綱李作）が飾られています。三輪車唐破風脇障子付欄干は三段構えの構造です。水引幕の刺繍は精巧で、迫力があります。



山車（第貳本町区）

マップ番号 24 H-6 A

製作年：天保元年 (1830)

江戸神田の紺屋が個人所有していた山車を明治24年 (1896) に中家堂初代当主の中村藤吉を中心として町区が買い受けたものです。数回の改修を経ていますが、当初の構造や形状が保存されています。戸隠大神人形は風格があり、山車を飾る象徴とも言えます。



製作年：大正 13 年 (1924)

彌生町区の屋台は、大正 12 年 (1922) 7 月から大正 13 年 (1923) 7 月頃にかけて、彌生町 186 戸・旧名の霞町 25 戸にて製作され、現在まで使用されています。市内で、完形で残存する最古の屋台です。長島力太郎が製作し、しなやかな唐破風や均整の取れた構造がうかがえます。名匠、^{うちやまりやうらん}内山良雲親子による彫刻が屋台に施されており、表鬼板には「素戔嗚尊」^{のみこと}、表懸魚には「龍」^{おもうて ぎょ}、脇障子^{わきしょうじ}の一對に「天岩戸」^{いわ と}の彫刻と、書院欄間には「松に孔雀」^{うらおにいた}、裏鬼板には「松に鶴」^{うら げ ぎょ}には「波に親子亀」など多様な彫刻を見ることが出来ます。屋台の長さは約 5m、幅は約 3m、屋根の高さは約 4.7m です。



熊谷市指定有形民俗文化財

神酒杵 (第一本町区)

安政 3 年 (1856)、飯田和泉守と飯田岩次郎、藤原義常によって製作され、金物玉は熊谷宿本町の脇本定吉が担当しました。唐破風切妻造と呼ばれる様式で、木部の素材は紫檀で作られ、銀製の壺が中に置かれています。2 基。



熊谷市指定有形民俗文化財

神酒杵 (第三本町区)

安政5年(1858)、熊谷宿の棟梁・小林家が製作しました。上部に千鳥破風、下部に唐破風が配置されています。全体が漆塗りで、欄干などの部位には金箔が付けられており、龍の彫刻が秀逸です。中の壺は錫製で丹念な技術が込められています。2基。

考古資料・埋蔵文化財について

考古資料は考古学上貴重な資料であり、その中で地下に埋蔵している文化財を埋蔵文化財と称します。埋蔵文化財には、土地と切り離すことのできない住居跡や古墳、貝塚などの「遺構」と、土器や石器などの「遺物」に分類されます。遺構や遺物が分布している地域を「遺跡」や「埋蔵文化財包蔵地」と称します。埋蔵文化財は、古代の時代の歴史を知るための資料として貴重であり、文書などで残されている歴史情報を分析、検証するための考古学的資料として永く保存していくことが求められています。

埼玉県指定有形文化財・考古資料

嘉禄銘板石塔婆

マップ番号 ㉔ J-3

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）
[復元品を大沼公園内弁天島に設置]
時代：鎌倉

日本最古の紀年銘（嘉禄3年：1227）を持つ板石塔婆です。阿弥陀三尊像を宝珠状の光背に彫りくぼめて中央に主尊を陽刻し、左右対称の位置に脇侍を彫り上げています。主尊は、両手を胸の位置で転法輪印の印相を結ぶ阿弥陀如来です。脇侍は左に合掌した勢至菩薩、右に観音菩薩を配置し、三尊とも、浄土信仰に基づく来迎像を表現しています。法量は総高115cm、最大幅61cm、厚さ9.5cmです。



埼玉県指定有形文化財・考古資料

安貞銘板石塔婆

マップ番号 ㉔ ト-4

所在地：樋春（真光寺）
時代：鎌倉

日本で2番目に古い紀年銘（安貞2年：1228）を持つ種子板石塔婆です。本板碑は、樋春地内に所在した観音寺の墓地に立てられていたもので、明治期の廃仏棄釈により廃寺となったため、真光寺に移されました。種子使用・完存品としては日本最古となる貴重な板石塔婆です。主尊は、梵字によって阿弥陀如来を表しています。銘文は死者の冥福を願ったもので、草書調に刻まれ、全体的にのびやかな印象を受ける構図となっています。法量は総高126cm、最大幅39cm、厚さ6.5cmです。



かんぎめいいたいしとうぼ
寛喜銘板石塔婆

マップ番号 28 J-3

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）
時代：鎌倉

日本で3番目に古い紀年銘（寛喜2年：1230）を持つ板石塔婆です。ほぼ中央で上下に分断され、一部を欠損しています。上半分には、阿弥陀如来立像および脇侍二菩薩（観音菩薩・地藏菩薩）が、それぞれ頭光・身光状に彫りくぼめた中に彫り出されています。

また、下半部には9行にわたって銘文が刻まれており、亡き母の供養のために造をしたことが示されています。銘文左右の文面は「観世音菩薩往生浄土本縁経」を出典としています。法量は総高90cm(上)、92cm(下)、最大幅57cm、厚さ6.5cmです。



熊谷市指定有形民俗文化財

こいづかしくよういたいしとうぼ
肥塚氏供養板石塔婆

マップ番号 29 H-6

所在地：肥塚（成就院墓地北側）
時代：鎌倉

肥塚氏は熊谷氏の祖となった直季の弟直長が肥塚に住んで肥塚氏の始祖となり、その後も在住していたと考えられています。この板石塔婆は、肥塚氏の太郎光長と八郎盛直の供養塔2基によって構成されています。太郎の板石塔婆は年号が康元2年（1257）、種子は阿弥陀如来であり、八郎の板石塔婆は年号が応安8年（1375）、種子は地藏菩薩です。



熊谷市指定有形民俗文化財

ちやうすづかいたいしとうぼ
茶臼塚板石塔婆

マップ番号 30 J-5

所在地：村岡
時代：鎌倉

市内で1番大きな板石塔婆で、県内でも屈指の大きさです。法量は高さ3.16m、幅53～60cm、厚さ9.6cmです。茶臼塚と呼ばれていた古墳があり、その古墳を削平したときに出土したと伝えられています。二つに折れていましたが、現在は修復され造立されています。文永10年（1273）、9人の子供が亡き父と母のために建てたもので、種子は阿弥陀三尊です。



熊谷市指定有形民俗文化財

いた いし どう ば
板石塔婆

マップ番号 ③ F-5

所在地：中奈良（国性寺）

時代：鎌倉

中奈良地区の国性寺に安置されている板石塔婆です。高さ 190 cm、幅 59 ～ 67 cm、厚さ 9 cm で、紀年銘は建長元年（1249）で、市内においても古い時期に造立されたものです。上部は、阿弥陀如来が蓮台なしに彫られ、下部には仏の功德をたたえる文字が刻まれ、摩滅、剥落のため判読できない箇所もありますが、「光明は遍く十方世界を照らし、念仏は衆生摂取して捨てず。建長元年八月廿〇日」と彫られています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

しょう か めい こ ぐう ぞう ぼ さつ いた いし どう ば
正嘉銘虚空蔵菩薩板石塔婆

マップ番号 ③ I-3

所在地：押切

時代：江戸

本板石塔婆は、押切の旧東陽寺墓地内に所在していました。頂部はゆるい山形を呈し、古式な形態を示しています。碑面は主尊と銘文で構成されており、蓮座は刻まれていません。虚空蔵菩薩を主尊に持つ板石塔婆は類例が少なく、正嘉 2 年（1258）銘も古いことから、古式な形態を残す貴重な資料があります。銘文は「戊 孝子 正嘉二季十月〇〇 午 敬白」と示されています。法量は総高 88cm、最大幅 88cm、厚さ 10cm です。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

こう あん めい まん だ ら いた いし どう ば
弘安銘曼陀羅板石塔婆

マップ番号 ③ J-3

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：鎌倉

本板石塔婆は、樋春の平山館跡に所在していたもので、昭和 35 年（1960）江南南小に移管され、現在は市教育委員会で保管しています。主尊は、異体荘嚴梵字による阿弥陀如来が薬研彫で刻まれ、蓮座の下には大日如来を中心とする金剛界曼陀羅が配されています。

曼陀羅を配した板石塔婆は県内でも例が少なく、さらに造立者・造立年・造立趣旨が判明しており、当時の信仰状況を示す貴重な資料であると言えます。法量は総高 160cm、幅 43cm、厚み 6cm です。

熊谷市指定有形文化財・考古資料

しょう あん めい いた いし どう ぼ

正安銘板石塔婆

マップ番号 34-I-3

所在地：押切

時代：鎌倉

本板石塔婆は、昭和37年(1962)に荒川の砂利採取中に河底より発見されました。主尊は異体梵字による阿弥陀如来が縦長の葉研彫で刻まれているほか、銘文の両脇には光明真言が刻まれています。

銘文によると、本板石塔婆は、正安2年(1300)7月25日に67歳で往生した武蔵^{ぎょうぶ}刑部尉親直の冥福を祈って左兵衛尉頼秀が造立した追善供養塔であることが推測されます。武藤氏は武蔵武士で、刑部は役職名を意味します。法量は総高174cm、最大幅39cm、厚さ7.5cmです。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

あ み だ さん ぞん いた いし どう ぼ

阿弥陀三尊板石塔婆

マップ番号 35-B-3

所在地：永井太田（能護寺）

時代：鎌倉

善光寺式阿弥陀三尊像の板石塔婆とも呼ばれ、台上高さ140cm、幅上部36cm、下部48cm、厚さ6cm～5.5cmで、石材は緑泥石片岩、台石は花崗岩です。中央に立像阿弥陀如来、左右に観音菩薩・勢至菩薩を浮き彫りにし、七体の化仏も彫られています。上部左肩部が欠損しています。紀年銘は確認されていませんが、鎌倉時代の造立であると推察されています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

ふく じゅ いん いた いし どう ぼ

福寿院板石塔婆

マップ番号 36-C-5

所在地：弥藤吾（観音寺）

時代：鎌倉

表面上半部に舟形光背を描き、その中央に阿弥陀如来、左右に観音・勢至菩薩と上部に七体の化仏が彫られています。善光寺式阿弥陀三尊像の板石塔婆の完形として保存されています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

ふる つか こ ふん せつ かん

古塚古墳石棺

マップ番号 ③ H-6

所在地：肥塚（成就院）

時代：江戸

成就院が、明治15年(1882)この地に移築された際、西隣にあった元若宮山観音院真蔵寺にあった通称「古塚古墳」をくずして、整地にした時に発見されたものと言われています。大きさは、長さ192cm、幅95cm、高さ75cm、です。凝灰岩製の板石を組み合わせて造られた箱式石棺で、石棺の上には若宮八幡が祀られています。



埼玉県指定有形文化財・考古資料

鍔塚古墳出土土器一括

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：古墳

5世紀後半～末の帆貝式前方後円墳である鍔塚古墳の墓前祭祀跡2か所から出土した土器群で、高坏形器台は東日本でも例を見ない貴重な土器です。須恵器4点、土師器32点によって構成されています。



埼玉県指定有形文化財・考古資料

横間栗遺跡再葬墓出土遺物一括

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：弥生

西別府の横間栗遺跡の再葬墓群から出土した遺跡で、弥生時代の墓制を考える上で極めて学術的価値の高い遺物であると考えられています。壺形・甕形土器と石器などによって構成されています。



埼玉県指定有形文化財・考古資料

にし べつ ぶ さい し い せきしゅつ ど ひん 西別府祭祀遺跡出土品

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：飛鳥～平安

市指定史跡の西別府祭祀遺跡は、西別府に所在する湯殿神社社殿裏手の湧水周辺に形成された祭祀遺跡で、近年、隣接する西別府廃寺、西別府遺跡、深谷市幡羅遺跡とともに、古代の郡役所・寺院・祭祀の遺跡がまとまって確認された遺跡群として、全国的に注目されています。出土品は、人形・馬形・横櫛形・勾玉形などの滑石製模造品や、吉祥や願文、呪術的な文字、人名・地名と考えられる文字が墨書された土器など計 359 点です。

これらは、7世紀後半から 11 世紀前半まで湧水に対する祭祀が継続的に行われていたことや、飛鳥時代に始まった石製模造品を使った祭祀から奈良時代以降の土器を使った祭祀へと祭祀が変遷していったことを示す貴重な一括出土資料群として評価されています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

こ ふん ふく そう ひん 古墳副葬品

所在地：千代 時代：古墳

野原地区西方の丘陵地帯を開墾するときに出土したと伝わる副葬品です。勾玉（瑪瑙 1、軟玉 1）・碧玉製管玉 7・水晶製切子玉 2・ガラス製小玉 11・金環 1 によって構成されています。勾玉などの玉類の副葬品があることから、埋葬された人物が高い地位にあったと見られ、当時から有力な豪族がこの地域にいたことを示しています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

わらび て とう

蕨手刀

所在地：桜木町（熊谷市立熊谷図書館） 時代：古墳

昭和28年（1953）、熊谷商業高校の校庭に所在したとされる古墳の石室から発見されたものです。蕨手刀は柄頭が“蕨の若芽”のように屈曲していることから、この名称がついています。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

ひがしざわ い せきしゅつ ど もく せい ひん いっ かつ

東沢遺跡出土木製品一括

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：古墳

市内大塚の中条条里遺跡内の東沢遺跡で発見された河川跡から出土した横槌、鋤、泥除などの木製品です。13 点で構成されています。当地において耕作などが行われた、歴史的意義を伝える文化財です。

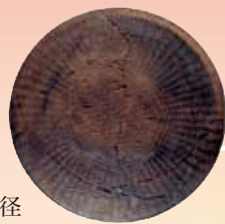
熊谷市指定有形文化財・考古資料

かご め もん ど き 籠目紋土器 他

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：古墳

昭和 58 年（1983）に旧江南町教育委員会によって調査された、塩西遺跡第 2 号土坑出土の遺物です。本土坑は、長径 3.5m、短径 2.1m の楕円形を呈しています。中央部には 25cm 程の焼礫が据え置かれ、土器はこの周囲に集中して確認されています。出土した土器は、完存するものが多く、40 個体を数えます。東海地方に多く分布する S 字状口縁の台付甕・網目状捺糸文の施された壺形土器・竹籠の圧痕を持つ土器なども出土しています。籠目紋土器は、口径 17.6cm、器高 7.2cm、底径 5.6cm を測る完形品です。宛形を呈し、胴部全体および底部に籠目の圧痕が施されています。底部は方形で、四隅が丸く脚状に突出している形態です。籠目紋土器は全国的にみても出土例は少なく、完形品となると数例しか確認されておらず、希少であるといえます。



熊谷市指定有形文化財・考古資料

しお にし はら こう こ ふん しゅつ ど い ぶつ 塩西原 18 号古墳出土遺物

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：古墳

平成 4 年（1992）に旧江南町教育委員会によって調査された塩西原 18 号古墳の出土遺物です。遺物は、主に玄室内より武器・装身具・馬具類などの副葬品が、墳丘・周溝内より須恵器・埴輪などの土器が出土しています。次の出土品によって構成されています。



武 器—鉄刀 2・銀象嵌太刀 1・銀装圭頭太刀 1・銅製蝸目 1・刀子 2・弓金具 1・鉄鏃 30 以上
馬 具—鉄地金銅張雲珠 1・鉄地金銅張辻金具 2・鉄地金銅張留金具 2・鉄製しおで金具 2
装身具—金銅製耳環 1・碧玉製管玉 2・琥珀玉 5・土製丸玉 2・銅釧 3
須恵器—蓋 2・小形壺 1・壺 1・提瓶 1・横瓶 1・甕 1
土師器—蓋 1 埴 輪—円筒・形象埴輪

熊谷市指定有形文化財・考古資料

すわ の き い せき しゅつ ど い ぶつ 諏訪木遺跡出土遺物 118 点

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：古墳～平安

上之地区の諏訪木遺跡から出土した遺物、斎串や滑石製模造品、玉類、馬の頭骨などの祭祀遺物 76 点、農具などの木製品 23 点、墨書土器、ミニチュア土器など 13 点、骨角器、金属製品など 6 点の河川跡から出土した遺物、計 118 点が指定されています。



9 仏像の美と人々の信仰 — 有形文化財・彫刻と 有形民俗文化財

熊谷市指定有形文化財・彫刻

もくちょう だい ぶつ ざ ぞう

木彫大仏坐像(平戸の大ぼとけ)

所在地：平戸（源宗寺）
時代：江戸

マップ番号 38 H-7

「平戸の大ぼとけ」として古くから知られている木彫の坐像です。千日堂に安置され、高さ4 m余の薬師如来と観音菩薩の2体で、江戸時代の作です。2体の像の胎内にあった秘伝書によって調剤した馬の病氣と疝氣（腰・腹の痛む病氣）の薬は「平戸の妙薬」として有名となり、近在から訪れる人が絶えなかったということです。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

もくちょう あ み だ に よ ら い ざ ぞう

木彫阿弥陀如来坐像

マップ番号 39 H-7

所在地：上之（泰蔵院）
時代：鎌倉

泰蔵院にある鎌倉時代末期の作の仏像です。1.06mの木彫坐像で、上品下生の印を結んでいます。光背は円輪の中に蓮華を配したものです。衣はひだの流れも整って美しく、豊かな頬、肩の張りもどっしりとして、市内にある仏像の中でも優品として評価される1つです。高さ60cmの蓮華座の上に高さ160cmの坐像があり、衣は朱色で、体の表面は落ち着いた金色となっています。顔の高さ19cm、肩幅60cm、肱張64cm、膝幅82cm、膝高17cm、蓮華座中最下部框座に円形、その上に荷葉が反花の形状をしています。円輪の中に蓮華の配した光背は、後に補われたものであると考えられています。

熊谷市指定有形文化財・彫刻

こん どう だい にち に よ ら い ざ ぞう

金銅大日如来坐像

マップ番号 40 E-3

所在地：西別府（観音堂）
時代：江戸

江戸時代初期の作と考えられています。右肩をあらわにした形で、像の高さ117cmの金銅製の大日如来坐像です。金剛界（智の世界）を示す智拳印を結んでいます。大日如来は密教の根本本尊であり、もとは西別府の湯殿神社境内東にあった天台宗清瀧院の本尊でしたが、明治初年の廃仏棄釈により、現在は観音堂に安置されています。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

さん じゅうさん たい かん のん ぞう

三十三体観音像

所在地：葛和田

マップ番号 ④ D-8

(大龍寺)

時代：江戸



宝積山白道院大龍寺は、慶長 10 年（1605）、徳川二代将軍秀忠公の
 帰依厚かった幡随意上人が創建した
 と伝えられる浄土宗の名刹です。三十三体観音像は、境内観音堂に安置してありまし
 ましたが、現在は本堂右側に安置してあります。製作年代は江戸初期と推定されています。
 各仏像とも相好極めて円満、彫刻技術も優れたものです。三十三体像はともに像高が
 76cm です。江戸時代庶民は西国、秩父、坂東などの三十三観音霊場巡拝が出来なかつ
 た人のために三十三観音を祀り衆生を救おうとしたことから始まったとされ、当時庶
 民の観音信仰の形態を今に伝えます。

熊谷市指定有形文化財・彫刻

ざ おう ごん げん ぞう

蔵王権現像

マップ番号 ④ B-4

所在地：妻沼台（曾登神社）

時代：室町



本像は桧材、寄木造り。高さ 40cm、胴まわり 16cm、岩座
 22cm で、右手に三鈷を持ち、右足を上げた形をしています。
 室町初期の運慶系仏師の作と推定されています。明治41 年
 (1908)、白山神社に合祀されましたが、里人の要請により現
 在地の蔵王殿に移されました。



風神



雷神

熊谷市指定有形文化財・彫刻

ふう じん らい じん

風神・雷神

マップ番号 ④ C-5

所在地：妻沼（玉洞院）

時代：室町（推定）

観音堂山門に風神・雷神が安置さ
 れていたと伝えられますが、現在は
 堂内に安置されています。木造で像
 高 1.78m、眼光するどく髪型は逆立っ
 ています。風神は、風袋を背負い、
 雷神は、鬼の様な姿で禪を締め、太
 鼓を輪形に背負い手に桴（はち）を持ってい

ます。寺伝によれば正長元年（1428）室町時代の傑作として、この像を参考にして
 作られた像も多いと言われています。

熊谷市指定有形民俗文化財

あい ぜん みょうおう
愛染明王

マップ番号 44 G-8

所在地：下川上（宝乗院）

時代：江戸

本像は、宝乗院愛染堂の本尊であり、大同元年（806）、日本一木三体の一体として造立されたと言う伝説に由来します。像高は、髮際高（髮際までの高さ）で約三尺六寸（1.09m）を計り、像高は1.50mです。台座と合わせると、半丈六（2.42m）を超える大きさとなります。

造立の年代については、彫刻の様式からすると、伝承とは異なりますが、江戸時代前期の造立と考えられます。

仏像は三目六臂の仏相であり、表面の赤色は実在の日光の輝きを示しています。三目の怒相は三界（宇宙）の邪悪を払う形相を示し、六臂は、蓮華や五鈷杵、金剛鈴などを持ち、これらは救済を願う形仏相であると言えます。愛染と「藍染」の関係から、多くの染色業者などの信仰を受けていました。



熊谷市指定有形民俗文化財

こん ばち じ ぞう
権八地蔵

マップ番号 45 J-7

所在地：久下（久下地藏堂）

時代：江戸



久下の地藏堂に安置されている、高さ 1.5mの延命地蔵であり、また子育て地蔵でもあります。元禄 11 年（1698）に作られた、歌舞伎の「鈴ヶ森」などで知られる平井権八が、久下の土手で人を殺し大金を奪ったとき、「このことは黙っていてくれ」と祈ったところ、「われは言わぬが、なれ言うな」と口をきいたというので、この地蔵は「権八地蔵」の他、「物言い地蔵」と言われています。

熊谷市指定有形民俗文化財

せき ぞうじゅうさん ぶつ
石像十三仏

マップ番号 46 H-8

所在地：池上（梅岩院）

時代：江戸

池上にある梅岩院の本堂前の庭先に、一列に並んでいる十三体の

石仏です。像高は 1 m内外の舟形光背をもつ十三仏で、地元の新井吉兵衛氏が寛永 2 年（1625）から天和 3 年（1683）に没した親族などの供養冥福のために造立したものとされています。不動明王から虚空蔵菩薩まで各々がほぼ完形で残されています。十三仏は、室町時代から民間に信仰されるようになり、この頃以前における十王信仰に三仏をつけ加えて十三仏としたものであると考えられています。



熊谷市指定有形民俗文化財

やく し じゅう に しん しょう

薬師と十二神将

マップ番号 47 G-2

所在地：拾六間（徳蔵寺）

時代：江戸

本尊の薬師如来と、脇侍の日光菩薩・月光菩薩と、薬師につかえる十二神将で、15体の石仏です。薬師如来は約1mの大きさで、舟形光背をもっています。他の石仏も舟形光背をもっています。延宝5年(1677)、この地方に疫病が流行し、地元をはじめ近隣の村人が結集し造立したものです。



熊谷市指定有形民俗文化財

く ほん ぶつ

九品仏

マップ番号 48 E-4

所在地：西別府（安楽寺）

時代：江戸

安楽寺の九品仏堂に安置されている9体の木彫阿弥陀如来坐像です。元来同地に所在していた九品仏堂は、養老年間(717～723)に藤原不比等が建立したと伝承されていますが、その後、堂は焼失したと考えられています。現在の九品仏は、銘文に元文4年(1739)の年号が見られ、江戸時代中期の作とみられています。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

もく ぞう くり から ふ どう ぞん

木造俱利伽藍不動尊

所在地：中恩田 時代：江戸

江戸前期に制作された木造俱利伽藍不動尊です。不動明王の変化身である黒龍が剣に巻きつき、剣を呑もうとしている様子が彫られています。両側に童子を従えた三尊様式と呼ばれる形態で、厨子の中に安置されています。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

もく ぞう じゅう いち めん かん のん ざ ぞう

木造十一面観音坐像

マップ番号 49 K-7

所在地：中曽根 時代：江戸

江戸前期に制作されたと推定される木造十一面観音坐像で、大きさは像高21cm、台座22cm、光背高32cmです。荒川洪水の際に流出した仏像が当地に残り、地域の墓地の堂内に安置されています。

熊谷市指定有形文化財・彫刻

きん ぞう じ もく ぞう じ ぞう ぼ さつ りつ ぞう

金蔵寺木造地藏菩薩立像

所在地：中恩田（金蔵寺）

マップ番号 50 K-6

時代：江戸

江戸前期に制作された地藏菩薩立像で、両側に童子を従えた三尊様式です。穏やかな表情の地藏と、彩色豊かに塗られている袈裟が特徴です。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

じ ぞう せん

いぼとり地藏尊

マップ番号 51 K-7

所在地：沼黒（正福寺）

時代：江戸

沼黒山正福寺に安置されている地藏尊で、江戸前期の作とされています。表面が金色に輝き、円形の後輪と共に偉容を表現しています。「いぼ」を取るという願いを込めて参拝すると御利益があるとの言い伝えから、江戸時代の後半には関東一円からの参拝者がありました。毎年 10 月 23 日、1 月 23 日が縁日となっています。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

ほう どう じ あ み だ にょらい ぞう

寶幢寺阿弥陀如来像

マップ番号 52 ト-4

所在地：押切（寶幢寺）

時代：鎌倉～室町

制作年・制作者は銘文などが確認されていないので不明ですが、その様相から鎌倉から室町時代にかけて制作されたものと考えられています。像高は 76.0cm、やや面長で端正な目鼻立ち、衣の衣紋線は彫りが深い特徴があります。一部金箔を残し、制作当時をうかがうことができます。手には薬壺を持ちますが、これは後補と考えられています。



熊谷市指定有形文化財・彫刻

どう ぞう あ み だ にょらい りつ ぞう

銅造阿弥陀如来立像

マップ番号 53 J-7

所在地：小泉（常永寺）

時代：鎌倉

像高 30.5 cm、台座の高さ 9.4 cm の大きさです。丁寧かつ堅実な仕上がりの像で、製作期は 14 世紀前半までさかのぼる可能性があります。台座は江戸時代の後補で、框座側面に銘文が陰刻されています。



熊谷市指定有形文化財・歴史資料

きゅうかん のん し じ ぞう

旧観音寺地蔵

マップ番号 54 I-4

所在地：樋春

時代：江戸

本地蔵は、旧観音寺境内跡地に所在しています。全姿丸彫で、右手に錫杖（しゃくじょう）、左手に宝珠（ほうしゆ）を持っています。台座には石工（いしぐ）の名前が松井清兵衛清昌と刻まれています。当人は 18 世紀前半に現在の熊谷市宮町付近に住んでいた石工です。法量は総高 207cm、身 高 98cm、身幅 32cm、身厚 24.5cm です。

熊谷市指定有形文化財・歴史資料

かん せい めい ぞう たい どう そ じん ぞう

寛政銘双体道祖神像

マップ番号 55 I-3

所在地：押切

時代：江戸

道祖神は日本古来の邪惡（さあく）をさへぎる塞神（さいのかみ）と中国古来の道祖神信仰が合わさったものです。道陸神（どうりくじん）などと呼ばれ、村境や峠、辻、橋のたもとに建立され、外から入ってくる疫病・悪靈など防ぎ、村人を守ってきた歴史があります。本道祖神は、ドウロクジンサマと呼ばれており、足の神様としての信仰があり、足の病気になる大きなわらじをつくって奉納する伝承があります。銘文には、「大里郡上押切 施主 村中寛政十年八月十一日 願主慧昌」と刻まれています。法量は総高全高 76cm、全幅 27.5cm です。



所在地：押切

時代：江戸



波に乗る七福神の女神

享保銘の「波乗弁財天像」は、荒川に架かる押切橋南側の押切地区にある石仏です。この押切という地名は、川の水が土手を押し切ったことから名付けられ、この地区が度々洪水に見舞われたことを物語っています。また、周辺には荒川から取水した御正用水が流れ、荒川南(右)岸の農業などに利用されています。

弁財天は、インダス川支流の五つの川が流れる肥沃な農耕地帯の河神として尊ばれた女神を発祥とし、農業神や音楽の神などに転じながら、七福神の一つに加えられています。日本においては、古くから水運の安全や水害防除を祈願して水辺や川の付近に弁財天像が祀られてきました。

「波乗弁財天像」の造立年は、銘文から享保 12 年(1727)ということが分かっています。波頭(はとう)に出現する弁財天の様子、荒れる川の波に乗っているように見えることからこの名称が付けられています。石造りの弁財天像は類例が少なく、貴重な歴史資料であると言えます。

この波乗弁財天像は半浮彫りと呼ばれる技法により彫られ、穏やかな笑みを浮かべているように見えます。この像は手が八本ある八臂(はつへき)と呼ばれ、左手第一手から宝珠、輪宝、弓、財宝を表す蔵の鉤、右手第一手から宝剣、三叉戟と呼ばれる先端が三つに分かれた矛、宝棒、縄を持っています。そして、頭上には鳥居や蛇神が刻まれ、その上に日輪、月輪が配されています。太陽や月の持つ恩恵に対する、村人の五穀豊穡の願いが込められているものと考えられます。法量は総高全高96cm、全幅38cmで波頭・輪宝等に赤彩です。



熊谷市指定有形民俗文化財

そうぎょう こう しん とう

僧形庚申塔

マップ番号 57 D-6

所在地：西城(長慶寺)

時代：江戸

寛文元年(1661)、他地域の庚申講により建立されたものを現在地に移したと伝えられています。主尊は、僧形の庚申で、上部に二鶏(二羽り鶏)、腰部の左右に二匹の猿が配されています。主尊は一身四臂(四体の腕)で、中央で合掌、他の二臂は剣と三鈷叉を持っています。庚申塔の造塔が広まったのは寛文初期からであり、それ以前の県内での事例は少なく、僧形庚申塔としては珍しいものです。妻沼地方に庚申信仰が庶民に広まったのは寛文年間以後とされており、以来変化のある庚申塔が造立されました。



10 書の有形文化財と有形民俗文化財—書跡と歴史資料

熊谷市指定有形文化財・書跡

くう かい ひつ ほん にや しん ぎょう
空海筆般若心経

所在地：永井太田（能護寺）

時代：室町

この般若心経は、平安時代初期の高僧弘法大師（空海）の称で知られている真言宗の開祖の書として綿々と受け継がれてきた一品です。空海は仏法を世に説き、日本文化史上偉大な功績を残した人物で、特に書は日本三筆の一人として独自の書風を完成したことで知られています。この般若心経は、縦 21cm、横 50cm の鳥子金欄表装の巻物で「嘉永五年季夏現務英雄氏」と、内書きのある箱に納められ表面には「御能護寺」と示されており、一見ねずみの足跡にも見えることから、一名「ねずみ心経」とも言われています。大同 4 年（819）、空海東国巡行の際に当寺を再建して般若心経を付与し、寺宝として伝えられたと語り継がれています。



熊谷市指定有形文化財・書跡

てら かど せい けん しよ せん めん し
寺門静軒書扇面の詩

所在地：葛和田

時代：江戸

寺門静軒の書。舞原家七代弥五エ門の次男保太郎が 23 歳で、上州秋妻村（現在の群馬県邑楽町）の築比地家（ついで）に迎えられて出立する祝儀に際して、静軒が祝いの扇子を贈ったものです。松の枝が描かれ、「梅がえの ふりよくならぶ みやうと松 いく千代かけて 結ぶみどり子、祝新婚 七十翁静軒」と記されている。慶応元年（1865）の作で、縦 14.5cm、横 49cm の扇面を額表装したものです。

熊谷市指定有形文化財・書跡

りょう ぎ じゆく き
両宜塾記

所在地：妻沼（元本：川口市）

時代：江戸

万延元年（1860）「両宜塾」の開設にあたり、塾名の由来や周辺の様子などを寺門静軒が記した書跡です。法量は縦 29.5cm、横 82.5cm の大きさの軸です。



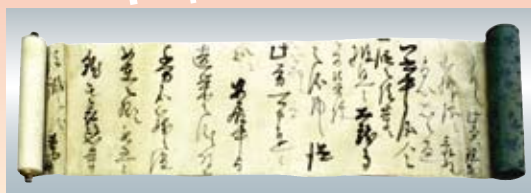
熊谷市指定有形文化財・書跡

幡随意上人の書

所在地：葛和田（大龍寺）

時代：江戸

幡随意上人は、大龍寺の開山であり、熊谷寺の中興及びに館林の善導寺を開山するなど全国に多数の寺院を創建した名僧で、特に徳川二代将軍秀忠の帰依が深かったといわれています。書は掛軸2点と書翰^{しようかん}1点です。掛軸は「宝積山」（山号）と「南無阿弥陀仏」（名号）です。書翰は大龍寺の開墓であり、成田家の家臣である島田妥女正あての書翰です。



熊谷市指定有形文化財・歴史資料

きゅうせん だい むら こう さつ

旧千代村高札

所在地：千代（熊谷市立江南文化財センター）

時代：江戸～明治

旧千代村（現在の熊谷市千代）に掲示されたので、次の高札によって構成されています。

- ・切支丹禁制の高札 元和二年五月□日奉行
折井市左衛門
- ・御鷹場の高札 享保六年七月
- ・切支丹禁制の高札 明治二年九月太政官 浦和県
- ・勧善の高札 慶応四年三月 太政官
- ・徒党の高札 慶応四年四月 太政官



熊谷市指定有形文化財・歴史資料

五俵の掲示 高札

所在地：樋春

時代：明治

本高札は、慶応4年（1868）に、明治新政府が旧幕府の高札を撤去し、そのかわりに立てることを命じた「五俵の掲示」と言われる5枚の高札の中の3枚です。これは新政府の国民に対する最初の公式な法令で、第一札は「五倫の道」を正しく行うことを説き、第三札はキリシタンの禁止を命じ、第五札は郷村脱走の禁止を命じたものです。これらの高札は、保存状態も良好で、明治新政府の対民衆政策を示す貴重な資料として価値が高いものです。



第一札「五倫の道」



第三札「切支丹禁止」



第五札「王政復古」

熊谷市指定有形文化財・書跡

ふすま
襖

所在地：平塚新田

時代：江戸

安藤野雁筆。襖 4 枚に「春去者霞棚引百鳥文来鳴遊ふと空蟬之人も尽若菜採処女能友波白砂能袖振交四紅能丹裳垂」の書き出しで、本文署名合わせて 103 字が濃淡中庸の墨で淡々と、極めて自然に書かれた作です。技巧的な側面に精神の自由さを合わせた点に特色があり、素朴な中にも心をひきつけられる優品です。



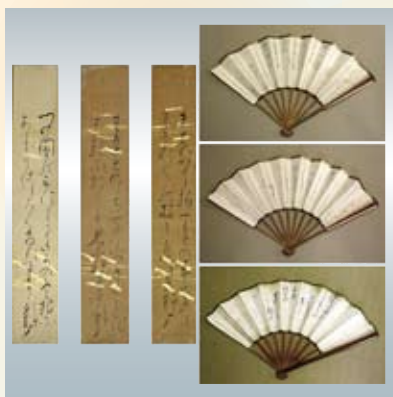
熊谷市指定有形文化財・書跡

せん めん てん たん ざく てん
扇面 9 点・短冊 7 点

所在地：平塚新田

時代：江戸

安藤野雁によって記された扇面と短歌です。扇子は八寸程度の普通の扇子で、地紙は若干古色を帯びています。筆運びの微妙な感覚や独特な字形により書かれており、その流麗な表現は野雁独特のもので、それぞれの歌をその運筆の微妙さによって引き立てています。野雁の代表的な貴重な書といえます。



熊谷市指定有形文化財・書跡

きゅう せん だい むら みず ちょう

旧千代村水帳

所在地：銀座

時代：安土桃山

文禄4年(1595)の検地帳で 24 貼によって構成されています。

水帳は、検地の時土地を所有する百姓名・畝歩・品位・石盛などを記帳した帳面で、これによって年貢・諸役の割合を定めたものです。

本水帳はいわゆる太閤検地のもので、天正17年(1589)から文禄4年(1595)にかけて行われた土地台帳です。その中には次のような表記が確認出来ます。

表紙(裏面) 文禄四年十一月十一日

武州男衾之郡千代村御縄打水帳也



熊谷市指定有形文化財・書跡

こま がた じん じゃ ご しゅ いん じょう

駒形神社御朱印状

所在地: さいたま市

(埼玉県立文書館へ寄託)

安穏寺(現在廃寺)が有していた、駒形神社(現在は渡唐神社内に合祀)に下附されたもので、三代將軍徳川家光を始め九代にわたる將軍より受領したものです。「慶安二年八月廿四日」の家光の記名以降における「吉宗・綱吉・家重・家治・家斉・家慶・家定・家茂」の八代の將軍の朱印状が現存しています。



にじゅう

熊谷市指定有形文化財・書跡

い がく てん しょう き

医学天正記

所在地: 上新田

時代: 室町~江戸



柴田家の始祖、柴田右馬之助藤原道忠の書いたもので、「授藤原姓柴田氏家伝」として、代々伝えられた書籍類の写本です。広範囲の内容が書かれている中で、病気にかかった実在の人名・

年齢や病状を述べ、さらに治療法を記し活用の指針としたものと考えられます。上下二巻から構成されています。上巻には「慶長十四年酉立夏上旬 柴田右馬之助藤原道忠再改写之目録」と示され、「中風 感冒 傷風 中暑 傷寒 中温 口乱 痢疾 内傷 咳嗽 嘔吐 諸氣腫脹」と記されています。下巻には、「慶長十四年酉仲秋下旬 痢疾 痛風頭痛 心痛 虫痛腰痛 潮熱 淋閉 秘結 痔漏 下血 吐血 耳痛 咽喉」といった病名やその治療法が書かれています。

熊谷市指定有形文化財・書跡

わた なべ か ざん しょ かん

渡辺華山書翰

所在地: 押切

時代: 江戸

天保3年(1832)華山が、藩主三宅康直の命を受けて田原藩の系図作成をかねて現地調査のため三ヶ尻村(現在の熊谷市三ヶ尻)を訪れた際、下押切村持田家を訪ねたところ、非常に感心し「いとめでたき翁あり」とほめたたえて送ったとされている書翰です。「いとめでたき翁あり。姓は持田とて押切村と言うところの農なり。いかなるめでたきことありて、かくはよろこぶというに、この翁よくものよみて、聖の道にも深き友にもあらず……(略)・月かげも にごりにもそまで あら川の きとき流れに すめる宿かな 十一月望 のぼる」と記されています。落款に「のぼる」と仮名文字が使われている珍しい事例です。



熊谷市指定有形文化財・古文書

なり た し ぶん げん ぼ

成田氏分限簿

所在地：上之（龍淵寺）

時代：安土・桃山（戦国）

天正 10 年（1582）2 月の忍城主成田氏の家臣団について記録した帳簿です。これによると総知行高は 6 万貫で、本庄越前守を筆頭に家門侍、豊島（手島）氏、久下氏、奈良氏など譜代侍、そのほか加勢侍など熊谷周辺の 1,306 人の武士たちの名前と禄高が書かれています。当時の成田氏の勢力を推し量ることができる貴重な帳簿です。なお、この『分限簿』は、市指定となっている龍淵寺本のほかに、数種の写本が確認されています。



熊谷市指定有形文化財・古文書

なり た き

成田記

所在地：上之（龍淵寺）

時代：江戸

文化 7 年（1810）、上之の名主小沼十五郎が成田氏について記録した書物です。編さんの動機については、「成田氏の後裔や臣下の末孫が、遠国より縁故をたよって尋ね来ることが多いが、宝暦の火災により旧記が焼失してしまい、事実不明な点が多いので考訂して記録を世に伝える」とあり、戦記、史書、古文書や伝説などをもれなく調査、研究し、成田氏の歴史を知る上で貴重な書物です。



熊谷市指定有形文化財・古文書

ほん じん え ず

本陣絵図

所在地：本石（寄託 桜木町熊谷市立熊谷図書館）

時代：江戸

嘉永 2 年（1849）に一条忠良の娘、寿明姫が宿泊されたときに差し出した本陣絵図の控えです。熊谷宿の本陣は明治 17 年（1884）の大火と、昭和 20 年（1945）の戦災によって灰燼に帰しましたが、この絵図によって概要を知ることができるという点で、貴重な絵図です。これによると、表は中山道（現在の国道 17 号線）から裏は星川に至る広大な屋敷で、規模、構造とも全国屈指のものであったことがわかります。現在は、本陣跡として往時の場所が市の史跡に指定されています。

熊谷市指定有形文化財・古文書

ほん じん せき ふだ まい

本陣の関札 10 枚

所在地：本石（寄託 桜木町 熊谷市立熊谷図書館）

時代：江戸

熊谷宿の本陣である、竹井家に伝わる関札です。関札は、参勤交代などで諸大名が宿場に泊まる時に、前もって本陣に掲げることで他の一行との間違いを避けるために、諸大名が製作したものです。泊まる都度に新調したため、掲げられた関札は旧本陣の家で保存されており、玄関や床の間などに並べて供物をささげるなど、大切に保管されていました。竹井家に伝わるものは10枚で、長さ約1mほどのものであり、諸大名のお家流の文字で、流麗に書かれています。



熊谷市指定有形文化財・古文書

秘伝書

所在地：新堀

時代：明治

鎌倉時代後期の相州正宗に端を発する鍛造の秘伝を後世に伝えるため、震鱗子景一が口伝を交えて記述した秘伝書です。父克一とともに諸国を歩き、現在の熊谷市新堀に居を定め鍛冶場を開き、明治7年(1874)頃まで作刀を行いました。なお、この秘伝

書には「明治十三年二月日」と記され、「大日本東武旛羅住 震鱗子 深井平景一（花押）」とあります。そして宛名には「(清) 鱗子 野口重一殿」とあり、現在この秘伝書を伝える野口家との関わりを示しています。

熊谷市指定有形文化財・古文書

あさ ま やま ふん か にっ き

浅間山噴火の日記

所在地：石原

時代：江戸

天明3年(1783)7月におきた浅間山の大噴火に関する日記です。この日記は、当時の石原村名主松崎十右衛門が記したいわゆる「御用留」で、噴火による災害復旧のための普請などが記録されています。「天明三癸卯年七月五日より八日夕方」の書き出しで始まり、「浅間山砂石共ニ吹出し」「忍領筋村々砂降申候」

など、当時の様子が克明に記されています。



熊谷市指定有形文化財・古文書

しの ば け ち ん じ ゃ 篠場家文書

所在地：板井

時代：戦国～明治

本文書は、当地に近代まで所在した本山派修験寺院である長命寺の住職を勤めた篠場家に保存されてきた史料群です。戦国期の文書5点と近世初頭から明治初年にかけての文書20点で構成されています。

戦国期の文書は、天文23年(1554)の長命寺再興に関する文書や天正7年(1579)の上比企郡年行事職の許可に関する文書をはじめ、京都の本山聖護院門跡からの御教書が含まれています。

近世の文書は、文禄3年(1594)の幸手不動院からの長命寺跡職引継書をはじめ、天和3年(1683)の浅黄総結袈裟着用許可に関する聖護院門跡からの許可状、寛政5年(1793)の本末改帳といった長命寺自身の支配下修験の存在を知ることができる史料などがあり、関東における修験の存在状態を知る上で貴重な史料となっています。



熊谷市指定有形文化財・古文書

あし かが たか うじ こ はん み きょう しょう やま した きょうすけ あて ね ぎしたけ か しょうじょう しょう 足利尊氏御判御教書 付 山下教輔宛根岸武香書状「證」1点 かん てい しょう 足利尊氏御判御教書鑑定書 1点

所在地：平塚新田（寄託 桜木町：熊谷市立熊谷図書館）

時代：室町

足利尊氏が、観応3年(1352)7月28日付で、家臣の仁木修理亮あてに申し付けた命令書です。文書は、尊氏の右筆安富行長の筆跡で、花押は尊氏自身のものであると推定されています。



11 文化財記念物と熊谷の歴史—史跡と旧跡

国指定記念物・史跡

みやつかこふん

宮塚古墳

マップ番号 59 H-4

所在地：広瀬

時代：古墳

国指定史跡の宮塚古墳がある広瀬古墳群は、荒川左岸の自然堤防上に立地する古墳群です。古墳群は、宮塚古墳のほか 10 基が確認されており、円墳が 8 基、方墳が 2 基あります。半数以上の 6 基が墳丘

を今に残し、宮塚古墳の東側には、天神神社の社殿が墳丘の上にある円墳（直径 25m、高さ 4 m）があります。この古墳のように墳丘に祠がのる古墳が他にも見られ、いずれも昔から人々の信仰の対象となっていたことが推察されます。

宮塚古墳は、全国的にも珍しい上円下方墳という墳形をもち、昭和 31 年(1956)に国指定史跡として指定されました。上円下方墳とは、方形の段の上に円形の墳丘がのる特異な形で、全国に目を向けてみると、天皇家や有力豪族たちが採用した墳形で有名です。規模は、上円部が直径約 10m、下方部が西辺 24m、東辺 17m で、高さ 4.15m です。築造の時期は、古墳時代の終わりにあたる 7 世紀～8 世紀初頭と考えられます。

また、この地区には山王という小字名が残り、かつて山王様を祀っていた可能性があり、宮塚古墳は「山王塚」とも「お供え塚」ともいわれています。



埼玉県指定記念物・史跡

しおこふんぐん

塩古墳群

マップ番号 59 K-3

所在地：塩

時代：古墳

塩地区に所在する埼玉県指定史跡「塩古墳群」は、古墳時代前期（3 世紀後半から 4 世紀終わり頃）に造営された古墳群です。前方後方墳 2 基、方墳 26 基、円墳 8 基古墳が確認されています。

塩古墳群の古墳の多くは、弥生時代の流れを引き継いでおり「前方後方墳」と四角形の「方墳」に分類されます。



塩古墳群発掘調査の経過

平成5年(1993)に、古墳群の中心となる1号墳の発掘調査が行われ、古墳の周りの溝から、埋葬者に供えられたと推定される土器が出土しました。この調査では、古墳の隅がほぼ直角に折れ曲がることが分かり、全長35.3メートルもの規模をもつ「前方後方墳」であることが判明しました。

昭和30年代頃の調査では、この1号墳と隣接する2号墳は「前方後円墳」と認識されていました。しかし、研究者の間からこの2つの古墳について「後円部が丸でなく四角い形をしているのではないか」という指摘があり、昭和53年(1978)に測量調査を行ったところ、後円部が丸ではなく四角く直線的な形状が示されました。これに続く昭和56年(1981)の再調査の際には、さらに測量の精度が上がり、各辺が直線的になる「前方後方墳」の可能性が高くなりました。

そして、上述の通り平成5年(1993)に実施された発掘調査によって、墳形が「前方後方墳」として確定し、周囲に残されていた古墳も円墳ではなく、方墳であることが分かりました。これにより前方後方墳と方墳で構成された、当地域で最も古い時代の古墳群であるという特質が明らかになりました。このことから塩古墳群は、県内の古墳の始まりを考える上で重要な意義を持っています。

埼玉県指定記念物・史跡

かぶと やま こ ふん

甲山古墳

マップ番号 60 M-7

所在地：青山

時代：古墳

大里地区には古墳が、現在43基確認されています。前方後円墳は、とうかん山古墳(箕輪字中廊)、楓山古墳(箕輪字楓山)、東山1号古墳(青山字東山)、大境南1号古墳、大境南2号墳(青山字大境)などがあります。

甲山古墳は全長90m、高さ11.25m、二段築成で、埼玉古墳群の丸墓山古墳に次ぐ県内2番目の大型円墳と考えられています。

昭和53年(1978)、墳丘の測量調査が実施され、墳丘の東側に張り出しが認められました。この部分は、墳頂に建立された青山神社の参道として江戸時代に削平されていました。この張り出しが前方部の名残か、墳丘が参道として削り出されたものか不明です。また、この張り出しから帆立貝式の前方後円墳としている研究者もいますが、周溝が未調査で、張り出しの性格がはっきりしないため、前方後円墳とは断定できない状況です。

出土品は、『新編武蔵風土記稿』や『埼玉県史』によると、埴輪、須恵器、玉類、鏡、大刀などが出土しています。近年の分布調査により、墳丘中段のテラス部分や墳丘の裾で円筒埴輪片が採集され、6世紀中頃の築造と考えられています。平成元年(1989)、県指定史跡に指定されました。



埼玉県指定記念物・史跡

とうかん山古墳

マップ番号 ⑥ L-7

所在地：箕輪
時代：古墳

箕輪地区にあるこの古墳は、南北の全長約 74m、高さ約 7m を測る前方後円墳です。発掘調査は行われていませんが、埴輪片が採集されており、築造時期は 6 世紀後半と考えられています。



埼玉県指定記念物・史跡

別府氏墓

マップ番号 ⑥ E-4

所在地：西別府（安楽寺）
時代：南北朝・室町

大小 2 基の五輪塔と 3 基の板石塔婆で構成されます。五輪塔は大きい方が別府頼重、小さい方が夫人の墓と伝われています。頼重は西別府に館を構え、九品仏堂を再建したと伝えられています。板石塔婆は、中央にある大きいものが頼重のもので、文和 3 年 (1354) の紀年銘があり、彫りも力強く、南北朝時代の特色を示しています。



埼玉県指定記念物・史跡

別府城跡

マップ番号 ⑥ E-4

所在地：東別府（東別府神社）
時代：平安～室町

平安時代末から室町時代にかけての別府氏の居館跡で、土塁・堀が残っています。「城跡」として県の指定を受けたのは、市内で唯一です。敷地は東西約 100m、南北約 90m です。堀は幅約

5 m、深さ約 2.3m で、土塁は高さ約 2m です。中世武士の屋敷跡の遺構を今に残しています。

埼玉県指定記念物・史跡

ちゅうじょう し やかた あと

中条氏館跡

マップ番号 66 F-7

所在地：上中条（常光院）

時代：平安～鎌倉

平安時代末期、藤原氏から出た常光は中条の地に館を構えて中条氏を名乗りました。その常光の孫の家長は鎌倉幕府の評定衆となり貞永式目の制定に加わりました。常光院は、建久3年(1192)、家長が祖父の菩提を弔うため、館の一部を寺としたと伝わっており、現在も土塁・堀の一部が残っています。



埼玉県指定記念物・旧跡

吉田市右衛門墓

マップ番号 66 E-6

所在地：下奈良（集福寺） 時代：江戸

江戸時代末期、下奈良村の名主を務めた吉田市右衛門の墓です。宗敏は、天保4年(1833)の大飢饉の時、幕府に金1万両を献上し、土木工事に資金を寄附しました。伊豆地方の大飢饉にも種籾数百俵を送るなど多くの慈善事業に尽力しました。歴代の市右衛門の善行は幕府や忍藩からもしばしば讃えられています。



埼玉県指定記念物・旧跡

奥原晴湖墓

マップ番号 67 G-7

所在地：上之（龍淵寺） 時代：大正

江戸時代末期から大正初期にかけて活躍し、近代日本南画史に残る女流画家である奥原晴湖の墓です。天保8年(1837)古河で生まれ、元治2年(1865)、江戸に出て本格的な画人として活躍し、明治24年(1891)、旧古河藩領であった熊谷市上川上に移り、多くの作品を残しました。



埼玉県指定記念物・旧跡

おしりょう せき ひょう

忍領石標

マップ番号 68 G-4

所在地：石原 時代：江戸

安永9年(1780)、忍藩主が領地の境界を示し、他藩との境界争いを防ぐため16か所に建てた石標の一つです。新島と石原の境にあり、高さ190cm、幅30cmで、「従是南忍領」と大きく刻まれています。原料の石材は、利根川の酒巻河岸（行田市）から1日50人の人が2日かかりで運んだといわれています。

埼玉県指定記念物・旧跡

ちちぶみちし

秩父道志るべ

マップ番号 69 H-5

所在地：石原 時代：江戸

江戸時代に盛んであった秩父札所の観音信仰で往来した巡礼者などのために建てられた 3 基の道標です。江戸から秩父へ行く道の一つとして熊谷宿を通過し、石原村で中山道から分かれて、寄居・釜伏峠・三沢を経由する「ちちぶ道（秩父道）」がありました。この道志るべは、秩父四万部寺への距離と方向を示したもので、明和 3 年（1766）、中山道と秩父往還の分岐点付近に建立されました。



熊谷市指定記念物・史跡

ごんげんざか は にわ かま あと ぐん にしぐん

権現坂埴輪窯跡群(西群)

所在地：千代
時代：古墳

マップ番号 62 J-2

平成 3 年（1991）に旧江南町教育委員会が、ゴルフ場の外周道路建設に先立つ試掘調査で 10 数基の埴輪窯を確認しました。東側は、埼玉県選定重要遺跡（権現坂埴輪窯跡群）となっており、新たに発見された窯跡は谷を挟んだ西側の一群です。東群の窯跡と合わせると県内最大規模の埴輪窯跡群になるものと推定され、粘土採掘から製作・焼成までの一連の埴輪製作関連遺構が良好な状態で保存されている点などが評価され、重要な遺跡として認められています。



熊谷市指定記念物・史跡

てらうちこだいじいんあと

寺内古代寺院跡

マップ番号 70 J-2

所在地：柴
時代：奈良～平安

平成 4 年（1992）から、ゴルフ場の造成にともない、旧江南町教育委員会・江南町千代遺跡群発掘調査会により、発掘調査が行われました。調査の結果、本寺院跡は 8 世紀半ばに創建され、10 世紀後半には焼失により活動を停止していることが推定されました。寺院の敷地を区画する東西 540m 南北 200m、上面幅 6m、下面幅 3m、深さ 1m の大溝や、伽藍の中心部を巡る溝、築地などの施設と整然と配置された伽藍が確認されており、当時、諸国に建立された国分寺にも劣らない規模と内容を備えていたことが考えられています。史跡指定地内には、金堂・講堂・中門・参道・東塔などが建立されていたことが確認されています。



熊谷市指定記念物・史跡

陣屋跡

マップ番号 ㉑ H-6 A

所在地：本町 時代：江戸

江戸時代、熊谷宿は忍藩に属しており、忍藩主の命を受けての町の運営が行われ、宿の役人が担っていました。陣屋跡は、忍藩の役人が交替で訪れ、熊谷宿の運営の監督をした役所の跡であるとされています。平時は留守番を置き、事あるときは役人を派遣して事務を行いました。



熊谷市指定記念物・史跡

札の辻跡

マップ番号 ㉒ H-6 A

所在地：本町 時代：江戸

法令・禁令などを墨で板に書き入れた高札を掲げる場所で、高札場ともいわれました。宝永年間（1704～1711）に描かれた「見世割図面写」によると、中山道と現在の大露路通りの交差する付近に立てられたものと考えられます。大きさは、高さ1丈1尺（3.3m）、長さ2間4尺3寸（約5m）、横幅6尺4寸（約2m）であったと図面の写しに書かれています。



熊谷市指定記念物・史跡

ほん じん あと たけ い ほん じん

本陣跡（竹井本陣）

マップ番号 ㉓ H-6 A

所在地：本町 時代：江戸

江戸時代、各街道の宿場町に置かれた大名や幕府役人・公家・貴族などのための特別な旅館です。熊谷には竹井本陣・鯨井本陣・石川本陣の3軒の本陣がありました。竹井本陣は、「本陣絵図」により間取りの状況が明確であり、規模・構造ともに全国屈指のものであることが分かっています。

熊谷市指定記念物・史跡

一里塚

マップ番号 ㉔ G-4

所在地：新島 時代：江戸

一里塚は、慶長9年（1604）、江戸幕府が江戸日本橋を起点に、東海道・中山道など主要な街道沿いに、旅の道のりの目印とするため、築されました。街道の両側に1里（約4km）ごとに設けられ、榎やけやきが植えられていました。現在の一里塚は、旧中山道の東側に築かれたものが残されており、江戸時代半ば頃に植栽されたと考えられるけやきがあります。



熊谷市指定記念物・史跡

亀井の井戸

マップ番号 ⑦ L-8

所在地：相上 時代：江戸

源平合戦の頃からの伝承で、かつて湧出していたこの井戸水で病が治ると言われていました。現在はその井戸の形跡として、石製の井戸枠が残されています。



熊谷市指定記念物・史跡

玉井四郎の墓

マップ番号 ⑦ F-4

所在地：玉井（玉井寺） 時代：江戸

不整形な石を五輪塔形に積み重ねた墓で、古くから玉井四郎の墓と称されており、後世の人が玉井氏の供養のために建てたものと考えられます。玉井氏は、『成田氏系図』によると成田助高の子助実が玉井四郎と称し、玉

井氏の祖となっています。『保元物語』の白河殿夜討ちの条には、源義朝に従い玉井四郎が軍功を立てたことが示されています。



熊谷市指定記念物・史跡

元素楼跡

マップ番号 ⑦ F-4

所在地：玉井 時代：明治

蚕糸業の先覚者である鯨井勘衛が、明治2年(1869)に蚕糸改良の目的で屋敷内に建てた3階建て、間口16間、奥行8間の大蚕室『元素楼』の跡です。清涼飼育という蚕児飼育法を考え出し、各地から教えを請う人が後

を絶たなかったと言われています。現在は、明治6年(1873)、時の昭憲皇后などがお立ち寄られた際の行啓記念碑が建てられており、当時の歴史を今に伝えています。

熊谷市指定記念物・史跡

奈良三郎の墓

マップ番号 ⑦ F-5

所在地：上奈良（妙音寺） 時代：江戸

『成田氏系図』によると、奈良三郎は成田助隆の三男三郎高長で、奈良氏を名乗ったので奈良氏の祖といわれています。後に、妙音寺を開基しました。奈良三郎の墓といわれている自然石の表面には「開山観音院頼尊」などが刻まれており、享保年間（1716～1735）に外記という人物が再建したものであると伝えられています。



熊谷市指定記念物・史跡

成田氏の墓

マップ番号 ㊦ G-7

所在地：上之（龍淵寺） 時代：室町～江戸

成田氏は、平安時代中期頃、藤原氏から出た助高が成田氏を名乗り、上之の堀之内を中心に居住し、江戸時代初期まで関東の名族として知られた武蔵武士です。宝篋印塔 4 基・五輪塔 2 基・板石塔婆型 1 基の合計 7 基の墓があり、室町時代初期から江戸時代までのものです。大きさは、板石塔婆型が 1.6m、五輪塔は約 1 m、宝篋印塔は 2 基が 1.2m、残りの 2 基が 1 m です。



熊谷市指定記念物・史跡

竹井澹如翁碑

マップ番号 ㊦ I-6

所在地：万平町 時代：昭和

澹如は、群馬県に生まれ、慶応元年 (1865) 熊谷宿本陣をつとめた竹井家を継ぎ、明治 12 年 (1879) 初代の埼玉県議長になり、政治面で活躍しました。産業・土木関係においても大きな功績を残した熊谷の先覚者です。この碑は、昭和 7 年 (1932) 竹井家大神宮の神域に建てられたものですが、翁碑再建の会によって昭和 35 年 (1960)、万平公園内の旧熊谷堤の上に再建されたものです。



熊谷市指定記念物・史跡

大塚古墳

マップ番号 ㊦ G-8

所在地：大塚（熊野神社） 時代：古墳

墳頂に熊野神社が祀られている円墳で、直径約 59m、高さ 1.2m の基壇上に、直径 35m、高さ 4 m 以上の円形の塚がのった形です。石室は横穴式石室で、全長 9.6m、最大幅 3.4m です。現在、玄室は奥室だけ残っていますが、南側に前室がある複室構造と発掘調査によって確認されています。調査により鉄鍬・鞘尻金具・須恵器の大甕などが出土しました。



熊谷市指定記念物・史跡

西別府館跡

マップ番号 ㊦ E-3

所在地：西別府 時代：平安

東別府に居住した別府二郎行隆の二男二郎行助が構えた館跡です。子孫の甲斐守頼重は安楽寺の九品仏堂を再興しました。土塁などの遺構は残っていませんが、小字名に出口・西方・北方などがあり、この館跡を中心に呼称されたものと推定され、館の北西にある湯殿神社も守護神として信仰されたと考えられます。





熊谷市指定記念物・史跡

なり た し やかた あと

成田氏館跡

マップ番号 83 H-7

所在地：上之 時代：平安～室町

成田氏は、初代助高から九代親泰に至る400余年熊谷市上之に館を構えていましたが、延徳3年(1491)、親泰が忍大丞を攻め滅ぼし、本拠地を忍城(現在の行田市)に移しました。現在、館跡の遺構である堀や土塁は見られませんが、地元の話や地形図から判断すると二重の堀をもつ館であったことが考えられています。

熊谷市指定記念物・史跡

にし べつ ぶ さい し い せき

西別府祭祀遺跡

マップ番号 84 E-3

所在地：西別府 時代：古墳～平安

古墳時代後期から平安時代まで湧水地で祭祀が行われた遺跡で、県選定重要遺跡でもあります。昭和38年(1963)と平成4年(1992)の発掘調査により、土師器・須恵器・滑石製模造品などが発見されました。滑石製模造品は約300点出土し、勾玉形・有孔円板形・剣形や県内でも珍しい馬形・櫛形・有線円板形などが見られます。



熊谷市指定記念物・史跡

よこづか やま こ ふん

横塚山古墳

マップ番号 85 E-5

所在地：中奈良 時代：古墳

古墳の代表的な形態である前方後円墳で、全長は約40m、後円部径22.5m、高さは後円部で3.2m、前方部で2.5mです。国道404号線工事に伴って、昭和46年(1971)と昭和52年(1977)の2度の発掘調査により周溝の一部や円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪などが発見されています。古墳の年代は、出土した埴輪から5世紀後半と考えられます。



熊谷市指定記念物・史跡

ぎょうにん づか こ ふん

行人塚古墳

マップ番号 86 J-4

所在地：成沢 時代：古墳

方墳で、一辺23m、高さ3.5mの規模です。昭和61年(1986)旧江南町教育委員会による墳丘測量と周溝確認調査の結果、本古墳は一辺が23mの方墳となることと、周溝は浅く四隅が切れることが判明しています。また、周溝確認に際して、古墳時代前期の竪穴住居跡一軒が検出されており土器類のほか、フイゴの羽口・鉄滓・台石・叩き石などが出土しています。そのことによりこの住居跡が製鉄か鉄器製作にかかわる小鍛冶跡であることが推測されています。

熊谷市指定記念物・史跡

あまのしはか 天野氏の墓

マップ番号 ㊦ F-7

所在地：上中条（常光院）

時代：江戸

常光院の歴代墓地の西側にある、3基の宝篋印塔型の墓碑で、天野忠重とその子忠詣及び孫忠頭たけしげ たけあきの供養塔です。江戸時代初期のもので、完形で保存状態もよいものです。忠重は徳川幕府の家臣で、江戸幕府の創建に貢献し、功績をたたえられ、日光東照宮域内の釈迦堂に墓碑が建立されている譜代家臣 19 人の中の 1 人です。



熊谷市指定記念物・史跡

たかねおうけつほ 高根横穴墓

マップ番号 ㊨ K-3

所在地：小江川

時代：古墳

本横穴墓は、和田川の支流によって開析された細長い高根地区の丘陵の山頂付近に位置しています。開口部は幅2.5m、高さ1.5m、奥行4mを測り、空洞の形態はカマボコ形をしています。構造的に見ると、吉見百穴横穴墓群や黒岩横穴墓群などの大規模な横穴墓群よりも後の時期のもと考えられ、7世紀以降に築造された可能性が高く、県内における横穴墓のなかでも最終末に位置付けられるものと推定されています。



「両宜塾跡碑」



当時の両宜塾

熊谷市指定記念物・史跡

りょうぎ じゆくあと 両宜塾跡

マップ番号 ㊨ C-6 ㊨

所在地：妻沼

時代：江戸

「江戸繁盛記」などを記した、儒学者寺門静軒が、万延元年(1860)に妻沼仲宿に開いた塾です。居宅兼教室が60㎡、さらに南側に教室23㎡を建築して「両宜塾」と命名されました。慶応3年(1867)、静軒が妻沼を去った後も門人達によって引き継がれ、明治5年(1872)の学制発布まで続けられました。その後、建物の老朽化に伴い、建物は取り壊されましたが、平成5年(1993)に跡地前に石碑が建てられ、史跡に指定されました。

熊谷市指定記念物・史跡

さいとうべつとうさねもりやかたあと

斎藤別当実盛館跡

マップ番号 ㊦ D-5

所在地：西野

時代：江戸（原初は平安）

斎藤氏の館跡と伝えられ、板石塔婆一基が残されています。北側には福川が流れ、旧妻沼町が策定した斎藤別当実盛公史跡探訪遊歩道の一つです。



熊谷市指定記念物・史跡

おぎのぎんこせいたち

荻野吟子生誕の地

マップ番号 ㊦ E-9

所在地：俵瀬

時代：江戸

利根川右岸の俵瀬地区、荻野吟子が生誕した地であり、旧妻沼町の顕彰事業により吟子像や顕彰碑が建立されました。整備された公園とともに、市民の憩いの場となっています。



◆人物伝◆



荻野吟子 おぎのぎんこ 嘉永4年(1851)～大正2年(1913)

—日本最初の公認女性医師—

荻野吟子は、江戸時代末期の嘉永4年(1851)年3月3日、利根川近くの幡羅郡俵瀬村（現在の熊谷市俵瀬）に生まれました。幼少から才女として知られ、若くして結婚したものの予期せぬ病を発症し離婚。この治療の体験により女医の必要性を痛感し、医師になることを決意しました。吟子は妻沼の「両宜塾」の松本万年に師事し、熊谷近郊に画室を構えた女流画家の奥原晴湖の影響を受けたとされています。上京した後、東京女子師範学校で学び、私立医学校「好寿院」を優秀な成績で卒業しました。女性が医学を修め医師となる道が閉ざされていた中で意義深い一歩を踏み出したのです。明治18年(1885)、吟子は男性優位の旧来の制度など多くの障壁を乗り越え、医術開業試験を受験し合格しました。日本公許登録女医第1号となり、東京の本郷湯島で開業しました。吟子は医療に留まらず、キリスト教の活動や女性の社会進出を目指す運動に力を注ぎました。志方之善と結婚し、夫とともにキリスト教徒の理想郷建設のために北海道へ移住しました。地域の医療を進めていましたが、夫の病死など過酷な運命にも直面しました。晩年は東京に戻り、温かな目線で患者と向き合い続け、大正2年(1913)に激動の一生を終えました。その生涯は渡辺淳一の小説『花埋み』^{はなうずみ}などで広く世に紹介されています。平成18年5月には、生誕の地に吟子の資料などを展示した「荻野吟子記念館」が開館しました。

12 文化財名勝の美—自然と歴史と語り継ぐ景観

熊谷市指定記念物・名勝

せい けい えん
星溪園

マップ番号 02 H-6 (A)

所在地：鎌倉町

時代：江戸～昭和

星溪園は回遊式庭園で、熊谷市の産業・土木方面に大きな功績を残した竹井澹如翁によって慶応年間から明治初年にかけてつくられました。回遊式庭園とは、江戸時代からの庭園の様式で、池の周囲に通路を巡らし、園内を回遊しながら鑑賞できるように造られています。



星溪園の歴史

元和9年(1623)、荒川の洪水により当園の西方にあった土手(北条堤)が切れて池ができました。その池には清らかな水が湧き出るので、「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が星川の源となりました。のちに澹如翁が、その場所に別邸を設け、玉の池を中心に木竹を植え、名石を集めて庭園としました。

明治17年(1884)に時の皇后(昭憲皇太后)がお立ち寄りになり、大正10年(1921)には秩父宮がお泊りになるなど、知名士の来遊が多く見られました。

昭和初期、前大徳牧宗禅師により、「星溪」と命名されたと伝わります。昭和25年(1950)熊谷市が譲り受け、昭和29年(1954)市の名勝として指定されました。その後、建物の老朽化が見られたため、平成2年(1990)から4年(1992)にかけて建物と庭園の整備がなされました。建物は数奇屋感覚を取り入れ、格調高いものとし、日本の文化教養の場として復元されました。



熊谷市指定記念物・名勝

せい けい りょう
星溪寮

■面積：約160.8㎡〈約48.7坪〉

庭園内にある3棟の建物の中で、中心的建物です。12畳半の一の間を中心に、二の間・前室・茶室(3畳中板の小間)・立礼席などがあります。一の間の前には月見台があり、前室の後には坪庭があって、より庭園美との調和が図られ、

日本の木造建築の美しさと格調の高さが感じられます。

しょうふう あん
松風庵

■面積 約42.9㎡(約13坪)

2室からなる庵室で、星溪寮と積翠閣との中央に位置し、当初は渡り廊下でつながっていましたが、現在は独立した建物になっています。

前庭は、この庵の静かで落ち着いた柔らかい数奇屋の建物のたたずまいをかし出しています。



せき すい かく
積翠閣

■面積：約72㎡(約21.8坪)

松風庵の北に位置し、当初は、昭和5年(1930) 澹如翁の長男耕一郎により建てられたものでした。高床式の建物で、和室と洋室からなり、月見台もあり、庭園の眺望が一段と高められ、静かな情緒を味わえます。玄関に入ると、星溪園や澹如翁^{しの}などについての資料も展示され、澹如翁を偲ぶことができます。



庭園

■総面積：3847㎡、池の面積：1020㎡

正門を入ると右側に大きな石碑があります。これは澹如翁の長男耕一郎^{せんぶん}の撰文で、酒井瑞石(天外)翁が書かれた星溪園記碑です。

星溪園の前庭には、袖振り石・天柱石があり、文禄の役(1592～1593)に加藤清正が朝鮮から持ち帰ったもので、忍城主松平忠吉が譲り受け、後に澹如翁の手に渡ったものであるといわれています。

庭園には、多様な植物が植えられ、庭石は約40個置かれ、石造美術品は灯籠・層塔・十王供養塔など約20個あります。





熊谷市指定記念物・名勝

三尻観音山

マップ番号 93 H-2

所在地：三ヶ尻 時代：江戸

三ヶ尻地区にある独立した丘陵で、古い地層が確認できるなど地質学的な特色をもっています。眺望もよく、特に南方は視界が開けています。標高 83.3m、周囲約 850m で、松・なら・くぬぎなどが植生しています。北麓はニッコウキスゲの自生地として有名です。南麓にある龍泉寺は、渡辺華山ゆかりの文化財（県指定絵画の松岡格天井画・紙本淡彩双雁図、県指定書跡の龍泉寺本訪謁録）を所有しています。

熊谷市指定記念物・名勝

華山築庭園

マップ番号 94 I-4

所在地：押切 時代：江戸

渡辺華山の意匠に基づいて築かれた庭とされています。木石の配置高低起伏は南画の趣があり、画人の描き出しそうな作庭の様相であるとして評価されています。



熊谷市指定記念物・名勝

切れ所と中の洲

— 荒川の歴史を 記憶する名勝 —



切れ所 マップ番号 95 J-7



中の洲 マップ番号 96 L-9

熊谷市の大里地域にある「切れ所」（小泉地区）と「中の洲」（小八林地区）は自然地形の変遷を現在に残す貴重な遺産であることから、熊谷市の記念物（名勝）として文化財指定されています。ともに明治初期以降の度重なる荒川洪水の破堤により形作られた池であり、堤防を破った水が土壌を抉り取り、押し出した場所に水が留まったことから、「押堀」とも称されています。

「切れ所」は、昭和 13 年（1938）の洪水の際に現在の形へと拡大した経過を辿り、屈曲した沼地の線が残されているなど保存状態が良好です。面積は 7,200 m² を測り、荒川右岸に残されている押堀の中では比較的大きい規模を誇ります。また、「中の洲」は大芦橋に隣接した場所にあり、形成当初より規模が小さくなりましたが、安定した水量を維持しています。現在では、この二つの池はヘラブナ釣りの名所として、市内外から多くの人々が訪れています。

なお、「切れ所」は、平成 25 年（2013）に刊行された文化庁『名勝に関する総合調査』において重要事例に指定されており、貴重な自然的遺産として評価されています。荒川の歴史と深いつながりのある二つの名勝を未来に残すため、景観の保護を継続的に行っていく必要があります。

13 熊谷の天然記念物—自然環境とともにある文化財

埼玉県指定記念物・天然記念物

もと あら かわ

元荒川ムサシトミヨ生息地

せい そく ち

所在地：久下・佐谷田

マップ番号 97-1-7



世界で熊谷の元荒川上流域だけに生き残ったムサシトミヨは、トゲウオ目トゲウオ科トミヨ属の淡水魚で、成魚の体長は約 5cm です。平成 3 年(1991)、この源流部の約 400 メートルが「元荒川ムサシトミヨ生息地」として県の天然記念物に指定されました。ムサシトミヨは環境省レッドリストでは絶滅危惧 IA 類 (CR) に指定され、絶滅が危惧されている種です。ムサシトミヨの生態には、15℃前後の清涼な湧水と、水草が適度に繁茂した環境が必須であると考えられています。一年魚のムサシトミヨは、成魚となった雄が水草などで直径 3cm 程の球形の巣を造ります。その後、雌を誘い込み、巢内で産卵、受精した後、雄が子育てをするという珍しい特徴があります。

なぜ、ムサシトミヨが熊谷だけに生き残ったのでしょうか。昭和30年(1955)代後半、湧水が枯渇し関東各地のムサシトミヨの生息地が急激に減少していきました。そのような状況下、元荒川の源流部にあった県の水産試験場や民間の養鱒場が試験研究や養殖のために地下水を絶えず汲み上げていたことから、水の供給が止まることなく、ムサシトミヨの生息環境が維持されたのです。

現在、天然記念物となっている区間は、行政と「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」など地域の住民が協力しながら、環境保全が行われています。このような努力が実を結び、平成 25 年 (2013) 12 月にはムサシトミヨをまもる会の活動が日本ユネスコから評価され、「プロジェクト未来遺産運動」に登録されました。



天然記念物・樹木

熊谷市指定記念物・天然記念物

しい き
椎の木

マップ番号 98-D-6

所在地：ハッ口（長昌寺）

斎藤別当実盛が長井荘西野に館を構えた時、この地を鬼門除けの祈願所を選び椎の木を 3 本植えましたが、そのうち残った 1 本と伝えられています。



熊谷市指定記念物・天然記念物

くろがねもち

マップ番号 99 G-6

所在地：肥塚

モチノキ科の常緑高木（一年中青い葉が茂り、通常、人間の背丈以上の大きさに育った木）で、関東地方から西の暖かい土地に自生し、木の高さが、10m 以上になります。春、うすい紫色の4～5弁の小さい花を葉腋（葉のわき）に多く付け、花が散ると、5～6mm の実になります。昔は、この木の皮から、とりもちを作り、とりさしやゴムの代用として利用しました。

このくろがねもちは、木の高さが約 12m、木の周囲は2mを超えています。この大きさは、くろがねもちとしては珍しい大木であり、江戸時代中期の18世紀前半頃より生育を続けていると伝えられています。



熊谷市指定記念物・天然記念物

かや 榎

マップ番号 100 G-3

所在地：拾六間（徳蔵寺）

イチイ科に属する常緑高木で、葉はもみに似て厚く、先がとがっています。雌雄異株で、この木は雌株で枝が横茂りをなして下に垂れ、カヤ特有の姿をしています。目通り 3.6m、高さ 23m、寺伝によると江戸時代中期頃からの歴史があります。どっしりと山門の横にそびえ、樹勢盛んな大木で、徳蔵寺境内の代表的樹木です。



熊谷市指定記念物・天然記念物

いちいがし

マップ番号 101 G-3

所在地：拾六間（徳蔵寺）

ブナ科に属する常緑高木で、目通り 2.6m、高さ約 35m、寺伝によると江戸時代後期から植生しています。枝張り は 8m 四方に及び、地上から約 6m の所で双幹となっていて一層風格をあげています。葉は互生、長楕円形で先端はとがり上部の縁は鋸歯状になっています。5 月に黄色の小花が咲き、その後先の丸い実がなり、実は食用にもなります。



熊谷市指定記念物・天然記念物

むくろじ
無患子

マップ番号 ⑩ E-4

所在地：東別府（香林寺）

ムクロジ科に属し、モクレンジュとも呼ばれる落葉高木で、目通り 1.9m、高さ約 16m、は江戸後期から植生していると推測されます。豊かな枝張りで見事な樹相です。初夏に淡緑色の花が咲き、黄褐色の殻の中に黒色の堅い実をつけますが、この実は数珠や羽子板のはね玉に使われます。また、皮は鮮明な黄色染料となります。



熊谷市指定記念物・天然記念物

きやらぼく
伽羅木

マップ番号 ⑩ G-5

所在地：原島（養平寺）



イチイ科の常緑低木で、目通り 0.96m、高さ 2.5m、寺伝によると江戸中期頃からの歴史があります。幹は多数枝分かかれし、地面に対し斜めに横たわっています。枝張りは四方に張り、直径約 7mに及んでいます。本州の日本海側、大山から鳥海山（山形県・秋田県）での自生が知られています。養平寺の伽藍木は老木の様態を呈しながらも、生命力ある銘木として知られています。

熊谷市指定記念物・天然記念物

かや
榎

マップ番号 ⑩ E-5

所在地：中奈良（国性寺）

国性寺の本堂裏の屋敷林の中にあり、あたりを圧迫する見事な大木です。雌木で、目通り 3.6m、高さ 25m、江戸時代前期頃から植生していると考えられています。枝葉は四方平均に繁茂し、濃緑の葉が特徴で、樹勢も盛んです。



熊谷市指定記念物・天然記念物

なぎ
棚

所在地：新堀新田

マップ番号 09 G-3

マキ科ナギ属の常緑高木で、葉の形は楕円状披針形です。5月頃開花し、10月頃丸く青白色の実が熟します。江戸時代中頃からの歴史があると推定され、高さは約25mに達しています。



熊谷市指定記念物・天然記念物

ざくら
いぬ桜

所在地：三ヶ尻

マップ番号 09 G-2

幹回り 3m、樹高は約 15m あり、古墳時代後期の前方後円墳の運派塚にあります。開花時期は5月中旬です。江戸時代中期頃から生育しており、同種としては、県下でも屈指の古い歴史があります。



熊谷市指定記念物・天然記念物

すずかけ
鈴懸の木

マップ番号 09 H-6 A

ー熊谷女子高校のシンボルー

熊谷女子高校のシンボルである「鈴懸の木」は正確には、「モミジバズカケノキ」と称します。スズカケノキ科の落葉高木で、目通り 4.7m、高さ 28.4mです。樹木種としては、スズカケノキ科であり、樹皮などの形状からスズカケノキとアメリカスズカケノキの交配種であると考えられています。幹周りとして目通り（地上 1.2m）の位置では 5.0m、樹高約 30m の大木であり、熊谷女子高校の校庭に力強く根付いています。欧米名ではプラタナスとして知られています。

明治時代、日本には三種類のスズカケノキが移入された記録が残されています。明治 15 年（1882）、同 16 年（1883）には小石川植物園にスズカケノキが、明治 25 年（1892）には新宿御苑にモミジバズカケノキが移入され、その後、苗の生育や植栽を広げ、全国への移植が開始されました。

この経過を踏まえると、「鈴懸の木」は新宿御苑の母株からの第二世であると考えられ、時期と推察すると開校した明治 44 年（1911）前後にこの地に移植された可能性が考えられます。その当時の熊谷高等女学校は終戦直前の熊谷空襲により校舎の大半が失われる事態となりましたが、この「鈴懸の木」は焼失せず、現在まで大切に管理されています。多くの卒業生や在校生を優しい眼差しで見下ろしながら、熊谷女子高校の歴史を過去から未来へと繋ぐ静かな語り部となっています。



14 無形の文化財と伝統芸能 — 無形民俗文化財と無形文化財

熊谷市指定無形民俗文化財

がみ がわ ら しん とう か とりゅう ぼうじゅつ

上川原神道香取流棒術

〈上川原神道香取流棒術保存会〉

所在地：小島

マップ番号 ⑧ H-4

大麻生上川原地区に伝えられる棒術は「神道香取流棒術」と呼ばれる秘技で今日まで 470 年余り伝えられて来ました。

棒術には表裏の各十二手があり、表十二手のみが公開されています。護身の型の裏十二手は極秘とされ、公開される機会は極めて少ないです。演技は請けの方と遣いの方の二人が組み、長さ三尺の檜の木刀を持ち、刺子の白衣に紺の袴姿で、十二手の型を勇壮に行います。



熊谷市指定無形民俗文化財

いけ がみ し し まい

池上獅子舞

〈池上獅子舞保存会〉

所在地：池上

マップ番号 ⑨ G-8

池上にある古宮神社は、平安時代末期の建立と伝えられ、江戸時代に由緒ある古い社という意味から、「古宮」の社号を授けられました。神社に伝わる獅子舞は、室町時代に神主茂木大膳が、京都石清水八幡宮で拝観した獅子舞に感銘を受け、当地に伝えたものといわれています。

この獅子舞は、三頭の獅子と「めんか」が一緒となる勇壮な舞いで、神社の祭り行事として、「悪疫退散」「五穀豊穰」「家内安全」などの祈願の他、「雨乞い神事」にも舞われてきました。



熊谷市指定無形民俗文化財

ひがしべつ ぶ まつり

東別府祭ばやし

〈東別府祭ばやし保存会〉

所在地：東別府

マップ番号 ⑩ E-4

東別府祭ばやし(囃子)は、江戸時代中期より行われている東別府神社の夏祭りにおいて、神輿巡行の「力づけ」を行う役目があります。演目には、通称「ばか囃子」や「祭り囃子」などがあり、躍動的な囃子に、おかめとひょっとこの踊りが加わります。五穀豊穰・家内安全・悪疫退散を祈願し、祭り気分を盛り上げ、地区民の娯楽を兼ねた芸能として今日まで継承されてきました。





熊谷市指定無形民俗文化財

くまがや き やり

熊谷木遣くまがや き やり〈熊谷木遣保存会〉

マップ番号 ⑪ H-6 (A)

所在地：本町ほか

文政年間（1818～1829）、江戸の木遣師から熊谷宿場のとび鳶に伝えられ、現代まで引き継がれています。今日では、熊谷鳶組合を中心として、木遣り、梯子乗り、縄振りといった伝統芸能を多くの機会で開催しています。熊谷うちわ祭の年番送りにおける木遣唄や、出初め行事で行われる梯子乗りは人々を魅了し続けています。威勢の良い掛け声や演技は、町火消を思い起こさせます。

熊谷市指定無形民俗文化財

いまい まわ し ぞう

今井の廻り地蔵いまい まわ し ぞう〈今井の廻り地蔵保存会〉

所在地：今井

マップ番号 ⑪ F-6

毎年1月と8月、今井にある浄業庵のお地藏様を担いで今井の各字を廻り、念仏を唱えて子どもの成長や家内安全、長寿息災を祈願する行事です。一説によると、かつて、信州の和尚がこの地蔵尊を背負って来訪したことから、お地藏様のお廻りが始まったとされています。各字を廻る際には、お地藏様を安置する家を「お宿」と呼び、そこでは念仏が唱えられるとともに、来客者に料理が振舞われます。



熊谷市指定無形民俗文化財

しも おん だ し し まい

下恩田ささら獅子舞しも おん だ し し まい〈下恩田ささら獅子舞保存会〉

所在地：下恩田

マップ番号 ⑪ J-6

江戸時代から始った。下恩田ささら獅子舞は、明治以降、下恩田の諏訪神社夏祭りにおける地域の一大行事になりました。獅子舞は、稲作の大事な時期に吹く大風「諏訪荒れ」や、大雨による被害を少なくさせるために、五穀豊穡ごこくほうじやくや氏子の繁昌の獅子舞として大切に継承され、祈りを込めて諏訪神社に奉納されてきました。囃子とささらの音を響かせ、若連の棒組や花笠とともに演じられます。（現在休止中）



熊谷市指定無形民俗文化財

て し ま や き ぶ し か さ お だ

手島八木節笠踊りて し ま や き ぶ し か さ お だ〈手島楽友会〉

所在地：手島

マップ番号 ⑭ J-6

上州八木節が流行していた大正初期、当時の青年達が荒川の南側に位置することから命名した「江南楽遊会」をつくり独自の八木節を始めたところから起源があり、昭和48（1973）、大里地域の手島において手島楽遊会（後、楽友会に改称）が組織されました。

手島八木節笠踊りには、「樽踊り」、「菅笠踊り」、「扇子踊り」、「唐傘踊り」、「二つ輪踊り」、「一つ輪踊り」、「棒踊り」などがあります。

熊谷市指定無形民俗文化財

津田新田おしっさま つだしんでん (津田新田自治会)

所在地：津田新田

マップ番号 ⑪ J-7

大里地域の津田新田にて伝えられている「おしっさま」は、江戸時代中期頃、災難や悪疫の退散のために行ったことが起源とされています。加須市の玉敷神社より獅子を借り受けて各戸を巡行し、厄病退散を祈願します。また、ご馳走を頂きながら披露するお獅子を模した手踊りは特徴的です。



熊谷市指定無形民俗文化財

地蔵尊御詠歌 じぞうそんごえいか (太田新田地蔵念仏保存会)

所在地：永井太田

マップ番号 ⑪ G-5

妻沼地域の永井太田地区にて行われる「地蔵尊御詠歌」は、俗に「地蔵念仏」や「やろう念仏」と呼ばれ、地区内の地蔵尊に奉納されます。笛や太鼓を交えながら 36 番まである和賛を独特の悠長な節回しで合唱し、念仏(南無阿彌陀仏)を唱えながら練り行列を組む伝統行事です。



熊谷市指定無形民俗文化財

相上神楽 あいあげ かぐら (相上神楽保存会)

マップ番号 ⑪ L-7

所在地：相上

春と秋、大里地域の相上地区にある吉見神社の祭事として舞われている神楽です。天保6年(1835)8月の関東大洪水の際に人々が当神社に祈願したところ災害を免れました。このことから、地元の人々は神楽殿を建築し、坂戸に伝承されていた大宮住吉神楽からの教えを受け相上地区の神事の継承が開始されました。

熊谷市指定無形民俗文化財

津田初午まつり つだはつうま

マップ番号 ⑪ K-8

所在地：津田

大里地域の津田地区にある西明寺の南にある稲荷神社では、毎年三月最初の午の日(初午)に、火防稲荷の祭を行うことで知られています。江戸時代後期、西明寺の住職であった秀範法印が、度重なる伽藍の火災に困り、京都の伏見稲荷の分社として火防稲荷を祀ったことに始まります。祭りの当日は、余興の催しを盛大に行い、西明寺の南に移設された火防稲荷の社・稲荷神社にて、当地の神職が火災予防や疫病退散を祈願します。



祭礼が行われる稲荷神社

熊谷市指定無形民俗文化財

おおすぎじん じゃさいれいぎょうじ

大杉神社祭礼行事〈大杉神社祭礼行事保存会〉

マップ番号 ⑪ E-8

所在地：葛和田、俵瀬

妻沼地域の葛和田にある大杉神社は、古くから水難、悪疫守護の神として知られています。江戸時代、近くには利根川の河岸場があり、水運に携わる人々の無事安泰を祈願したことに始まる祭礼行事が「あばれ神輿」です。毎年7月下旬の早朝、神輿の渡御が行われ、午後から神輿を利根川に入れます。そして、除災を祈願しての活気あるもみ合いが行われます。



ごこくほうじょう

五穀豊穰への祈りと、収穫への感謝を込めて、万作おどりが大切に継承されてきました。太鼓や四つ竹を用いての「手踊」や「手拭い踊り」は、老若男女を問わず地元の人々に親しまれています。

熊谷市指定無形民俗文化財

ままだまんさく

間々田万作おどり〈間々田万作おどり保存会〉

所在地：間々田

マップ番号 ⑫ B-4

妻沼地域の間々田にある伊奈利神社の祭礼などの当日、神事後、神楽殿での奉納行事として踊られます。利根川の水運にも恵まれ養蚕や米麦などの豊かな生産地であった間々田では、



熊谷市指定無形民俗文化財

かみしん でん や たいばやし

上新田屋台囃子〈上新田屋台囃子保存会〉

所在地：上新田

マップ番号 ⑬ ト-2

江南地域の上新田地区にある諏訪神社の大祭で演奏される囃子は、江戸時代中期から始められ、明治時代以降から民俗芸能として本格的に継承されています。

囃子について記した「大帳」が残されており、それによると、「新囃子」、「屋台囃子」、「ショウデン」、「鎌倉」、「神田丸」の五曲目があることが知られています。現在では、「屋台囃子」を中心に演奏されています。

熊谷市指定無形民俗文化財

お え が わ し し ま つ
小江川獅子祭り〈小江川獅子保存会〉

所在地：小江川

マップ番号 ㊤ K-3

毎年3月の第2土曜日に、江南地域の小江川にある高根神社の春祭りの際に行われる獅子祭です。地区内に置かれる万灯に明かりが灯され、上尾市の八枝神社から借りた「お獅子様」が地区内を巡ります。明治時代以降、小江川の祭りといえば獅子が連想されるほど有名な行事でありましたが、戦後の時期から長い間中断していました。平成に入り、復活の機運が高まり、今日では重要な伝統行事として保たれ継続されています。



熊谷市指定無形民俗文化財

なり さ わ や た い ば や し
成沢屋台囃子〈成沢屋台囃子保存会〉

所在地：成沢

マップ番号 ㊤ J-4

毎年7月24日に江南地域の成沢にある赤城神社で行われる「成沢の天王様」といわれる祭りで演奏される囃子です。囃子は、笠鉦・屋台の曳き回しで行われていましたが、現在は据え置き屋台での居囃子の形態で演奏されることが多くなりました。祭囃子の種類としては、「鎌倉流五人囃子」といわれています。



熊谷市指定無形民俗文化財

す が ひ ろ あ き ま つ
須賀広秋祭り「ササラ」

〈須賀広秋祭り「ササラ」保存会〉

所在地：須賀広

マップ番号 ㊤ J-4

毎年10月、江南地域の須賀広にある八幡神社において行われる秋祭りに奉納される獅子舞は、文化元年(1804年)に、現在の比企郡の諏訪神社に奉納されていたものが伝習され、須賀広地区に根付いたものです。三頭一人立ち獅子舞であり、他に花笠、棒使い、道化で構成され、奉納の後には地域内を巡行します。



熊谷市指定無形民俗文化財

いた い や た い ば や し
板井屋台囃子〈板井屋台囃子保存会〉

所在地：板井

マップ番号 ㊤ K-2

毎年7月、江南地域の板井にある出雲乃伊波比神社で行われる八坂祭りで演奏されます。太鼓、鉦、笛で構成される囃子は、山車に乗り込んで演奏され、神輿とともに地区内を巡ります。囃子の音色から「ひばりばやし」とも呼ばれています。また、「新ばやし」を伴奏にして踊られる「板井のひょっとこ踊り」は江戸時代から継承されています。



熊谷市指定無形民俗文化財

おしきり ししまい 押切ささら獅子舞〈押切ささら獅子舞保存会〉

所在地：押切

マップ番号 ②⑩-3

毎年10月、江南地域の上押切にある八坂神社で行われる祭りにおいて奉納される獅子舞です。三頭一人立ち獅子舞であり、ほかに棒使い、道化で構成されています。さらに、花笠によるササラや、ひょっとこ・おかめが続きます。地元には元和元年(1615)に、大阪夏の陣で敗れた豊臣の家臣といわれる落武者が獅子に化けて逃げてきたことが獅子舞の発祥になったという伝統が残されています。



熊谷市指定無形民俗文化財

くまがや や さか じんじゃ さいれい ぎょうじ くまがや まつり 熊谷八坂神社祭礼行事(熊谷うちわ祭)〈熊谷八坂神社祭礼行事保存会〉

所在地：愛宕神社・八坂神社・関係各町区

マップ番号 ②⑦-H-6(A)



「熊谷八坂神社祭礼行事(熊谷うちわ祭)」は、毎年7月20～22日の3日間に実施されており、多くの観客者を集めています。祭礼行事の起源は、文禄年間(1592～1595)に愛宕神社に合祀された八坂神社での例祭です。現在においても、江戸時代中期から開始された祇園柱の設置を伴う祭礼行事、同時期から開始された神輿渡御、明治時代後期から開始された山車・屋台の巡行行事、これら原型が多くの人々によって継承されています。12の町区が擁する山車・屋台が市街地を巡行する様子は絢爛豪華であり、「関東一の祇園祭」と称されています。

熊谷市指定無形文化財

め ぬまい こ 妻沼太鼓〈武州天野流妻沼太鼓・天鼓会〉

所在地：妻沼

マップ番号 ②⑧-C-6(回)

武州天野流妻沼太鼓は、昭和60年(1985)12月1日に、妻沼町の情緒を表現した創作太鼓として発表披露されました。

この曲は、山梨県甲府市無形文化財保持者である天野流宗家元・天野宣によって作曲・指導されたものであり、この時の打奏者達によって、「天鼓会」が結成されました。現在、持曲は3曲あり、また、めぬま祭りでは披露される「練り込み囃子」があります。東京日本橋で行われた「大江戸活粋パレード」などに出演し、好評を博しています。



資料 1

熊谷市における国・県・市指定文化財一覧表

No	区分	種別・種類	名 称	頁	所 在 地	所有者(管理者)	マップ 番 号
1	国	有・建	歓喜院聖天堂(国宝)	10	妻沼	歓喜院	①
2	国	有・建	平山家住宅	18	樋春	個人	⑥
3	国	有・建	歓喜院貴惣門	13	妻沼	歓喜院	②
4	国	有・工	錫杖	15	妻沼	歓喜院	-
5	国	有・考	瓦塔 瓦堂 附 須恵器二箇・土師器二一箇	-	船木台	埼玉県	-
6	国	有・絵	絹本著色阿弥陀聖衆来迎図	27	さいたま市	常光院(県立博物館貸出)	-
7	国	記・史	宮塚古墳	65	広瀬	個人(熊谷市教育委員会)	58
8	県	有・建	龍泉寺の観音堂	49	善ヶ島	龍泉寺	⑩
9	県	有・建	雷電神社本殿付扉一組(2枚)	19	上之	上之村神社	⑧
10	県	有・建	上之村神社本殿	18	上之	上之村神社	⑦
11	県	有・建	諏訪神社本殿	20	上新田	諏訪神社	⑪
12	県	有・絵	松岡格天井画	31	三ヶ尻	龍泉寺	-
13	県	有・絵	紙本淡彩双雁図	32	さいたま市	龍泉寺(県立博物館寄託)	-
14	県	有・工	紵絲斗帳	15	さいたま市	歓喜院(県立博物館寄託)	-
15	県	有・工	鯉口	15	さいたま市	歓喜院(県立博物館寄託)	-
16	県	有・工	太刀	-	さいたま市	個人(県立博物館寄託)	-
17	県	有・古	訪録鉢(龍泉寺本)	32	三ヶ尻	龍泉寺	-
18	県	有・考	板石塔婆	16	妻沼	歓喜院(熊谷市)	⑤
19	県	有・考	関山式土器	-	船木台	埼玉県	-
20	県	有・考	平林寺遺跡住居跡出土土器	-	船木台	埼玉県	-
21	県	有・考	八王子遺跡出土須恵器 附 土師器四箇	-	船木台	埼玉県	-
22	県	有・考	飾馬埴輪 伝児玉町出土	-	船木台	埼玉県	-
23	県	有・考	鎧塚古墳出土土器一括	48	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
24	県	有・考	嘉禄銘板石塔婆	44	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	26
25	県	有・考	安貞銘板石塔婆	44	樋春	真光寺	27
26	県	有・考	寛喜銘板石塔婆	45	千代	熊谷市	28
27	県	有・考	中砂遺跡出土旧石器	-	船木台	埼玉県	-
28	県	有・考	赤城遺跡出土祭祀関係遺物	-	船木台	埼玉県	-
29	県	有・考	大刀埴輪 黒田一七号古墳出土	-	船木台	埼玉県	-
30	県	有・考	白草遺跡出土旧石器	-	船木台	埼玉県	-
31	県	有・考	雅楽谷遺跡出土土器	-	船木台	埼玉県	-
32	県	有・考	花ノ木遺跡住居跡出土遺物	-	船木台	埼玉県	-
33	県	有・考	広木上宿遺跡出土金属製小型宝塔 小型持蓮華 付 漆箱残欠	-	船木台	埼玉県	-
34	県	有・考	大光寺裏遺跡出土中世陶磁器等遺物	-	船木台	埼玉県	-
35	県	有・考	西久保遺跡出土旧石器	-	船木台	埼玉県	-
36	県	有・考	横間栗遺跡再葬墓出土遺物一括	48	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
37	県	有・考	西別府祭祀遺跡出土品	49	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
38	県	記・史	別府氏墓	67	西別府	安楽寺	63
39	県	記・史	別府城跡	67	東別府	東別府神社	64
40	県	記・史	中条氏館跡	68	上中条	常光院	65
41	県	記・史	甲山古墳	66	青山	個人	60
42	県	記・史	とうかん山古墳	67	箕輪	保安寺	61
43	県	記・史	塩古墳群	65	塩	熊谷市 他	59
44	県	記・天	元荒川ムサシトミヨ生息地	79	久下・佐谷田	熊谷市	97
45	県	記・旧	吉田市右衛門墓	68	下奈良	個人(集福寺)	66
46	県	記・旧	奥原晴湖墓	68	上之	龍淵寺	67
47	県	記・旧	秩父道志るべ	69	石原	熊谷市	69
48	県	記・旧	忍領石標	68	石原	熊谷市	68
49	県	記・旧	根岸友山墓	-	青山	個人	-
50	市	有・建	文殊寺仁王門	21	野原	文殊寺	13
51	市	有・建	柴田家書院	25	上新田	個人	15
52	市	有・建	四脚門(中門)	14	妻沼	歓喜院	③
53	市	有・建	根岸家長屋門	22	青山	個人	14
54	市	有・建	青山神社本殿	20	青山	青山神社	12
55	市	有・建	上之村神社鳥居	19	上之	上之村神社	⑨
56	市	有・絵	直実拳扇の図	33	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
57	市	有・絵	野道	35	高柳	個人	-
58	市	有・絵	河童	-	高柳	個人	-
59	市	有・絵	風景	36	高柳	個人	-

No	区分	種別・種類	名 称	頁	所 在 地	所有者(管理者)	マップ 番号
60	市	有・絵	丘と水田	35	高柳	個人	-
61	市	有・絵	大学構内	-	高柳	個人	-
62	市	有・絵	裸婦	-	高柳	個人	-
63	市	有・絵	尾瀬沼	-	久保島	個人	-
64	市	有・絵	水田	36	久保島	個人	-
65	市	有・絵	垂楊桃花の図	35	上之	個人	-
66	市	有・絵	春江群牛の図	34	中西	個人	-
67	市	有・絵	溪山春色の図	34	河原町	個人	-
68	市	有・絵	桐戸の絵	-	上中条	常光院	-
69	市	有・絵	芭蕉大和上りの図	33	三ヶ尻	個人	-
70	市	有・絵	絵手本	33	三ヶ尻	個人	-
71	市	有・絵	黒馬図	30	上川上	伊井諸神社	-
72	市	有・絵	蒼松錦鶏の図	-	平塚新田	個人	-
73	市	有・絵	谷文晁筆画帳	-	柴	個人	-
74	市	有・絵	伝明兆筆弁財天図	-	柴	個人	-
75	市	有・絵	業平東下りの図	-	東別府	香林寺	-
76	市	有・絵	釈迦聞經の図	29	本石	個人	-
77	市	有・絵	釈迦	29	本石	個人	-
78	市	有・絵	水鳥の図	-	石原	個人	-
79	市	有・絵	三山馬元欽山水画幅	28	玉井	個人	-
80	市	有・絵	すき髪	36	久保島	個人	-
81	市	有・絵	山水画	-	村岡	個人	-
82	市	有・絵	能護寺内陣格天井の絵画	29	永井太田	能護寺	18
83	市	有・絵	八幡神社古絵図	-	妻沼	個人	-
84	市	有・絵	人物画	-	玉井	個人	-
85	市	有・絵	天海像	27	上中条	常光院	-
86	市	有・絵	家康像	28	上中条	常光院	-
87	市	有・絵	不動明王	-	太井	福聚院	-
88	市	有・絵	乞食	37	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
89	市	有・絵	小春日和り	37	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
90	市	有・絵	実験室	35	大原	埼玉県立熊谷高校	-
91	市	有・絵	人物画	-	万吉	個人	-
92	市	有・絵	蝦蟇・鉄拐仙人の図	-	小島	個人	-
93	市	有・絵	中国の風俗画	-	石原	個人	-
94	市	有・絵	富士山図	-	河原町	個人	-
95	市	有・絵	三星図	-	河原町	個人	-
96	市	有・絵	美人図	-	河原町	個人	-
97	市	有・絵	秋色山水図	-	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
98	市	有・絵	詩画	-	河原町	個人	-
99	市	有・絵	梅花図	-	石原	個人	-
100	市	有・絵	群雀図	-	星川	個人	-
101	市	有・絵	釈迦涅槃図	-	上中条	常光院	-
102	市	有・絵	バラソルのある庭	37	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
103	市	有・絵	臨池洗硯	37	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
104	市	有・絵	ヤギ(堤)	-	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
105	市	有・絵	絹本着色弘法大師像	28	桶春	真光寺	-
106	市	有・工	蹴鞠用具	-	宮町	高城神社	-
107	市	有・工	オランダ古鏡	-	宮町	高城神社	-
108	市	有・工	軍配2点、采配1点	-	宮町	高城神社	-
109	市	有・工	銅鈴	38	上之	龍淵寺	-
110	市	有・工	菊文亀甲散双雀鏡	38	野原	個人	-
111	市	有・工	月山銘 小刀	38	千代	個人	-
112	市	有・工	脇差	39	新堀新田	個人	-
113	市	有・工	脇差	-	新堀	個人	-
114	市	有・工	鎌倉彫前机	-	東別府	香林寺	-
115	市	有・工	呉須赤絵鳥竜文大平鉢	41	本石	個人	-
116	市	有・工	信楽焼大壺	-	宮町	個人	-
117	市	有・工	短刀	-	河原町	個人	-
118	市	有・工	刀	-	三ヶ尻	個人	-
119	市	有・工	百万遍の数珠	39	向谷	向谷自治会	-
120	市	有・工	能護寺梵鐘	40	永井太田	能護寺	20

No	区分	種別・種類	名 称	頁	所 在 地	所有者(管理者)	マツ 番 号
121	市	有・彫	木彫大仏坐像	51	平戸	源宗寺	(38)
122	市	有・彫	木彫阿弥陀如来坐像	51	上之	泰蔵院	(39)
123	市	有・彫	三十三体観音像	52	葛和田	大龍寺	(41)
124	市	有・彫	蔵王権現像	52	妻沼台	曾登神社	(42)
125	市	有・彫	風神・雷神	52	妻沼	玉洞院	(43)
126	市	有・彫	金銅大日如来坐像	51	西別府	安楽寺	(40)
127	市	有・彫	金蔵寺木造地藏菩薩立像	55	中恩田	金蔵寺	(50)
128	市	有・彫	木造俱利伽藍不動尊	54	中恩田	個人	-
129	市	有・彫	木造十一面観音坐像	54	中曽根	個人	(49)
130	市	有・彫	いぼとり地藏尊	55	沼黒	正福寺	(51)
131	市	有・彫	金蔵寺の額	40	中恩田	金蔵寺	-
132	市	有・彫	正福寺の額	40	沼黒	正福寺	-
133	市	有・彫	浄安寺千体地藏	-	御正新田	浄安寺	-
134	市	有・彫	寶幢寺阿弥陀如来像	55	押切	寶幢寺	(52)
135	市	有・彫	金銅弘法大師像	-	上江袋	能泉寺	-
136	市	有・彫	銅造阿弥陀如来立像	56	小泉	常永寺	(53)
137	市	有・書	成田小学校表札	-	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
138	市	有・書	襖	60	平塚新田	個人	-
139	市	有・書	扇面9点・短冊7点	-	平塚新田	個人	-
140	市	有・書	旧千代村水帳	60	銀座	個人	-
141	市	有・書	駒形神社御朱印状	61	さいたま市	渡唐神社(県立文書館)	-
142	市	有・書	医学天正記	61	上新田	個人	-
143	市	有・書	渡辺華山書翰	61	押切	個人	-
144	市	有・書	軸物3点	-	末広	個人	-
145	市	有・書	短冊13点・梅花譜	-	末広	個人	-
146	市	有・書	和歌	-	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
147	市	有・書	空海筆般若心経	-	永井太田	能護寺	-
148	市	有・書	和歌	58	本町	個人	-
149	市	有・書	和歌	-	曙町・さいたま市	個人(県立文書館)	-
150	市	有・書	書翰	-	石原	個人	-
151	市	有・書	妻沼八景詩画幅	-	妻沼	歓喜院	-
152	市	有・書	寺門静軒書扇面の詩	-	葛和田	個人	-
153	市	有・書	両宜塾記	17	妻沼(川口市)	個人	-
154	市	有・書	幡随意上人の書	58	葛和田	大龍寺	-
155	市	有・書	勝海舟の書	58	妻沼	歓喜院	-
156	市	有・書	高本高城神社の変遷	59	高本	個人	-
157	市	有・典	野口雪江墨跡	16	桜木町	熊谷市(市立熊谷図書館)	-
158	市	有・典	悉曇字母表	-	上中条	常光院	-
159	市	有・古	忍城主より長野家への書	-	曙町・さいたま市	個人(県立文書館)	-
160	市	有・古	熊谷町古絵図	-	宮町	高城神社	-
161	市	有・古	成田氏系図	-	上之	龍淵寺	-
162	市	有・古	成田氏分限簿	62	上之	龍淵寺	-
163	市	有・古	成田記	62	上之	龍淵寺	-
164	市	有・古	本陣絵図	62	本石	個人	-
165	市	有・古	本陣の関札10枚	63	本石	個人	-
166	市	有・古	高札14枚	-	本石	個人	-
167	市	有・古	算額	-	代	個人	-
168	市	有・古	制札	-	東別府	香林寺	-
169	市	有・古	秘伝書	63	新堀	個人	-
170	市	有・古	元素棲養蚕関係文書一括	-	玉井	個人	-
171	市	有・古	墨引絵図	-	石原	個人	-
172	市	有・古	浅間山噴火状況図	-	広瀬	個人	-
173	市	有・古	浅間山噴火の日記	63	石原	個人	-
174	市	有・古	広瀬郷検地図	-	広瀬	個人	-
175	市	有・古	織田信長の書状	-	万吉	個人	-
176	市	有・古	手島八幡様の由来	-	手島	個人	-
177	市	有・古	篠場家文書	64	板井	個人	-
178	市	有・古	貴惣門文書	17	妻沼	歓喜院	-
179	市	有・古	足利尊氏御判御教書付 山下教輔宛根岸武吉書状「理」1点足利尊氏御判御教書鑑定書1点	64	桜木町	個人(市立熊谷図書館)	-
180	市	有・古	根岸家文書	23	さいたま市	個人(県立文書館)	-
181	市	有・考	古瓦	-	西別府	安楽寺	-

No	区分	種別・種類	名 称	頁	所 在 地	所有者(管理者)	マップ 番号
182	市	有・考	古墳副葬品	49	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
183	市	有・考	正嘉銘板石塔婆	-	押切	寶幢寺	-
184	市	有・考	蔵手刀	49	桜木町	熊谷商業高校(市立熊谷図書館)	-
185	市	有・考	阿弥陀三尊板石塔婆	47	永井太田	能護寺	(35)
186	市	有・考	古塚古墳石棺	48	肥塚	成就院	(37)
187	市	有・考	東沢遺跡出土土製品一括	49	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
188	市	有・考	籠目紋土器他	50	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
189	市	有・考	弘安銘曼陀羅板石塔婆	46	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	(33)
190	市	有・考	正安銘板石塔婆	47	押切	個人	(34)
191	市	有・考	正嘉銘虚空蔵菩薩板石塔婆	46	押切	個人	(32)
192	市	有・考	塩原1 8号古墳出土遺物	50	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
193	市	有・考	諏訪木遺跡出土遺物118点	50	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
194	市	有・考	福寿院板石塔婆	47	弥藤吾	観音寺	(36)
195	市	有・歴	旧千代村高札	59	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
196	市	有・歴	旧観音寺地蔵	56	樋春	真光寺	(54)
197	市	有・歴	寛政銘双体道祖神像	56	押切	押切自治会	(55)
198	市	有・歴	享保銘波乗弁財天像	57	押切	押切自治会	(56)
199	市	有・歴	鷹図絵馬5枚付箱1口	30	三ヶ尻	八幡神社	-
200	市	有・歴	裁許絵図	-	千代	熊谷市(熊谷市教育委員会)	-
201	市	有・歴	五傍の揭示 高札	59	樋春	個人	-
202	市	有・歴	龍淵寺梵鐘	40	上之	龍淵寺	(19)
203	市	有・歴	E.S.モース関連資料	23	青山	個人(県立文書館ほか寄託)	-
204	市	無・形	妻沼太鼓	88	妻沼	天鼓会	(28)
205	市	有・民	肥塚氏供養板石塔婆	45	肥塚	個人	(29)
206	市	有・民	茶臼塚板石塔婆	45	村岡	熊谷市	(30)
207	市	有・民	権八地蔵	53	久下	地藏堂	(45)
208	市	有・民	白蛇曼荼羅	-	玉井	玉井神社	-
209	市	有・民	僧形庚申塔	57	西城	長慶寺	(57)
210	市	有・民	石像十三仏	53	池上	梅岩院	(46)
211	市	有・民	五輪塔所刻板石塔婆	-	上中条	常光院	-
212	市	有・民	十王供養塔	-	玉井	玉井寺	-
213	市	有・民	十王供養塔	-	高柳	観音堂	-
214	市	有・民	薬師と十二神将	54	拾六間	徳蔵寺	(47)
215	市	有・民	山車(第壹本町区)	42	本町	第壹本町区	(23)
216	市	有・民	山車(第貳本町区)	42	宮町	第貳本町区	(24)
217	市	有・民	神酒杵(第壹本町区)	43	本町	第壹本町区	-
218	市	有・民	神酒杵(第貳本町区)	53	宮町	第貳本町区	-
219	市	有・民	板石塔婆	-	池上	個人	-
220	市	有・民	板石塔婆	46	中奈良	国性寺	(31)
221	市	有・民	相撲絵馬2枚	30	上川上	伊弉諾神社	-
222	市	有・民	常夜灯	42	宮町	高城神社	(22)
223	市	有・民	小八林の神輿	-	小八林	春日神社	-
224	市	有・民	玉泉寺の摺袈裟	40	玉作	玉泉寺	-
225	市	有・民	根精様	-	津田	八幡神社	-
226	市	有・民	九品仏	54	西別府	安楽寺	(48)
227	市	有・民	藍染絵馬4枚	30	下川上	宝乗院	-
228	市	有・民	愛染明王	53	下川上	宝乗院	(44)
229	市	有・民	村岡の渡し船	41	万吉	熊谷市(熊谷市教育委員会)	(21)
230	市	有・民	古宮神社の獅子頭	39	池上	古宮神社	-
231	市	有・民	上之村神社のフリマンドウ	-	上之	上之村神社	-
232	市	有・民	上久下の数珠付鉦一口	39	久下	久下上区八坂神社氏子	-
233	市	有・民	彌生町屋台	43	弥生	熊谷うちわ祭彌生町区	(25)
234	市	無・民	上川原神道香取流棒術	83	小島	上川原神道香取流棒術保存会	(38)
235	市	無・民	池上獅子舞	83	池上	池上獅子舞保存会	(39)
236	市	無・民	東別府祭ばやし	83	東別府	東別府祭ばやし保存会	(10)
237	市	無・民	地藏尊御詠歌	85	永井太田	太田新田地蔵念仏保存会	(16)
238	市	無・民	下恩田ささら獅子舞	84	下恩田	下恩田ささら獅子舞保存会	(13)
239	市	無・民	手島八木節笠踊	84	手島	手島楽友会	(14)
240	市	無・民	津田新田おしっさま	85	津田新田	津田新田自治会	(15)
241	市	無・民	相上神楽	85	相上	相上神楽保存会	(17)
242	市	無・民	津田初午まつり	85	津田	西明寺	(18)

No	区分	種別・種類	名 称	頁	所 在 地	所有者(管理者)	マツ 番号
243	市	無・民	大杉神社祭礼行事	86	葛和田	大杉神社祭礼行事保存会	①9
244	市	無・民	間々田万作おどり	86	間々田	間々田万作おどり保存会	②0
245	市	無・民	熊谷木遣	84	本町	熊谷木遣保存会	②①
246	市	無・民	今井の廻り地藏	84	今井	今井の廻り地藏保存会	②②
247	市	無・民	小江川獅子祭り	87	小江川	小江川獅子保存会	②③
248	市	無・民	成沢屋台囃子	87	成沢	成沢屋台囃子保存会	②④
249	市	無・民	須賀広秋祭り「ササラ」	87	須賀広	須賀広秋祭り「ササラ」保存会	②⑤
250	市	無・民	板井屋台囃子	87	板井	板井屋台囃子保存会	②⑥
251	市	無・民	上新田屋台囃子	86	上新田	上新田屋台囃子保存会	②⑦
252	市	無・民	押切ささら獅子舞	88	押切	押切ささら獅子舞保存会	②⑧
253	市	無・民	熊谷八坂神社祭礼行事(熊谷うちわ祭)	88	本町ほか	熊谷八坂神社祭礼行事保存会	②⑨
254	市	記・史	陣屋跡	70	本町	熊谷市	⑦①
255	市	記・史	札の辻跡	70	本町	熊谷市	⑦②
256	市	記・史	本陣跡	70	本町	個人	⑦③
257	市	記・史	一里塚	70	新島	国(熊谷市)	⑦④
258	市	記・史	玉井四郎の墓	71	玉井	玉井寺	⑦⑤
259	市	記・史	元素楼跡	71	玉井	個人	⑦⑦
260	市	記・史	奈良三郎の墓	71	上奈良	妙音寺	⑦⑧
261	市	記・史	行人塚古墳	73	成沢	熊谷市	⑧⑥
262	市	記・史	成田氏の墓	72	上之	龍淵寺	⑦⑨
263	市	記・史	竹井澹如翁碑	72	万平町	熊谷市	⑧⑦
264	市	記・史	大塚古墳	72	大塚	熊野神社	⑧①
265	市	記・史	西別府館跡	72	西別府	熊谷市ほか	⑧②
266	市	記・史	成田氏館跡	73	上之	熊谷市ほか	⑧③
267	市	記・史	西別府祭祀遺跡	73	西別府	湯殿神社	⑧④
268	市	記・史	横塚山古墳	73	中奈良	個人	⑧⑤
269	市	記・史	荻野吟子生誕の地	75	俵瀬	熊谷市・荻野吟子生誕之地保存会	⑨①
270	市	記・史	権田愛三墓	-	東別府	個人	-
271	市	記・史	天野氏の墓	74	上中条	常光院	⑧⑦
272	市	記・史	斎藤別当実盛館跡	75	西野	熊谷市・斎藤別当実盛館跡史跡保存会	⑨⑦
273	市	記・史	殉職された避難病院看護婦の墓	-	小泉	常永寺	-
274	市	記・史	亀井の井戸	71	相上	熊谷市(熊谷市教育委員会)	⑦⑤
275	市	記・史	寺門静軒の墓	-	青山	個人	-
276	市	記・史	小島直次郎の墓	-	相上	個人	-
277	市	記・史	三餘堂跡	-	青山	個人	-
278	市	記・史	一本松跡	-	上恩田	個人	-
279	市	記・史	竹井澹如墓	-	大原	個人	-
280	市	記・史	林有章墓	-	大原	個人	-
281	市	記・史	酒井天外墓	-	大原	個人	-
282	市	記・史	両宜塾跡	74	妻沼	個人	⑧⑨
283	市	記・史	高根横穴墓	74	小江川	個人	⑧⑧
284	市	記・史	寺内古代寺院跡	69	柴	個人他	⑦⑦
285	市	記・史	権現坂埴輪窯跡群(西群)	69	千代	個人	⑥②
286	市	記・名	星溪園	76	鎌倉町	熊谷市(熊谷市教育委員会)	⑨②
287	市	記・名	三尻観音山	78	三ヶ尻	龍泉寺	⑨③
288	市	記・名	華山築庭園	78	押切	個人	⑨④
289	市	記・名	中の洲	78	小八林	個人	⑨⑥
290	市	記・名	切れ所	78	小泉	個人他	⑨⑤
291	市	記・天	椎の木	79	ハッロ	長昌寺	⑨⑧
292	市	記・天	樅	80	拾六間	徳蔵寺	⑩①
293	市	記・天	いぬ桜	81	三ヶ尻	個人	⑩⑥
294	市	記・天	くろがねもち	80	肥塚	個人	⑨⑨
295	市	記・天	いちいがし	80	拾六間	徳蔵寺	⑩①
296	市	記・天	柳	82	新堀新田	個人	⑩⑤
297	市	記・天	無患子	81	東別府	香林寺	⑩②
298	市	記・天	伽羅木	81	原島	養平寺	⑩③
299	市	記・天	鈴懸の木	82	末広	県立熊谷女子高校	⑩⑦
300	市	記・天	樅	81	中奈良	国性寺	⑩④
1	国登録		坂田医院旧診療所	25	妻沼	熊谷市	①⑥
2	国登録		日本聖公会熊谷聖パウロ教会礼拝堂	26	宮町	熊谷聖パウロ教会	①⑦
3	国登録		日本聖公会熊谷聖パウロ教会門	26	宮町	熊谷聖パウロ教会	①⑦

編集後記

本書の作成にあたっては、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、埼玉県立きたま史跡の博物館、埼玉県立歴史と民俗の博物館及び熊谷市文化財保護審議会委員からの助言・協力を得ております。画像については、熊谷市・熊谷市教育委員会が所有するものを使用したほか、北 熊市氏、富田直子氏、後藤典子氏からの提供・協力を得ました。

解説等については、概要や経緯、歴史的解釈、建立年など諸説ある内容を含む項目もあります。今後の考証に向けて、誤謬や解釈などの御指摘や御教示を頂けると幸いです。

この度の刊行にあたり文化財所有者各位には多くの御協力を頂き、厚く感謝申し上げます。また、本書の編集・執筆に際しての資料提供者各位の御協力に対しましても、心より感謝申し上げます。

■ 出典・参考文献

- ・「熊谷市文化財台帳(旧市町含む)」(各記載内容)
- ・熊谷市文化連合『熊谷の文化財』1978年
- ・妻沼町教育委員会『妻沼町の文化財』1994年
- ・熊谷市立熊谷図書館『私たちの郷土新編 熊谷の歴史』2008年
- ・熊谷市立熊谷図書館『1市3町合併記念―新市誕生―指定文化財』2009年
- ・江南町教育委員会『江南町史』(各編・後掲)
- ・大里町教育委員会『大里町史』(各編・後掲)
- ・江南町教育委員会『江南町の文化財』2003年
- ・国書刊行会『ふるさとの思い出 写真集 明治・大正・昭和 熊谷』1978年
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館『刻まれた鼓動 歓喜院聖天堂の建築彫刻』2005年
- ・根岸友山・武香顕彰会『根岸友山・武香の軌跡』2006年
- ・日下部朝一郎『石仏入門』(熊谷市郷土文化会)1965年
- ・熊谷市史編纂委員会『熊谷市史』前編1980年
- ・熊谷市史編さん室『熊谷市史』通史編1984年
- ・熊谷市立熊谷図書館『新市誕生―指定文化財』2009年
- ・熊谷市立熊谷図書館『郷土の雄・熊谷次郎直実』2010年
- ・黒田基樹『武蔵成田氏』(論集戦国大名と国衆七) 岩田書院2012年
- ・江南町史編さん委員会『江南町史』資料編二 古代・中世 1998年
- ・江南町史編さん委員会『江南町史』通史編上 2004年
- ・江南町教育委員会『江南町の板碑』2003年
- ・埼玉県『埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告書』(1990年復刻)
- ・埼玉県『新編埼玉県史 資料編』三 古代一奈良・平安1984年
- ・埼玉県『新編埼玉県史 資料編』四 古代二 古文書・記録1983年
- ・埼玉県『新編埼玉県史 資料編』五 中世一古文書一 1982年
- ・埼玉県『新編埼玉県史 通史編』一 原始・古代 1987年
- ・埼玉県『新編埼玉県史 通史編』二 中世 1988年
- ・埼玉県『新編 埼玉県史』別編2 民俗2 1980年
- ・埼玉県『埼玉県史 別編四』年表・系図 1991年
- ・埼玉県教育委員会『埼玉県板石塔婆調査報告書』1981年
- ・妻沼町教育会・妻沼町教育委員会『妻沼町誌』(『妻沼町誌 全』)1995年再刊
- ・埼玉県『武蔵国郡村誌』第9巻、第10巻 1953年
- ・大里村『大里村かたり草』(1978年 復刻版1998年)
- ・埼玉県神職会大里郡支部編『大里郡神社誌』1984年
- ・埼玉県『荒川』人文 III 荒川総合調査報告書 4 1988年
- ・奈良原春作編『ふるさとの思い出 写真集 明治大正 昭和 妻沼』国書刊行会 1981年
- ・熊谷市指定無形民俗文化財パンフレット『伝統芸能の世界今昔物語』2013年
- ・藤間憲一・山下祐樹『熊谷うちわ祭の歴史』熊谷八坂神社祭礼行事保存会 2015年
- ・群馬県教育委員会『群馬県近世社寺建築緊急調査報告書』1979年
- ・埼玉県教育委員会『埼玉の近世社寺建築一埼玉県近世社寺建築緊急調査報告書』1984年
- ・熊谷市教育委員会『熊谷市指定文化財「根岸家長屋門」保存修理工事報告書』2012
- ・宗教法人歓喜院『歓喜院聖天堂保存修理工事報告書』(本文編・図版編) 2011年
- ・鈴木充『日本の美術201江戸建築』至文堂 1983年
- ・大河直躬『権現造りと建築彫刻』佛教藝術学舎編『仏教芸術170』毎日新聞社 1987年
- ・奈良国立文化財研究所『近世社寺建築の研究』1~3 1988-1992年
- ・濱島正士『寺社建築の鑑賞基礎知識』至文堂 1992年
- ・窪寺茂『江戸の装飾建築 近世における建築の解放』INAX 1994年

熊谷市誕生10周年記念事業・熊谷市文化財ガイドブック

発行日 平成28年(2016) 3月18日

編集・発行 熊谷市教育委員会(熊谷市立江南文化財センター)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

Mail c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

「熊谷デジタルミュージアム」

<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

デザイン・印刷 こばやしデザイン工房

熊谷市誕生 10 周年記念事業



発行 / 熊谷市教育委員会